

VoIP ROUTER
SR-8000V

はじめに

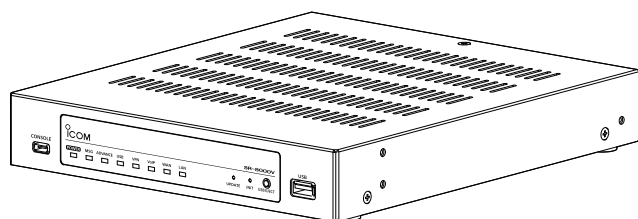
1 ご使用になる前に

2 導入ガイド

3 保守について

4 ご参考に

本書では、導入時に必要な基本的な説明を記載しています。
また、設定画面の各項目については、取扱説明書 [活用編] に記載
していますので、必要に応じてご覧ください。



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IP電話対応のVoIPルーターです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

不正アクセス対策についての重要なお知らせ

下記のような環境でご使用になる場合、容易に推測できるパスワードを本製品に設定すると、正規利用者になりすまして本製品にアクセスし、パソコンやIP電話回線などが不正に利用される危険性があります。

◎本製品をインターネット(サービスプロバイダー)に接続して利用している

◎本製品のVoIPルーター機能により、本製品が対応するIP電話機を利用している

本書の表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

「 」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[]表記：キー、ランプ、ポート、各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

< >表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

※ 本書は、SR-8000V Ver.1.07のファームウェアを使用して説明しています。

※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。

※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」と表記しています。

※ 本書では、IP100H、IP110H、IP200H*、IP200PG*を「WLAN無線機」と表記しています。

★IP電話機モードの説明では「IP電話機」と表記しています。

※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、マイクロソフト企業グループの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複製/転用することは、禁止されています。

本ソフトウェア、および本ドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

はじめに

本製品の概要について

- ◎本製品の子機として、WLAN無線機やIP電話機、対応端末^{★1}を最大300台まで登録できます。
 - ※2022年10月現在、IP100H、IP110H、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。
 - ★1 本製品の[TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機を含めると、最大304台まで使用できます。
- ◎本製品に接続されたアナログ電話機、IP電話機や対応端末同士で内線通話や内線転送ができ、IP電話回線を使用して外線通話^{★2}ができます。
 - ★2 外線番号を最大300件、同時通話数を150チャンネルまで対応しています。
- ◎本製品が対応するIP電話回線は、NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」^{★3}です。
 - ★3 ひかり電話サービスは、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直収とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。
- ◎IP電話機用に登録する共通電話帳(最大900件)とグループ電話帳(最大100件)は、IP電話機起動時に、IP電話機本体の電話帳に自動転送されます。
- ◎Peer to Peer (SIPサーバーを経由しない1対1の通話)の発信で使用するVoIP電話帳には、相手先電話番号を最大3000件まで登録できます。
- ◎留守番電話機能を搭載していますので、不在時に応答メッセージ^{★4}を流し、相手の用件を録音できます。
 - ※録音できるのは、最大90件で、1件あたりでは最大120秒まで録音できます。
 - ★4 応答専用モードでは3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。
- ◎市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに接続することで、留守番電話メッセージの保存、オリジナル保留音やオリジナルおまたせメッセージ、オリジナル音声の本製品への読み込み、ファームウェアの更新、設定の保存/復元ができます。
- ◎100BASE-TX/1000BASE-T/2.5GBASE-Tの自動切り替えに対応しています。
- ◎ポートの極性について、MDI(ストレート) /MDI-X(クロス)を自動判別します。
- ◎ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。
- ◎IPフィルター機能を搭載していますので、アクセス制限ができます。
- ◎本製品は、免許不要・資格不要です。

取り扱い上のご注意

- ◎本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。
 - 本製品が原因で発生したいかなる損害についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎パソコンやその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
- ◎次に示す内容をよくお読みになってから、本製品の設定ファイルや弊社ホームページ<https://www.icom.co.jp/>より提供されるアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。
 - 本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎本製品が原因で発生した債務不履行、または不法行為に基づく損害賠償の責任は、当社に故意、または過失のある場合を除いて、本製品の購入代金と同等金額を上限といたします。
- ◎本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修理、または瑕疵のない同一製品、もしくは同等品に交換いたしますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責任は一切負いません。

はじめに

出荷時のおもな設定値

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	IPアドレス	IPアドレス設定	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定	DHCPサーバー	有効
ルーター設定	WAN接続先	回線種別設定	回線種別	使用しない
管理	管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID	admin(変更不可)
			現在のパスワード	—

※上記以外の設定値については、取扱説明書[活用編]をご覧ください。

※本製品の管理者用ID(admin)は、変更できません。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにされることをおすすめします。

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」と弊社ホームページに掲載の下記取扱説明書(PDFファイル)で構成されています。

ご使用になる前に(別紙)

本製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を説明しています。

また、本製品の初期化操作など、保守についても説明しています。

取扱説明書[導入編](本書)

本製品の基本的な方法について、本書を最初からお読みいただくことで、設定や設置の作業ができるように構成しています。

取扱説明書[活用編](PDF)

本製品に設定できる詳細な機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

ユーザー画面設定マニュアル(PDF)

ユーザー画面で設定できる機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

WLAN無線機導入ガイド(PDF)

コントローラー機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

はじめに

関連ソフトウェアについて

(2022年10月現在)

下記のように、弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェアをご用意しています。

※これらのソフトウェアは、機能の拡張や改良のため、アップデートすることがあります。更新作業をする前に、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

CS-IP200H

IP200Hをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200Hがあります。弊社ホームページに掲載の「CS-IP200H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがってIP200Hに付属のUSBケーブルを接続してください。

CS-IP200PG

IP200PGをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200PGがあります。弊社ホームページに掲載の「CS-IP200PG取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがってIP200PGに付属のUSBケーブルを接続してください。

はじめに

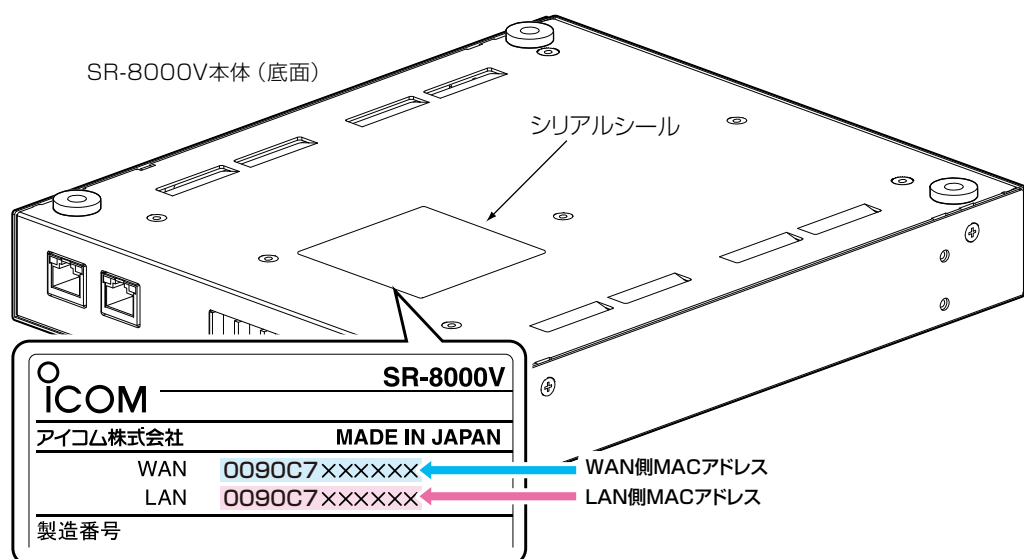
本体MACアドレスが必要なときは

本体MACアドレス(機器固有の番号)は、本製品底面のシリアルシール(下図)に12桁で記載されています。

本製品をインターネットに接続してご使用になる場合、ご契約の接続業者、またはプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品)がそれぞれ独自に持っているWAN側MACアドレス(機器固有の番号)を、ご契約の接続業者、またはプロバイダーに対して事前申請を必要とする場合があります。

そのような場合、申請、および登録が完了するまで、本製品を利用してインターネットに接続できません。

※LAN側のMACアドレスではありませんのでご注意ください。



※MACアドレスの記載位置は、お買い上げの製品によって若干異なる場合があります。

ご参考

上記のMACアドレスは、設定画面でも確認できます。(取扱説明書[活用編])

この章では、
本製品のおもな機能などを説明しています。

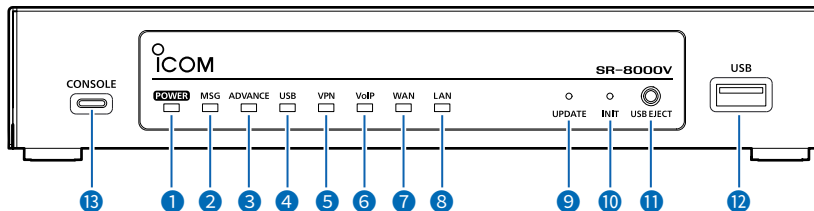
1. 各部の名称と機能	1-2
■ 前面部	1-2
■ 後面部	1-5
■ 側面部	1-6
2. おもな機能について	1-7
■ IP電話 (VoIP) 機能について	1-7
■ PBX機能について	1-7
■ 留守番電話機能について	1-7
■ 無線機コントローラーについて	1-8
■ ルーター機能	1-8
■ VPN機能	1-8
3. 接続や設置について	1-9
■ マグネットの取り付け	1-9
4. 設定のしかた	1-10
■ 設定に使うパソコンを接続する	1-10
■ 設定画面にアクセスするには	1-11
■ 設定画面の名称と機能について	1-12
■ 設定画面の表示について	1-13
■ 本体IPアドレスを変更するときは	1-15

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。



- ① [POWER] ランプ
 - 緑点灯 : 動作中
 - ☀ 緑点滅 : 起動中
 - ☀ 赤点滅 : UID表示
 - 消 灯 : 電源OFF時
 - ※電源投入時、すべてのランプが点滅(赤→緑)します。
 - ※起動中、[POWER]ランプは緑点灯→緑点滅→緑点灯の順で遷移します。

- ② [MSG] ランプ
 - 緑点灯 : オンライン更新(ファームウェア更新あり)
 - ☀ 緑点滅 : 初期化動作移行中
 オンライン更新(ファームウェアダウンロード中)
 - 消 灯 : 上記以外

- ③ [ADVANCE] ランプ
 - 緑点灯 : WLAN無線機が1台以上登録(レジスト)時
 - 消 灯 : 上記以外

- ④ [USB] ランプ
 - 緑点灯 : USBメモリー接続時
 - ☀ 緑点滅 : USBメモリーアクセス中
 - 赤点灯 : USBメモリーからの設定読み出しや、ファームウェアアップデート失敗
 - 消 灯 : USBメモリー未接続時/取りはずし準備完了

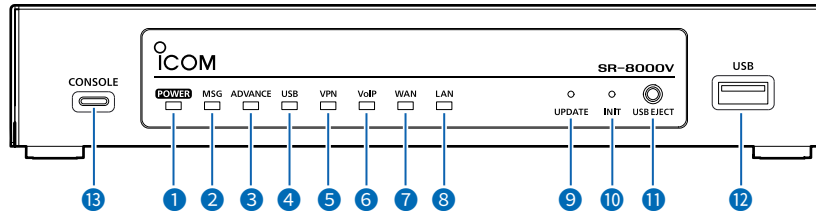
- ⑤ [VPN] ランプ
 - 緑点灯 : IPsecトンネル接続確立時(1つ以上)
 - 消 灯 : 接続未確立時/VPN未設定時/設定無効時

- ⑥ [VoIP] ランプ
 - 緑点灯 : IP回線接続成功時(全エントリー)
 - ☀ 緑点滅 : 通話中(1通話以上)
 ※接続失敗中の通話は緑点滅
 - ☀ 赤点滅 : IP回線接続失敗時(1エントリー以上)
 - 消 灯 : 未登録時/接続試行中

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部

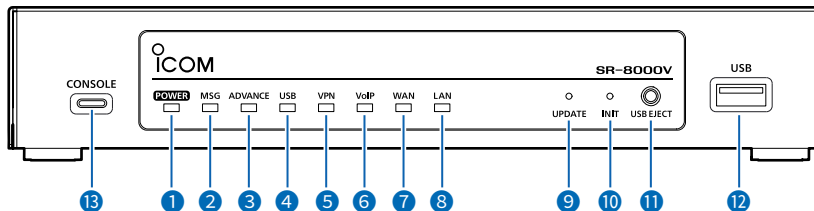


- 7 [WAN]ランプ……………
- 緑点灯：WAN接続完了
PPP確立時(PPPoE)
IPアドレス取得成功(DHCPクライアント)
 - ☀ 赤点滅：認証エラー(PPPoE)
IPアドレス取得失敗(DHCPクライアント)
 - 消 灯：上記以外
- 8 [LAN]ランプ……………
- 緑点灯：LAN接続時
 - 消 灯：上記以外
- 9 <UPDATE>ボタン……………
- 最新ファームウェアがあるとき、[MSG]ランプ(2)が点灯(緑)から点滅(緑)に切り替わるまでボタンを押して、ファームウェアを更新します。
※ペン先などを利用して押してください。
- 10 <INIT>ボタン……………
- 設定を初期化するときに使用します。(P.3-4)
※ペン先などを利用して押してください。
- 11 <USB EJECT>ボタン……………
- [USB]ポート(12)に接続したUSBストレージデバイスを取りはずすときは、[USB]ランプ(4)が点灯(緑)から消灯に切り替わるまでボタンを押します。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



- 12 [USB]ポート 設定復元やファームウェアの更新などで使用するUSBメモリー(市販品)を差し込むポートです。
(USB3.0)
また、無線機への通話録音をUSB経由で外部ストレージに保存できます。
※あらかじめ、USBデバイス内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。
※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
※すべてのUSBデバイスでの動作を保証するものではありません。
- 13 [CONSOLE]ポート 本製品の設定にターミナルソフトウェアを使用するとき、USBケーブル(市販品)を接続します。
(USB Type-C)
※本製品とパソコンをUSBケーブルで接続し、ご使用していただくために必要なUSBドライバーおよびインストールガイドについては、弊社ホームページからダウンロードできます。(下記参照)
※USBケーブル(Type-C)、ターミナルソフトウェアは、別途ご用意ください。

USBドライバーのダウンロードについて

本製品の[CONSOLE]ポートは、弊社ネットワーク機器用のUSBドライバーで動作します。
弊社ホームページのサポート情報(サポート情報→法人のお客様→ダウンロード)から、USBドライバーをダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報
<https://www.icom.co.jp/support/business/>

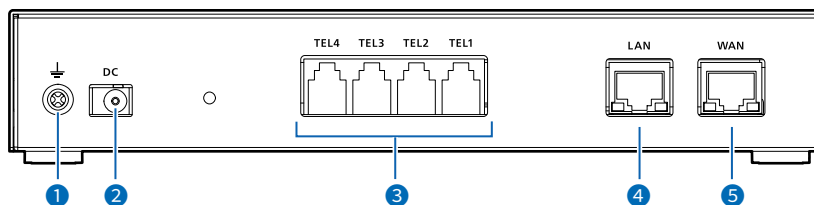
※弊社ホームページからのダウンロード手順については、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 後面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。



- ① アース端子 市販のアース線を接続します。
- ② DCジャック 本製品に付属のACアダプターを接続します。
- ③ [TEL](1～4)ポート
(RJ-11型) アナログ電話機やG3ファクシミリを接続します。
- ④ [LAN]ポート HUBなどのネットワーク機器と接続します。
(RJ-45型)

ランプ表示



点灯: 接続時
点滅: データ通信中
① 緑色: 1000BASE-T/2.5GBASE-T時
② 橙色: 100BASE-TX時

- ⑤ [WAN]ポート ADSL、VDSL、CATVでお使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお
(RJ-45型) 使いの回線終端装置と接続します。

ランプ表示



点灯: 接続時
点滅: データ通信中
① 緑色: 1000BASE-T/2.5GBASE-T時
② 橙色: 100BASE-TX時

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 側面部

接続各部について説明します。



① セキュリティースロット ………

市販のセキュリティーワイヤーで本製品を固定するときに使用します。

セキュリティーワイヤーを固定してから、本製品のセキュリティースロットに取り付けてください。

※取り付け方法については、ご使用になるセキュリティーワイヤーの取扱説明書をご覧ください。

※セキュリティーワイヤーには、シリンダーヘッド部の横からワイヤーが出るものと、上から出るものがあります。

ご利用の環境に応じたセキュリティーワイヤーをご用意ください。

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ IP電話(VoIP)機能について

本製品に接続したアナログ電話機、IP電話機や対応端末からIP電話回線を使用して、外線通話^{★1}ができる機能です。本製品が対応するIP電話回線は、NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」^{★2}です。

★1 外線番号を最大300件、同時通話数を150チャンネルまで対応しています。

★2 ひかり電話サービスには、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタ입、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直収とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。

■ PBX機能について

本製品の子機として、[TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機とは別に、IP電話機や対応端末を最大300台まで登録できます。

※2022年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。

■ 留守番電話機能について

不在時に指定した応答メッセージが流れ、相手の用件を録音できます。

内部メモリーに録音できるのは、最大90件(留守電ボックスの合計)、USBメモリーに録音できるのは、最大3000件(各留守電ボックス100件)で、1件あたり最大120秒まで録音できます。

※応答専用モードでは、3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。

※出荷時や全設定初期化時、本製品の留守番電話機能は「無効」に設定されています。

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ 無線機コントローラーについて

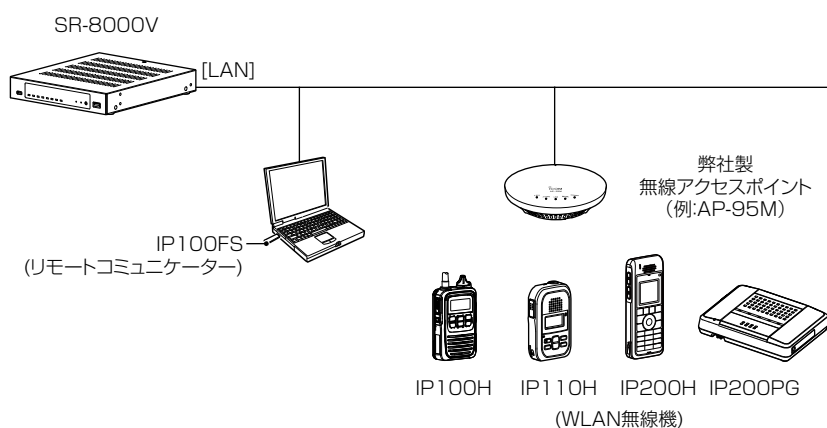
WLAN無線機を制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。

※WLAN無線機を最大300台登録できます。

※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。

※2022年10月現在、弊社製IP100H、IP110H、IP200H、IP200PG、IP100FSが使用できます。

詳しくは、「WLAN無線機導入ガイド」をご覧ください。



■ ルーター機能

本製品のルーター機能を使用すると、本製品に接続したパソコンや機器からインターネットに接続できます。

※お使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置を本製品の[WAN]ポートに接続します。

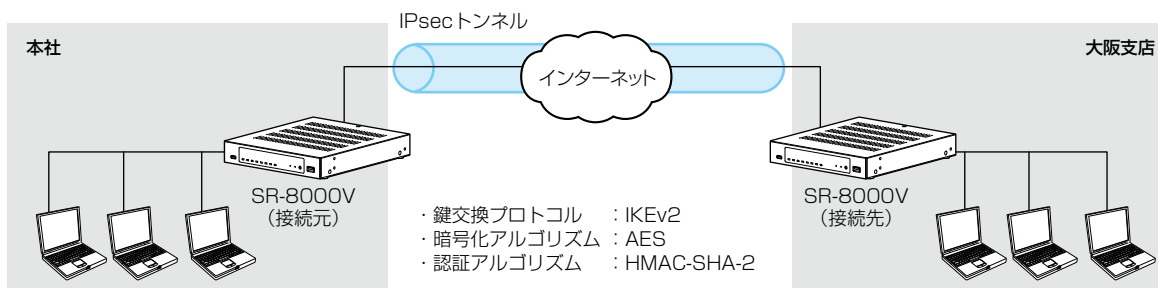
※ご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって、回線種別(DHCPクライアント/PPPoE/固定IP)を設定してください。

■ VPN機能

VPN(Virtual Private Network)機能を使用すると、インターネット上の2地点を暗号化通信で接続して、仮想的なネットワークを構成できます。

※本製品のVPN機能は、AP-9500、SR-7100VN、VE-PG4と互換性があります。(2022年10月現在)

※接続先に合わせて、IPsecトンネルを登録してください。(取扱説明書[活用編])



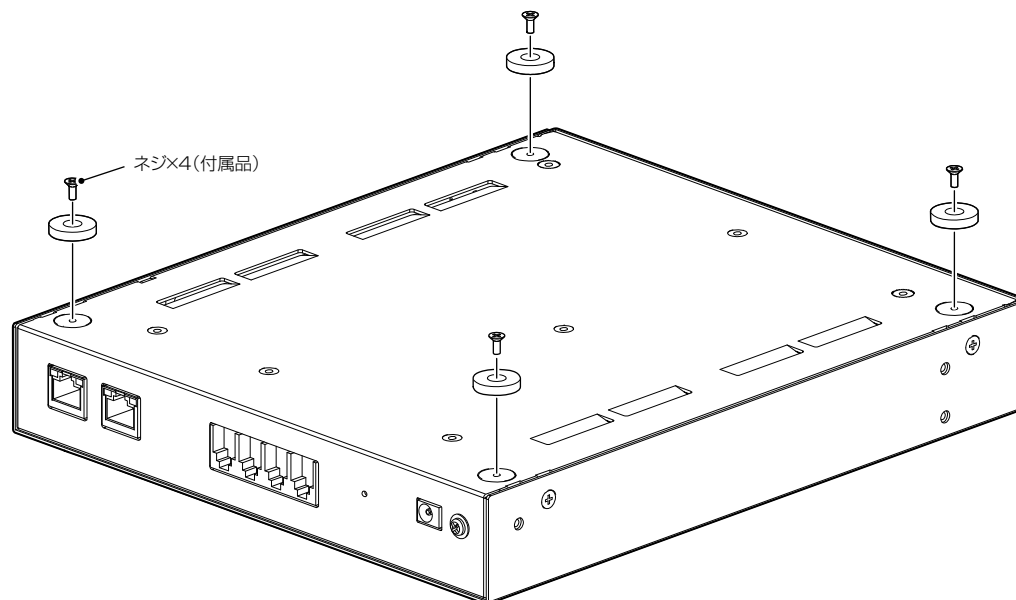
1 ご使用になる前に

3. 接続や設置について

■ マグネットの取り付け

付属のマグネットを図のように底面部に取り付けると、本製品を固定できます。

※6mmより長いネジは、絶対に使用しないでください。



ご注意

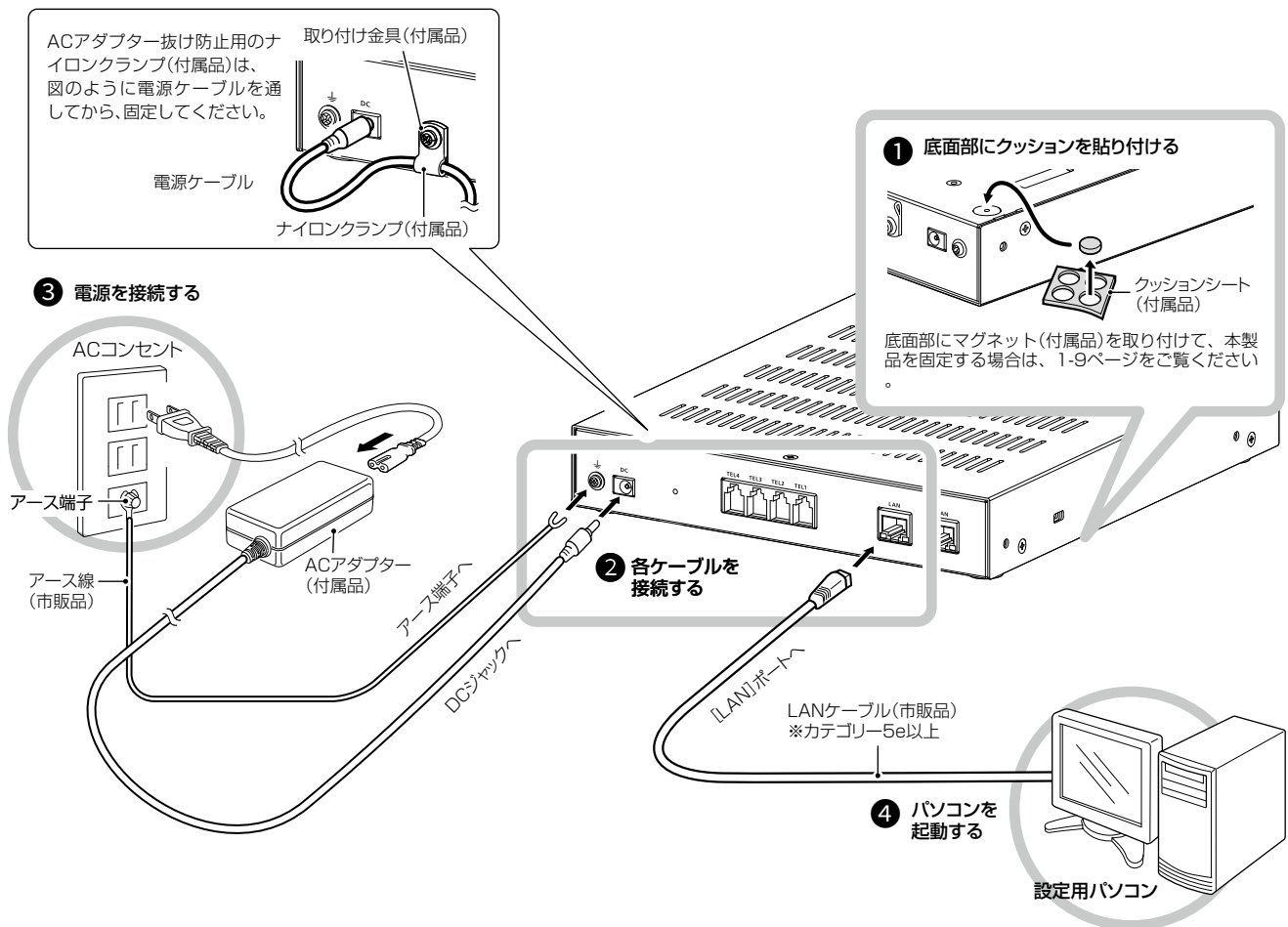
- ◎マグネットで、指を挟まないようご注意ください。
- ◎心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位に近づけたり、当てたりしないでください。電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。
- ◎時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定に使うパソコンを接続する

出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」、DHCPサーバー機能は「有効」に設定されています。
出荷時の状態で接続するときは、本製品に接続するパソコンを既存のネットワークから切りはなしてください。



⚠ 警告

- ◎本製品のアース端子を、ガス管や水道管には絶対に接続しないでください。
- ◎落雷したときの電氣的ショックの緩和、感電やノイズの回り込みを防止するため、本製品のアース端子は、市販のアース線を使用して、コンセントのアース端子、または地中に埋めたアース棒(市販品)に必ず接続してください。

1 ご使用になる前に

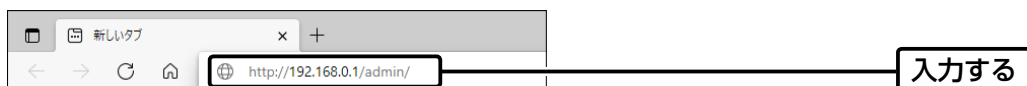
4. 設定のしかた

■ 設定画面にアクセスするには

本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、本製品の設定画面にアクセスする手順について説明します。

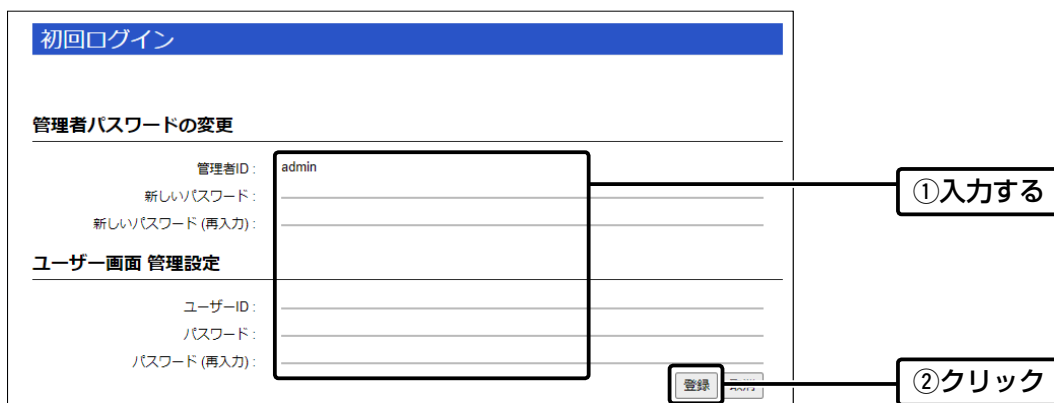
1 WWWブラウザを起動します。

2 WWWブラウザのアドレスバーに「192.168.0.1/admin/」を入力します。
出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」に設定されています。

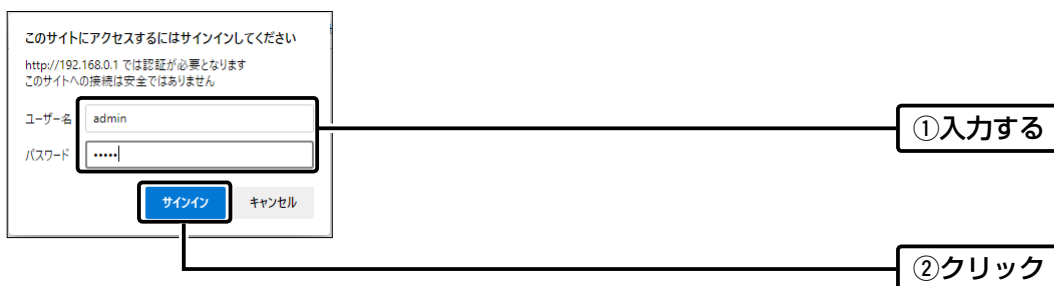


3 [Enter]キーを押します。
初回ログイン画面が表示されます。

4 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で各項目を入力して、〈登録〉をクリックします。
サインイン画面が表示されます。



5 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に手順4で設定したパスワードを入力し、〈サインイン〉をクリックします。
通常の設定画面に切り替わります。



※次回以降のアクセスでは、ユーザー名(admin)と設定したパスワードを入力してください。

※管理者パスワードを忘れた場合は、工場出荷時(初期値)の状態に戻す必要があります。

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定画面の名称と機能について

設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、4-6ページをご覧ください。



※説明には、「IPアドレス」画面を使用しています。

- ① 設定画面選択メニュー …………… 各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせてクリックすると、そのメニューに含まれる設定画面へのリンクが表示されます。
- ② 設定画面表示エリア …………… [設定画面選択メニュー](①)で選択したメニューに含まれる設定画面へのリンク(例：ネットワーク設定/IPアドレス)をクリックしたとき、その内容が表示されます。
- ③ 設定ボタン …………… 設定した内容の登録や取り消しをします。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定画面の表示について

WWWブラウザのウィンドウサイズによって表示方法が異なります。
ウィンドウの幅を狭くすると、メニューが折りたたまれ「≡」が表示されます。
さらに狭くすると項目がすべて縦に表示されます。
ご使用になるパソコンの画面サイズに合わせて調整してください。

設定画面：大

ICOM SR-8000V VoIP ROUTER

TOP
▼ 情報表示
▼ ネットワーク設定
IPアドレス
DHCPサーバー
スタティックルーティング
ポリシールーティング

IPアドレス

本体名称
本体名称: SR-8000V

IPアドレス設定
IPアドレス: 192.168.0.1

設定画面：中

≡ ICOM SR-8000V VoIP ROUTER

IPアドレス

本体名称
本体名称: SR-8000V

IPアドレス設定

設定画面：小

≡ ICOM SR-8000V VoIP ROUTER

IPアドレス

本体名称
本体名称: SR-8000V

IPアドレス設定

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定画面の表示について

「≡」をクリックすると、折りたたまれたメニューが表示されます。



1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

ネットワーク設定 > IPアドレス > IPアドレス設定

■ 本体IPアドレスを変更するときは

本製品のIPアドレスを変更するときは、既存のネットワークと重複しないように設定します。

- 1 「ネットワーク設定」メニュー、「IPアドレス」の順にクリックします。
- 2 「IPアドレス」画面で、「IPアドレス設定」項目の設定を変更し、「登録」をクリックします。

本体名称

本体名称: SR-8000V

IPアドレス設定

IPアドレス: 192.168.0.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: _____

プライマリ-DNSサーバー: _____

セカンダリ-DNSサーバー: _____

登録

- 3 設定変更後、「設定画面に戻る」と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。(P.1-11)
※IPアドレスの「ネットワーク部(例: 192.168.0)」を変更したときは、設定に使用するパソコンの「ネットワーク部」についても本製品と同じに変更します。

IPアドレスの割り当てかた

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。

出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。

「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。

以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭、および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾、および「255」)を割り当てない

この章では、

IP電話機をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	2-2
■ 設定の流れについて	2-2
2. 光通信回線と接続するには	2-4
■ 回線終端装置 (ONU) / メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話 (網直収)]	2-4
■ 回線終端装置 (ONU) / メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話 (GW 配下)]	2-4
3. 内線電話の構築について	2-5
■ 電話機などの接続について	2-5
■ 電話機の登録について	2-6
■ 特番設定	2-8
■ 電話機の設定	2-9
4. KX シリーズの電話機について	2-10
■ ご使用になるまでの流れ	2-10
■ 固定 IP アドレスでご使用になる場合は (KX-UT シリーズ)	2-11
■ 固定 IP アドレスでご使用になる場合は (KX-HDV シリーズ)	2-12
■ 本製品以外の DHCP サーバーをご使用になる場合は (KX-UT シリーズ)	2-13
■ 本製品以外の DHCP サーバーをご使用になる場合は (KX-HDV シリーズ)	2-14
■ 電話機の WEB 画面でプロビジョニング保守を設定するには	2-15
■ 電話機のボタン機能について (KX-UT シリーズ)	2-16
■ 発信操作について (KX-UT シリーズ)	2-18
■ 着信操作について (KX-UT シリーズ)	2-18
■ 保留 / 転送操作について (KX-UT シリーズ)	2-18
■ 電話機のボタン機能について (KX-HDV シリーズ)	2-19
■ 発信操作について (KX-HDV シリーズ)	2-21
■ 着信操作について (KX-HDV シリーズ)	2-21
■ 保留 / 転送操作について (KX-HDV シリーズ)	2-21
■ 電話機の操作について	2-22

IP200H/IP200PGの初期設定について

IP200H、IP200PGをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200H、CS-IP200PG(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)があります。本製品に内線子機として登録したあと、内線番号、保守サーバー接続設定(本製品)などをIP200H、IP200PGごとに設定してください。

※弊社ホームページに掲載の各取扱説明書をよくお読みいただき、手順にしたがって製品に付属のUSBケーブルを接続してください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

1. ルーター機能設定

ご利用の環境に合わせて、管理者用の「IPアドレス」画面でLAN側のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を設定します。

※出荷時、本製品のルーター機能のWAN動作モードは、「使用しない」に設定されています。

ひかり電話(網直収)に加えてインターネットをご利用になる場合は、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目で「PPPoE」を選択します。
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録」をクリックします。
- ③「回線状態表示」項目で「接続」をクリックします。

ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は、「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面で「ひかり電話(GW配下)」を選択して、「登録」をクリックしてから、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目で「DHCPクライアント」を選択します。
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録」をクリックします。
- ③「回線状態表示」項目に接続状況が表示されます。

※ひかり電話(GW配下)に加えてインターネットをご利用になる場合は、本製品と接続されたNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのインターネット接続設定が必要です。

2. 電話回線設定

本製品に接続するIP回線のIP電話番号を設定します。

3. PBX設定

次の手順で内線番号などを設定して、ご使用になる端末を本製品の内線子機として登録します。

「基本」画面/「特番」画面

保留音、留守番電話機能、TELポートの通信中転送、特別番号を設定します。

※出荷時、本製品の留守番電話機能、TELポートの通信中転送は、「無効」に設定されていますので、必要に応じて設定してください。

「内線個別」画面/「内線代表」画面/「着信」画面

本製品に内線子機として登録する端末の内線番号、プリセット発信時の外線選択設定、本製品に接続する端末の機種と留守電ボックス、外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別の選択、内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)などを設定します。

「電話機」画面/「電話帳」画面(KXシリーズ/IP200H/IP200PG)

IP電話機の機能(外線ボタン、機能ボタン)の割り当て、電話帳など、必要に応じて設定します。

(次ページにつづく)

設定の更新について

本製品で変更した設定を端末に反映させるためには、端末の再起動が必要な場合がありますので、ご注意ください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

4. 電話機の登録

PBX設定完了後、内線子機としてご使用になる端末側の内線設定をします。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

5. 着信拒否/転送先/留守番電話設定

必要に応じて、ユーザー用の設定画面で、着信を拒否する電話番号、転送先、留守番電話を使用する回線などを設定します。

※詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。

ご参考：ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は

2022年10月現在、NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの出荷時のIPアドレスは、192.168.1.1に設定されていますので、本製品のLAN側IPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)との重複はありませんが、将来的に、これらのゲートウェイ製品の仕様が変更されることもありますので、ご使用になる前に、ゲートウェイ装置の取扱説明書で、設定をご確認ください。ゲートウェイ装置のIPアドレスが本製品のLAN側IPアドレスと重複する場合は、ご使用になる前に、IPアドレス(サブネット)が異なるように、IPアドレス「aaa.bbb.ccc.ddd」の「ccc」部分を変更する必要があります。(ddd部分の変更では同一サブネットとなりLAN-WAN間の通信となりません。)

本製品側を変更する場合

「IPアドレス」画面で、本製品の「IPアドレス」、「DHCPサーバー」画面で自動割り当ての「割り当て開始IPアドレス」を変更します。

変更例：

LAN側IPアドレス ：192.168.24.1
DHCP開始IPアドレス ：192.168.24.2

ゲートウェイ側を変更する場合

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続したパソコンより、設定画面にアクセスして、「詳細設定」メニュー→「DHCPv4サーバ設定」画面で、下記のように変更します。

LAN側IPアドレス ：192.168.24.1/24
開始IPアドレス ：192.168.24.2

※操作方法については、ご使用になるホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの「機能詳細ガイド」をご覧ください。

ホームゲートウェイ配下で転送をご利用の場合

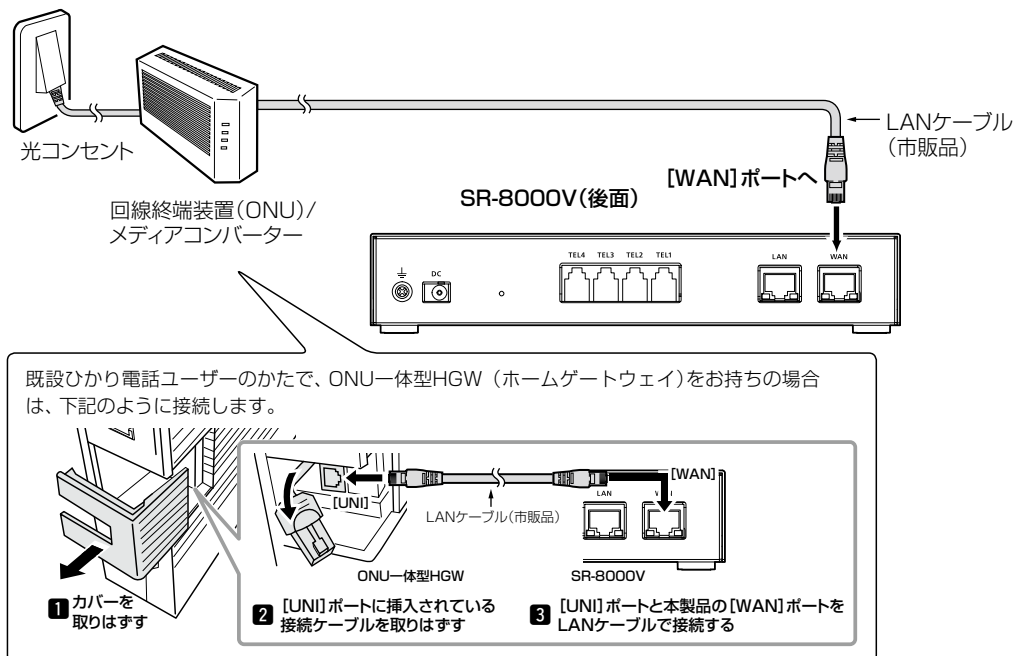
転送先によっては転送発信に失敗する場合があります。

2 導入ガイド

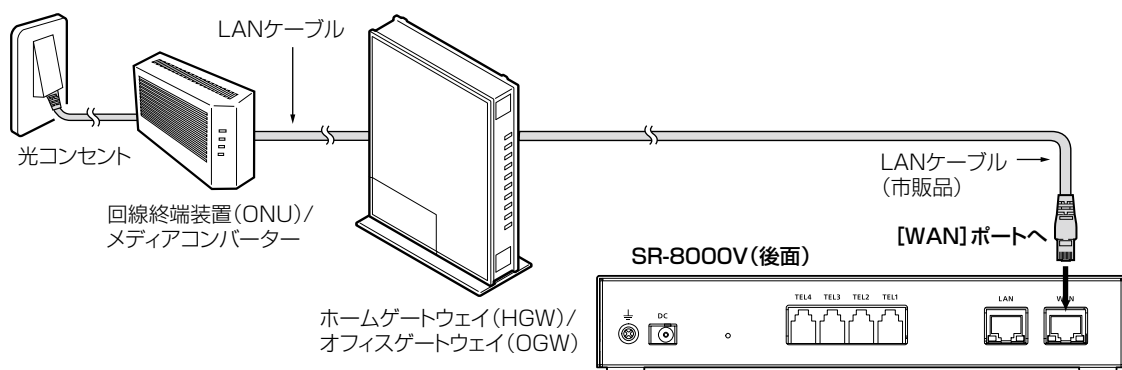
2. 光通信回線と接続するには

ご使用になる機器と本製品の[WAN]ポートをLANケーブルで接続します。

■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合【ひかり電話(網直収)】



■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合【ひかり電話(GW配下)】



2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

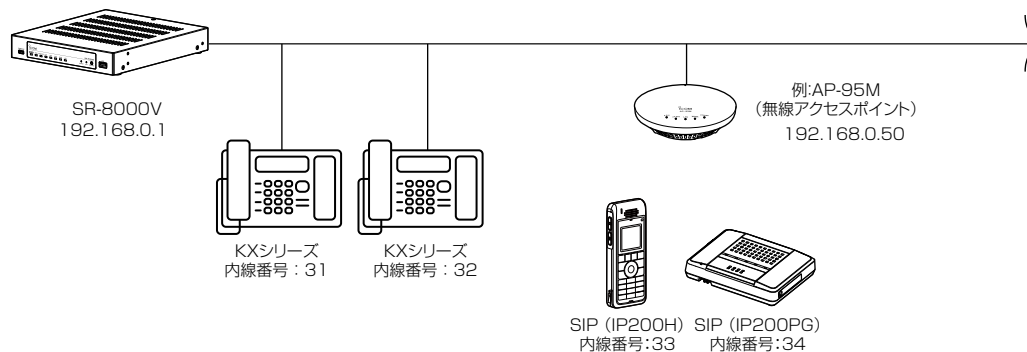
■ 電話機などの接続について

本製品に、IP電話機(SIPフォン)を最大300台まで登録できます。

※2022年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。

※ご使用になるIP電話機ごとに、「内線番号」の設定が必要です。

内線代表番号やプレフィクスなど、番号が重複しないように構築してください。



使用する端末に内線番号を設定するときは

◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。

◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。

◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。

※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になります。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX設定 > 内線個別

■ 電話機の登録について

登録する電話機ごとに内線番号を設定します。

- 1 「PBX設定」メニュー、「内線個別」の順にクリックします。
「内線個別」画面が表示されます。
- 2 「内線設定」項目で、登録する種別、名前、内線番号(2桁～7桁の番号)、パスワード、MACアドレスを設定して、〈登録〉をクリックします。

内線設定

種別:	KX-HDVシリーズ	▼
番号:	1	▼
名前:	受付1	
内線番号:	31	
パスワード:	..	
ユーザー画面の個別詳細設定:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
個別詳細設定のパスワード:	..	
個別詳細設定のパスワード変更:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
SIP外線へ内線番号表示:	しない	▼
IP回線:	捕捉しない	
Peer to Peer:	捕捉しない	
留守電ボックス:	ボックス1	
WAN側からの接続:	禁止	
MACアドレス:	XXXXXXXXXX	

※複雑なパスワードを推奨します

① 設定する

KX-HDVシリーズのMACアドレスを入力します。
※MACアドレスの確認方法については、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

② クリック

登録

- 3 「内線設定一覧」項目で、登録した内容を確認します。

内線設定一覧

すべて	番号	名前	内線番号	種別	設定グループ	共通項目の設定	詳細設定	
<input type="checkbox"/>	1	受付1	31	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	2	受付2	32	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	3	受付3	33	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	4	受付4	34	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	5		301	KX-HDVシリーズ	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	6		302	IP200H	設定グループ1	本製品の設定	内線個別詳細 電話機詳細	編集 削除

確認する

登録 取消 選択削除 全削除

使用する端末に内線番号を設定するときは

- ◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。
 - ◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
 - ◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
- ※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になれます。
※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX設定 > 内線個別

■ 電話機の登録について

内線一括設定/コピーについて

連番で内線番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの内線番号にコピーしたりできます。

内線一括設定

種別: 標準SIPフォン

一括登録: _____ ~ _____

指定した範囲の連番を内線番号として登録を行います。

内線設定コピー

設定コピー: コピー元: 302 (IP200H)

コピー先

すべて 31 (標準SIPフォン) 32 (標準SIPフォン) 33 (標準SIPフォン)
 34 (標準SIPフォン) 301 (KX-HDVシリーズ) 302 (IP200H)

コピーする設定項目

種別

SIP外線へ内線番号表示

IP回線

Peer to Peer

留守電ボックス

WAN側からの接続

電話機詳細設定

※種別もコピーされます。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

フレキシブルボタンのない電話機などで操作したり、内部処理をしたりするために割り当てる特別番号について設定します。

1 「PBX設定」メニュー、「特番」の順にクリックします。
「特番」画面が表示されます。

2 特番を設定して、「登録」をクリックします。
※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。
※任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で入力します。
※緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は使用しないでください。
※内線番号や内線代表番号と重複した数字は設定できません。
また、内線番号や内線代表番号、他の特番の冒頭部と重複した数字や記号も設定できません。

特番設定	
コールピックアップ:	*81
グループピックアップ:	**
指定ピックアップ:	*80
パーク保留:	*90
パーク応答:	*91
外線キー応答:	*92
音声呼出:	*83
不在転送:	*94
不応答転送:	*95
話中転送:	*96
外線着信転送の切替:	*97
昼夜切替:	*98
留守電の開始と停止:	*99
留守電の再生:	*84
回線閉塞の開始と停止:	*87
着信おまかせの開始と停止:	*86
システム特番:	*82 *93 *85 *88 *89
無線機呼出プレフィクス設定	
個別呼出:	*
グループ呼出:	#
全体呼出:	**

① 設定する

登録 **② クリック**

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX内線詳細設定 > IP200H

PBX内線詳細設定 > IP200PG

PBX内線詳細設定 > KX-UTシリーズ

PBX内線詳細設定 > KX-HDVシリーズ

■ 電話機の設定

設定グループごとに機能の割り当てなどを設定します。

※KX-HDVシリーズの場合を例に説明します。

- 1 「PBX内線詳細設定」メニュー、「KX-HDVシリーズ」の順にクリックします。
「KX-HDVシリーズ」画面が表示されます。

- 2 「設定グループの選択」欄で編集したい設定グループを選択します。

電話機設定

設定グループの選択: 設定グループ1
※変更すると、表示する設定グループが変更されます。

名前: _____

① 選択する

- 3 必要に応じて機能の割り当てをして、「登録」をクリックします。

機種共通設定 (設定グループ1)

ピックアップグループ番号: 01

コールピックアップ対象: 内線のみ

機能	設定	機能	設定
17	DNキー	DNキー	DNキー
16	DNキー	DNキー	DNキー
15	DNキー	DNキー	DNキー
14	DNキー	DNキー	DNキー
13	DNキー	DNキー	DNキー

登録

① 設定する

② クリック

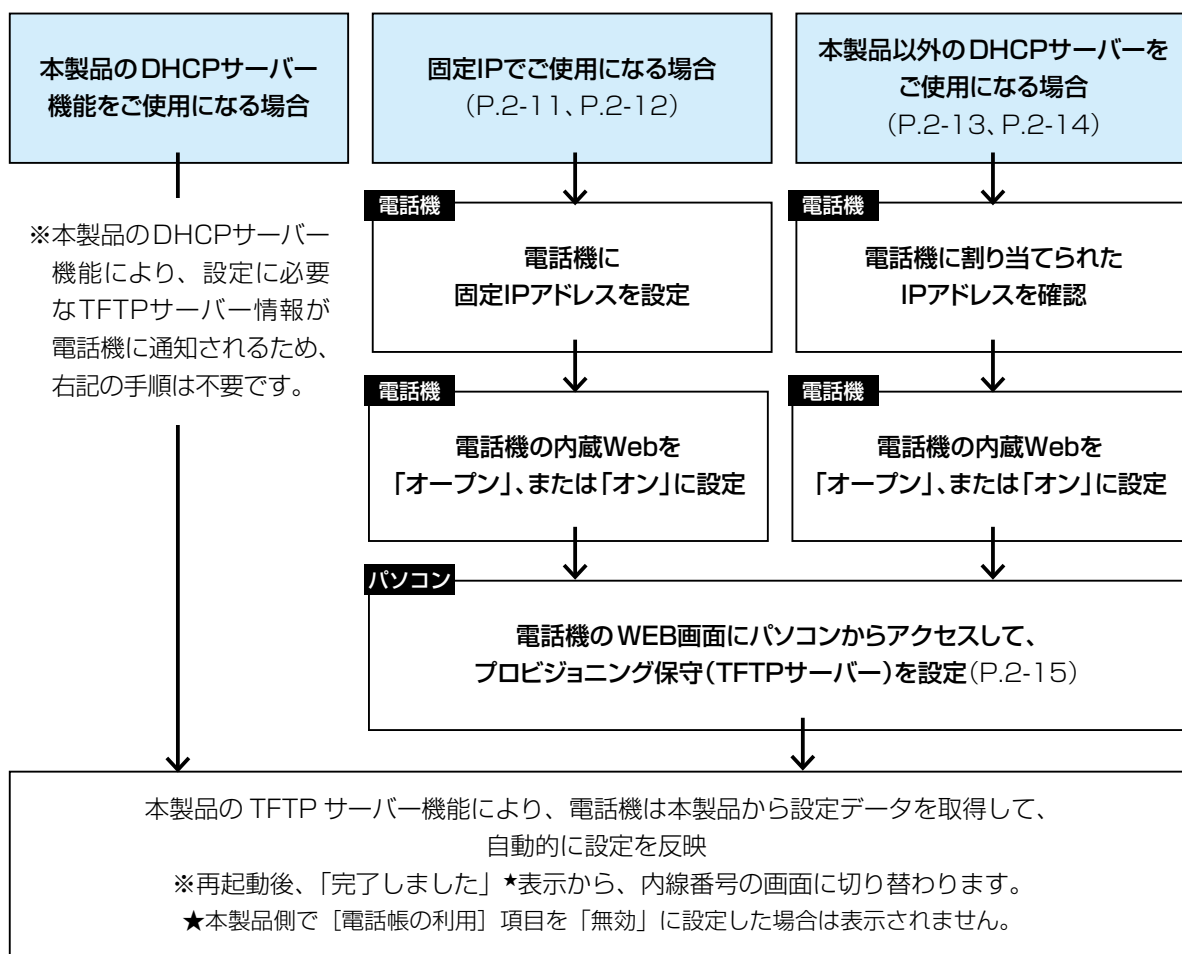
4. KXシリーズの電話機について

■ ご使用になるまでの流れ

本製品にKXシリーズの電話機を登録してご使用になる場合、下記のように接続するネットワーク環境により、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要になることがあります。

※本製品側で、ご使用になる電話機ごとのMACアドレス登録や内線番号などの設定が完了しているものとして説明しています。(P.2-6)

※電話機の操作や設定など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。



ご注意

- ◎初期導入時以外は、電話機のWEB画面で設定を変更しないでください。
- ※電話機のWEB画面で設定を変更した項目は、本製品から設定が適用されなくなります。
- ◎電話機のWEB画面にアクセスして「403 Forbidden エラー」が表示された場合は、内蔵Webで「クローズ」、または「オフ」を設定し、再度「オープン」、または「オン」にしてください。(P.2-11、P.2-12、P.2-13、P.2-14)
- ◎電話機のWEB画面にアクセスしたあとは、本製品からアクセスできるように電話機を再起動してください。

初期導入時に設定データを取得できないときは

- ◎電話機のMACアドレスが正しく登録されているか、本製品の設定画面で確認してください。(P.2-6)
- ◎KXシリーズの電話機を固定IPアドレスでご使用になる場合、または本製品以外のDHCPサーバーを使用する場合、ネットワーク環境によっては、設定データを取得できないことがあります。
- 同一ネットワーク上にあるDHCPサーバーと切りはなすか、電話機を初期化(P.2-15)してから、設定をやりなおしてください。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

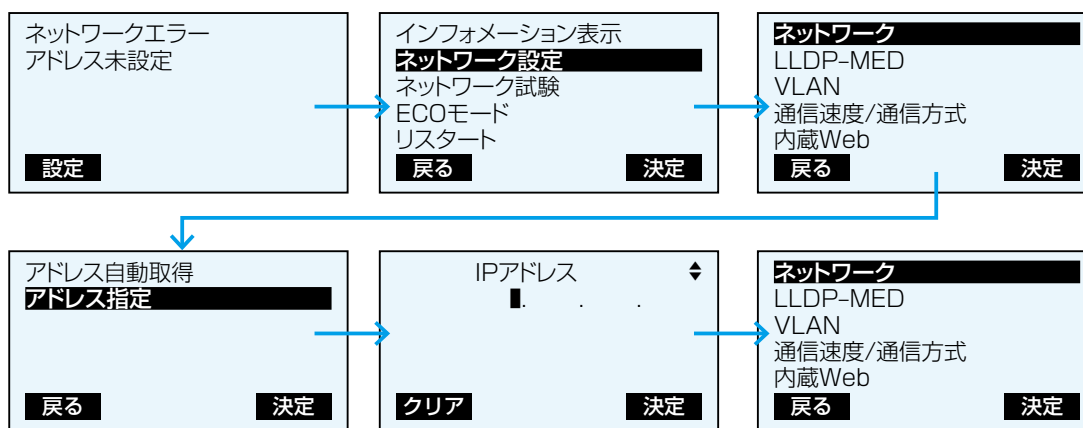
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

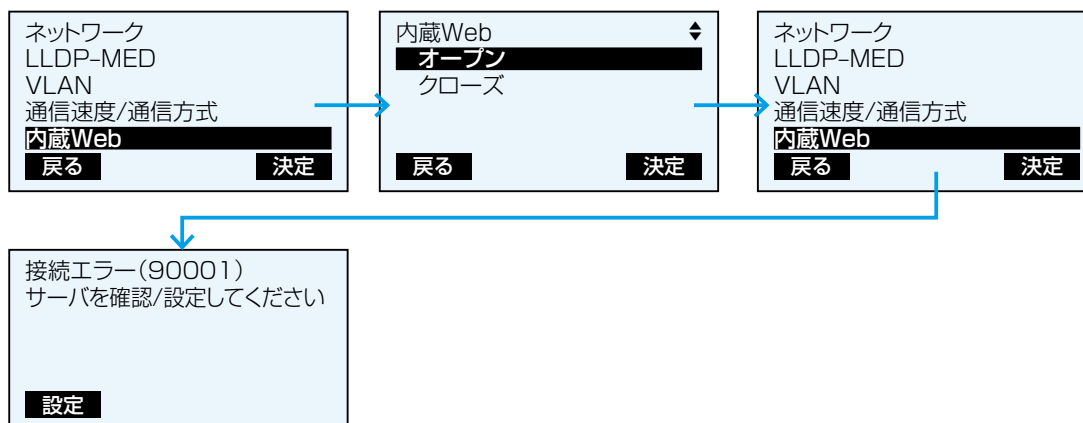
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ネットワーク」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 IPアドレス、サブネットマスク*などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

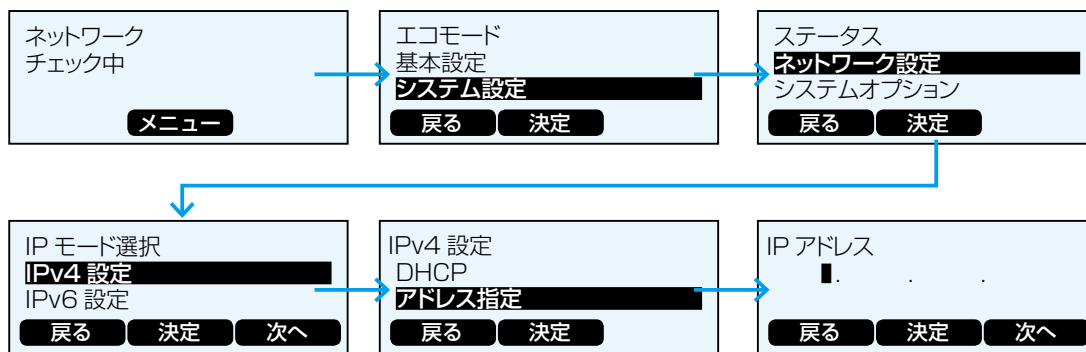
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機の操作、設定など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

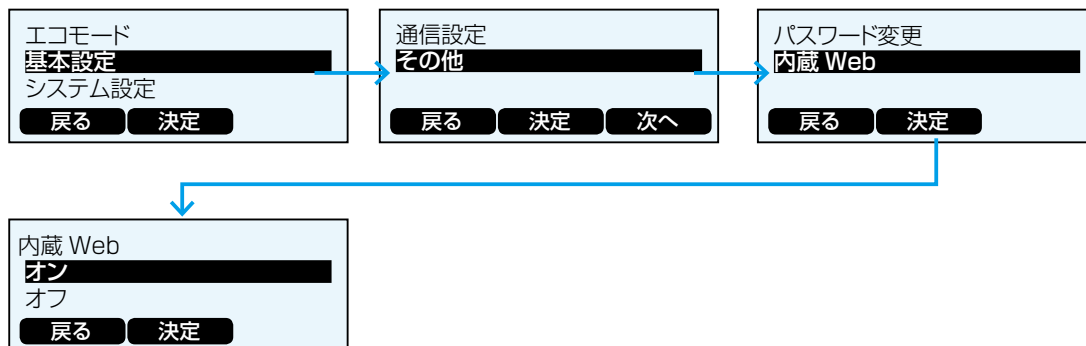
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈メニュー〉を押します。
- 2 「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 6 IPアドレス、サブネットマスク★などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

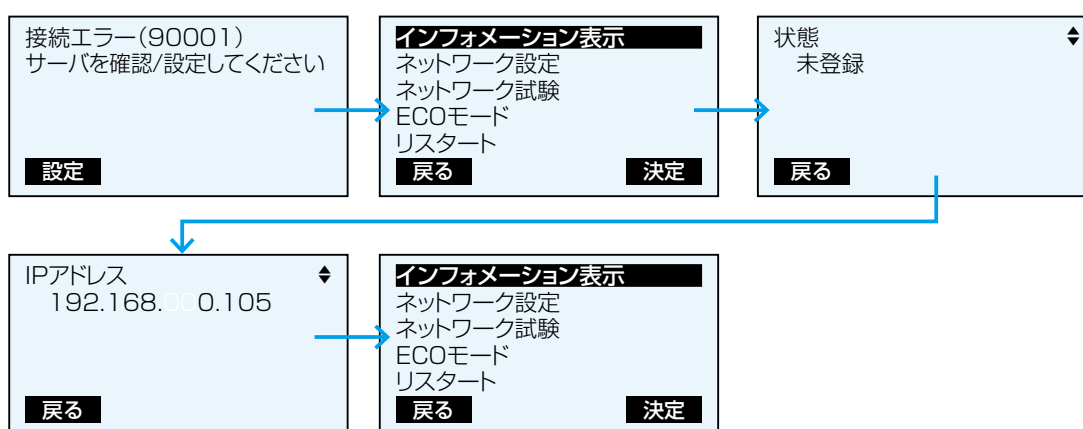
本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-UTシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-UTシリーズ)の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。

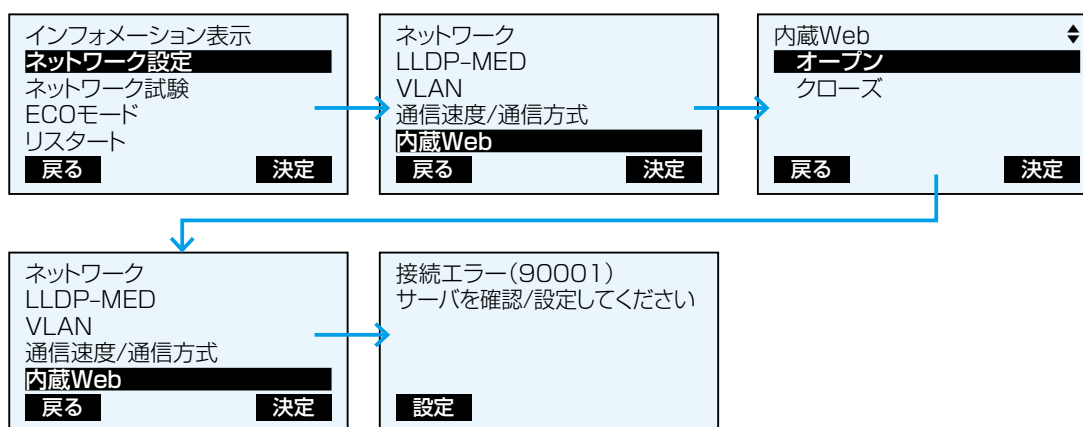
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「インフォメーション表示」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 カーソルキー(下)を押します。
- 4 IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。

※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)

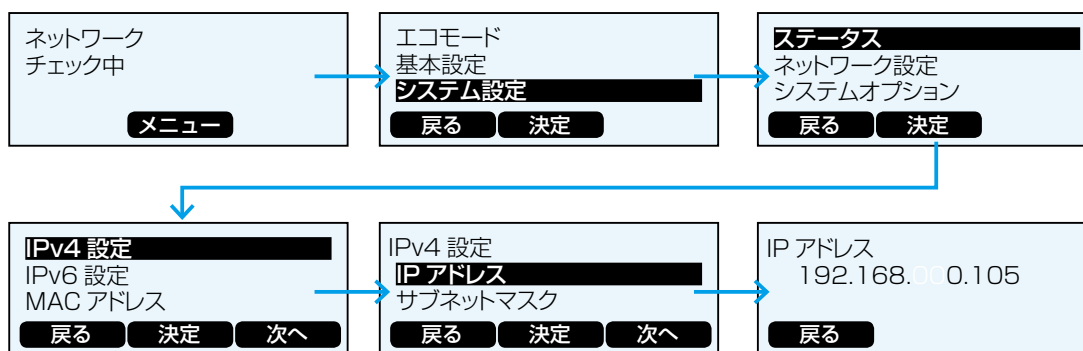
本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-HDVシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-HDVシリーズ)の操作、設定など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。

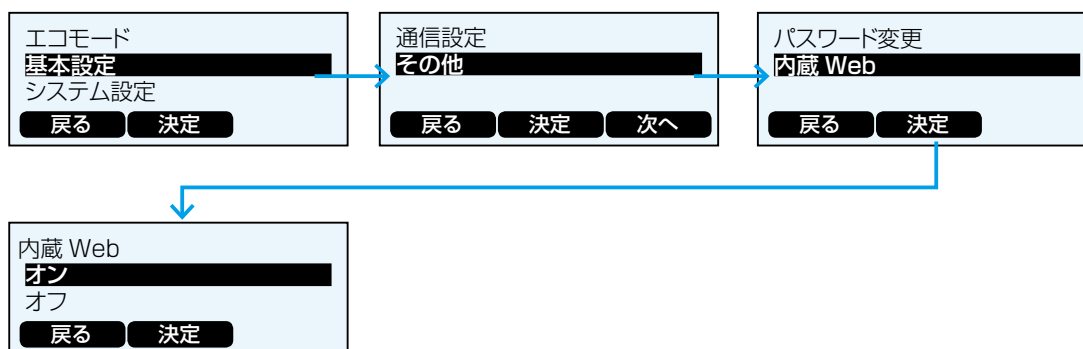
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ステータス」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 「IPアドレス」を選択して、〈決定〉を押します。
- 6 IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。

※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

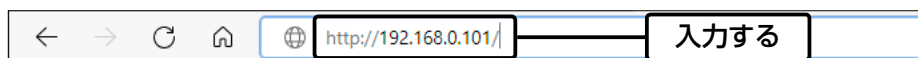
4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには

同じネットワーク上のパソコンから、電話機のWEB画面にアクセスして、プロビジョニング保守(TFTPサーバー)を設定します。

※電話機のWEB画面にアクセスするためには、電話機に設定されたIPアドレス(P.2-11～P.2-14)が必要です。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのアドレスバーに「http:// [電話機のIPアドレス]/」の形式で、電話機に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.101)を入力します。



- 3 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。
- 4 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「adminpass」を入力し、〈OK〉をクリックします。
電話機のWEB画面が表示されます。
- 5 WEB画面上部の[保守]タブをクリックします。
- 6 WEB画面左側の「プロビジョニング保守」をクリックします。
- 7 [スタンダードファイルURL]欄に、「tftp:// [本製品(TFTPサーバー)のIPアドレス]/{MODEL}_{MAC}.cfg」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.1)を入力し、〈登録〉をクリックします。
本製品から設定を自動的に取得するため、電話機本体が再起動します。

入力例 tftp://192.168.0.1/{MODEL}_{MAC}.cfg

↑
本製品のIPアドレス

電話機を工場出荷時の状態に戻す場合は

エラーが表示され、登録に失敗した場合は、下記の手順で電話機を初期化してください。

KX-UTシリーズ

- ①〈設定〉を押します。
- ②「#136」をダイヤルして、〈決定〉を押します。
- ③「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
- ④「実行しますか？」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します。

KX-HDVシリーズ

- ①〈決定〉を押します。
- ②「システム設定」を選択して〈決定〉を押します。
- ③「#136」をダイヤルしてます。
- ④「実行しますか？」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します。

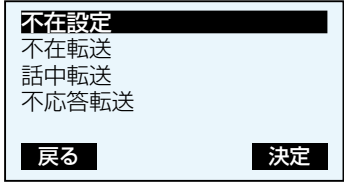
2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

不在 <input type="checkbox"/>	電話に応答できないときなど、あらかじめ不在設定しておく、着信を拒否できます。 ※「不在転送」、「話中転送」、「不応答転送」(右図)は使用できない機能です。 これらの機能を使用するときは、本製品で設定したフレキシブルボタンや特番を操作してください。(P.2-17)	
会議 <input type="checkbox"/>	3者会議通話をするときに使用します。 通話中に ^{会議} <input type="checkbox"/> 、または ^{保留} <input type="checkbox"/> を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 ^{会議} <input type="checkbox"/> を押します。	
フック <input type="checkbox"/>	通話中に押すと、通話を切断します。 ※転送操作中に ^{フック} <input type="checkbox"/> 、 ^{転送} <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
再ダイヤル <input type="checkbox"/>	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。	
メッセージ <input type="checkbox"/>	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。	
保留 <input type="checkbox"/>	通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。	
転送 <input type="checkbox"/>	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送操作中に ^{フック} <input type="checkbox"/> 、 ^{転送} <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
ミュート <input type="checkbox"/> 自動応答	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は ^{スピーカー/ヘッドセット} <input type="checkbox"/> が赤色に点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておく、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。	
戻る <input type="checkbox"/>	操作などを取り消すときに使用します。	
スピーカー/ヘッドセット <input type="checkbox"/>	受話器を置いたまま通話するとき、または電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。	

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-UT136Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-UT123Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能
DNキー	×	※KX-UT123Nでは内部で2つ固定割り当て
外線状態通知キー	×	
外線発信キー	○	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)
外線着信キー	×	
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))
不在転送切替	○	(不在転送特番)
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)
話中転送切替	○	(話中転送特番)
ヘッドセット	△	※KX-UT123Nではヘッドセット接続時有効
音声呼出	○	(音声呼出特番)

※各機能について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当され、追加設定はできません。
外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)
このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。
電話機ごとの操作については、本書2-22ページ～2-27ページでご確認ください。

KX-UT136Nで外線を捕捉するときは

KX-UT136Nに割り当てられた〈外線発信キー〉につづけて、電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、回線を捕捉して外線発信できます。

※外線発信時は、回線捕捉の設定が必要です。

ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、回線を設定してください。

※KX-UT136Nで、電話帳から発信する場合は、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-UTシリーズ)

1. ダイヤル発信する(P.2-22)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
 - 電話番号をダイヤルして受話器を上げる
- ※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2. ワンタッチで発信する(P.2-22)

- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
 - 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる
- ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3. 外線発信キーで発信する(P.2-22)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

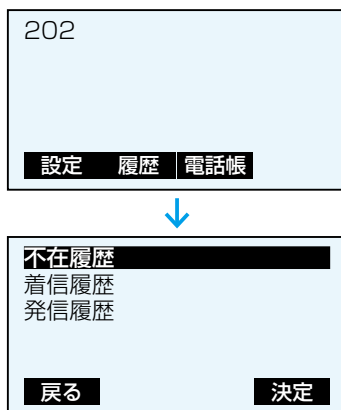
4. 電話帳から発信する(P.2-22)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5. 履歴から発信する

- ① 履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
- ② 相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-UTシリーズ)

1. 内線着信に回答する(P.2-24)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2. 外線着信に回答する(P.2-24)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す
※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3. 応答を拒否する

- 着信中に、拒否を押す
- ※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
- ※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4. 代理で応答する(P.2-26)

- 自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる
- ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。
- ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-UTシリーズ)

1. 自己保留する(保留/解除)(P.2-24)

- 通話中に、保留を押す
- 解除するときは、低速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2. 転送する(P.2-26)

- ① 通話中に、転送を押す
 - ② 転送先の電話番号をダイヤルする
 - ③ 応答確認後、実行を押す、または受話器を置く
- ※転送操作中にフック、転送の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

3. パーク保留/応答する(P.2-26)

- ① 通話中に、〈パーク〉を押す
- ② 低速点滅(緑■)のキー番号を確認する
- ③ 転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- ④ 転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

キャンセル □	操作などを取り消すときに使用します。 ※通話中に押すと、その通話を切断します。
会議 □	3者会議通話をするときに使用します。 通話中に ^{会議} □、または ^{保留} □を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 ^{会議} □を押します。
再ダイヤル □	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。
ミュート/ 自動応答 □	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は、画面に〈ミュート〉が点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておく、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。
ヘッドセット □	電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。
メッセージ □	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。
転送 □	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送先と通話中に ^{キャンセル} □を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 ^{キャンセル} □を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
保留 □	通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。
スピーカーホン □	受話器を置いたまま通話するときに使用します。
- 音量 + □	着信音量、ハンドセット音量、ヘッドセット音量、スピーカー音量を調整するときに使用します。
ライン1/P1 □	機能を割り当てて使用します。 電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン1に割り当てた機能が反映されます。 ※KX-HDV130Nにあるボタンです。
ライン2/P2 □	機能を割り当てて使用します。 電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン2に割り当てた機能が反映されます。 ※KX-HDV130Nにあるボタンです。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-HDV230Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-HDV130Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能
DNキー	×	※KX-HDV130Nでは、 <small>ライン1/P1</small> 、 <small>ライン2/P2</small> に「DNキー」、「通話転送」、「ブラインド転送」、「会議通話」、「未使用」設定時
外線状態通知キー	×	
外線発信キー	○	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)
外線着信キー	×	
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))
不在転送切替	○	(不在転送特番)
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)
話中転送切替	○	(話中転送特番)
通話転送	×	
ブラインド転送	×	
会議通話	×	
音声呼出	○	(音声呼出特番)

※各機能について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎KX-HDV130Nでは、ライン1/P1、ライン2/P2 にDNキー以外を割り当てた場合、内部にDNキーが2つ動作します。
また上記とは別に、内部にDNキー(保留/転送用)が1つ動作します。
※ ライン1/P1、ライン2/P2 にDNキーを割り当てても、DNキーは2つしか動作しません。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

増設ユニット(1～5)

- ◎増設ユニットを取り付けることで、使用するフレキシブルボタンを増やせます。(最大5台)
- ◎2台目以降は、フレキシブルボタンに割り当てられる機能は制限されています。(取扱説明書[活用編])

4. KX シリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-HDVシリーズ)

1. ダイヤル発信する(P.2-23)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
 - 電話番号をダイヤルして受話器を上げる
- ※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2. ワンタッチで発信する(P.2-23)

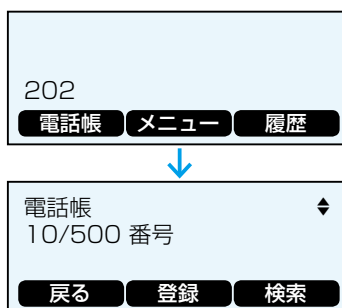
- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
 - 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる
- ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3. 外線発信キーで発信する(P.2-23)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

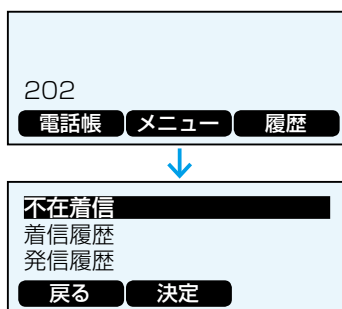
4. 電話帳から発信する(P.2-23)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5. 履歴から発信する

- ① 履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
- ② 相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-HDVシリーズ)

1. 内線着信に回答する(P.2-25)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に対応する場合)
- 高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す

2. 外線着信に回答する(P.2-25)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に対応する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す
※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3. 応答を拒否する

- 着信中に、拒否を押す
- ※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
- ※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4. 代理で応答する(P.2-27)

- 自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる
- ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。
- ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-HDVシリーズ)

1. 自己保留する(保留/解除)(P.2-25)

- 通話中に、保留を押す
- 解除するときは、低速点滅(青■)している〈DNキー〉、または〈外線着信キー〉を押す

2. 転送する(P.2-27)

- ① 通話中に、転送を押す
- ② 転送先の電話番号をダイヤルする
- ③ 応答確認後、実行を押す、または受話器を置く

3. パーク保留/応答する(P.2-27)

- ① 通話中に、〈パーク〉を押す
- ② 低速点滅(青■)のキー番号を確認する
- ③ 転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- ④ 転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作		KX-UT136N	KX-UT123N
発信	ダイヤル発信 (内線/外線) ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
	電話帳発信 (内線/外線)★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
	ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	—
	外線発信キー/ 外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	—
	短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
	履歴発信 (内線/外線)★1	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
発信	ダイヤル発信 (内線/外線) ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
	電話帳発信 (内線/外線)★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
	ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	ライン1/P1、ライン2/P2に「ワンタッチ」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	外線発信キー/ 外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	ライン1/P1、ライン2/P2に「外線発信キー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
	履歴発信 (内線/外線)★1	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-UT136N	KX-UT123N
着信	内線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)している<DNキー>を押す 	受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)
	外線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)している<外線着信キー>を押す ◎高速点滅(赤■)している<外線状態通知キー>、または高速点滅(緑■)している<DNキー>を押す 	受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)
	着信拒否	<p>あらかじめ^{不在}□を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しただけで<外線状態通知キー>は高速点滅(赤■)し、切断しません。</p>	<p>あらかじめ^{不在}□を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。</p>
通話保留 (自己保留)	通話中に ^{保留} □を押す	通話中に ^{保留} □を押す	
保留解除	保留中に低速点滅(緑■)している<DNキー>を押す	保留中に ^{保留} □を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。	

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
着信	内線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(青■)している<DNキー>を押す 	<ul style="list-style-type: none"> 受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	外線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(青■)している<外線着信キー>を押す ◎高速点滅(赤■)している<外線状態通知キー>、または高速点滅(青■)している<DNキー>を押す 	<ul style="list-style-type: none"> 受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「外線着信キー」、「外線状態通知キー」、「DNキー」のいずれかを割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	着信拒否	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ不在設定(<決定>キー⇒転送/不在⇒不在設定)を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しただけで<外線状態通知キー>は高速点滅(赤■)し、切断しません。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ不在設定(<決定>キー⇒転送/不在⇒不在設定)を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。
通話保留(自己保留)	<ul style="list-style-type: none"> 通話中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す 	<ul style="list-style-type: none"> 通話中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す 	
保留解除	<ul style="list-style-type: none"> 保留中に低速点滅(青■)している<DNキー>を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。 	<ul style="list-style-type: none"> 保留中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す ※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。 ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。 	

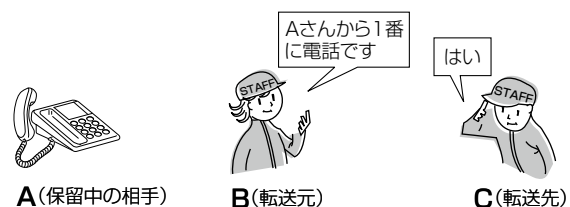
2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作	KX-UT136N	KX-UT123N
パーク保留* (保留特番：*90)	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に ^{転送} を押す ②「*90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③保留音を確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
パーク応答 (応答特番：*91)	伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する	「*91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101)
呼出転送	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送操作中に ^{フック} 、 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送操作中に ^{フック} 、 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 (コールピックアップ特番：*81)	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる












- ★パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
 ※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
 ※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



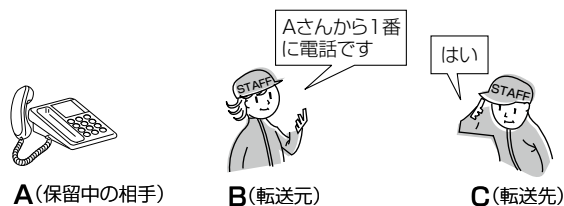
2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作	KX-HDV230N	KX-HDV130N
パーク保留* (保留特番：*90)	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(青■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に  を押す ②「*90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③保留音を確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える ※  、  に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
パーク応答 (応答特番：*91)	伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する	「*91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101) ※  、  に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
呼出転送	①通話中に  を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に  を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度  を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に  を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に  を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度  を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 (コールピックアップ特番： *81)	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

- ★ パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
 ※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
 ※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



この章では、

本製品の設定内容の保存、ファームウェアを更新する手順について説明しています。

1. 設定内容の確認または保存	3-2
2. 保存された設定の書き込み(復元)	3-3
3. 設定を出荷時の状態に戻すには	3-4
■ <INIT>ボタンを使用する	3-4
■ 設定画面を使用する	3-5
4. ファームウェアを更新する	3-6
■ ファームウェアについて	3-6
■ ファームウェアの更新についてのご注意	3-6
A) ファイルを指定して更新する	3-7
B) オンライン更新	3-8
C) <UPDATE>ボタンを使用して更新する	3-9
5. USBメモリーによる自動設定機能について	3-10
■ USBストレージデバイス使用時のご注意	3-11
■ 対応するUSBストレージデバイスの規格	3-11
■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた	3-12
■ 自動バックアップされる設定ファイルについて	3-12
■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには	3-13
■ オーディオファイルについて	3-14
6. USBメモリーから自動で設定を復元するには	3-16
■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順	3-16
7. USBメモリーからファームウェアを更新するには	3-18
■ 更新するまでの手順	3-18
8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには	3-20
■ オリジナル保留音の場合	3-20
■ オリジナルおまたせメッセージの場合	3-21
■ オリジナル音声の場合	3-22
9. USBメモリー用の認証キーを設定するには	3-23
■ 設定のしかた	3-23

3 保守について

1. 設定内容の確認または保存

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定画面で変更された内容を確認して、その内容を設定ファイル(拡張子:sav)としてパソコンに保存できます。
※保存した設定ファイル(拡張子:sav)は、本製品以外の製品では使用できません。
※設定を保存しておくことで、誤って設定内容が失われたときなどに利用できます。

1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。

「設定の保存/復元」画面が表示されます。

2 「設定の保存」項目の「保存」をクリックします。

設定の保存

設定の保存: クリック

設定の復元

設定ファイルの選択: ファイルが選択されていません

復元:

設定内容一覧

ipradio	call_tbl	call_id	15	1
ipradio	call_tbl	call_id	16	2
ipradio	call_tbl	call_id	17	1002
ipradio	call_tbl	call_id	18	1003
ipradio	call_tbl	call_id	19	1004
ipradio	call_tbl	call_id	20	1001

設定が変更された項目のみ表示します。

3 保守について

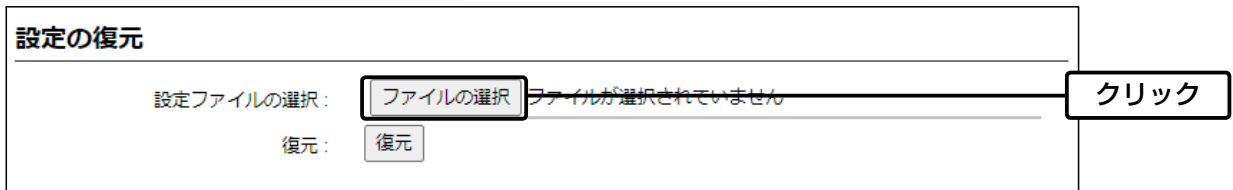
2. 保存された設定の書き込み(復元)

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定画面からパソコンに保存した設定ファイル(P.3-2)を本製品に書き込む手順を説明します。

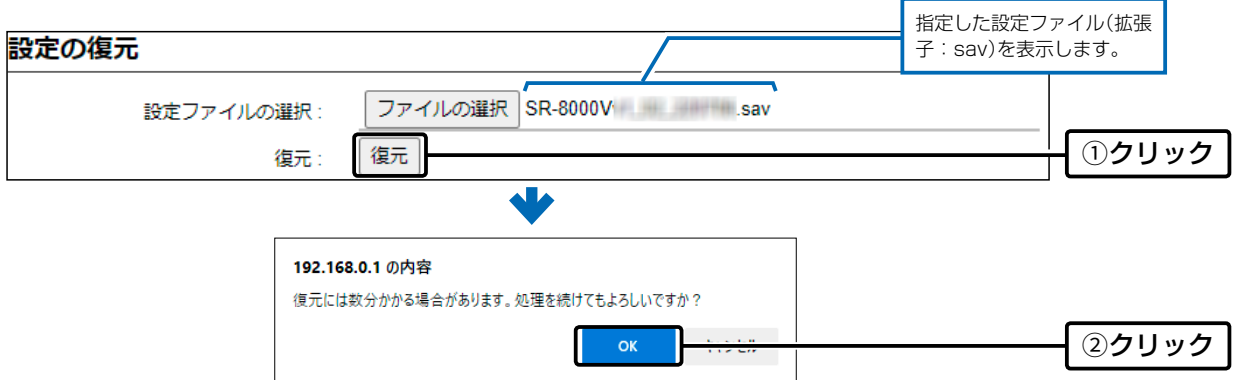
- 1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

- 2 「設定の復元」項目の〈ファイルの選択〉をクリックします。
「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)が表示されます。



- 3 「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)から、設定ファイル(拡張子:sav)を指定して、〈開く(O)〉をクリックします。
「設定ファイルの選択」欄のテキストボックスに、書き込む設定ファイルが表示されます。

- 4 〈復元〉をクリックします。
「設定データを復元しています。」が表示され、復元するために本製品が再起動します。



- 5 再起動後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。
設定画面に戻らないときは、復元中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)

設定ファイルについてのご注意

本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

ネットワーク構成を変更するときなど、既存の設定データをすべて消去して、設定をはじめからやりなおすときは、本製品の設定内容を出荷時の状態に戻せます。

そのときの状況に応じて、次の2とおりの方法があります。

■ 〈INIT〉ボタンを使用する

- 1 本製品からすべての機器を取りはずして、電源を入れる

[POWER]ランプの点灯を確認してから、手順2の操作を開始してください。

※ご使用の環境により、[POWER]ランプ以外の状態は異なります。

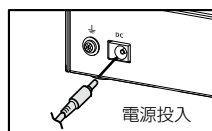
- 2 すべてのランプが ● 橙点灯するまで、〈INIT〉ボタンを押す

※〈INIT〉ボタンを押すと、[MSG]ランプが緑点滅します。

そのまま押しつづけると、すべてのランプが橙点灯します。

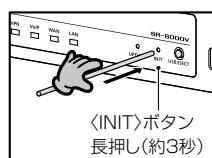
- 3 すべてのランプが ● 橙点灯したことを確認して、〈INIT〉ボタンから手をはなす

※[POWER]ランプが ● 緑点灯すると、初期化完了です。



ランプ表示

点灯(緑)



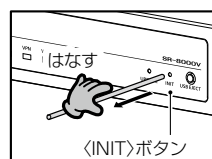
点灯(緑)



点滅(緑)

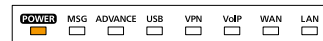


全点灯(橙)



全点滅(赤→緑)

点灯(橙)



点滅(緑)



点灯(緑)



ご注意

初期化すると、本製品のIPアドレスは、「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

3 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

管理 > 初期化

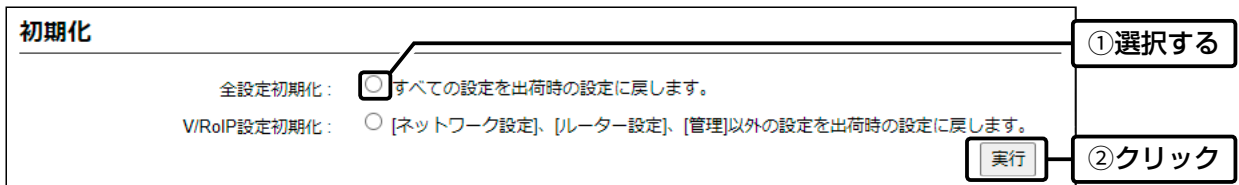
本製品に設定されたIPアドレスと管理者パスワードがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面から、すべての設定を出荷時の状態に戻せます。

IPアドレスと管理者パスワードが不明な場合などの初期化については、3-4ページをご覧ください。

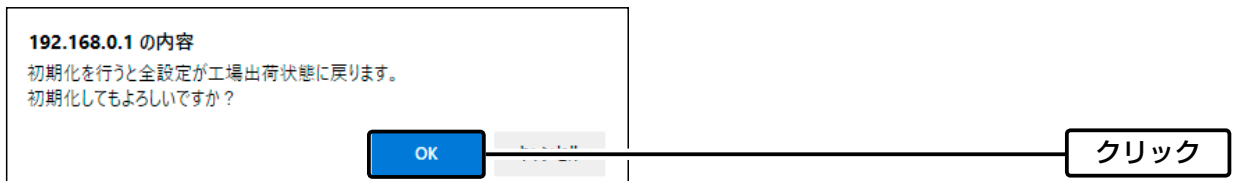
■ 設定画面を使用する

- 1 「管理」メニュー、「初期化」の順にクリックします。
「初期化」画面が表示されます。

- 2 初期化したい条件(例:全設定初期化)を選択して、「実行」をクリックします。



- 3 <OK>をクリックします。
出荷時の状態に戻すために、本製品が再起動します。



- 4 再起動完了後、「設定画面に戻る」と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。

初期化の条件について

◎全設定初期化をクリックした場合

本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

◎V/RoIP設定初期化をクリックした場合

「ネットワーク設定」メニュー、「ルーター設定」メニュー、「管理」メニュー以外で設定した内容だけを出荷時の状態に戻します。

初期化実行後、WLAN無線機、IP電話機が使用できなくなりますので、必要に応じて、設定してください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

本製品の設定画面からファームウェアを更新できます。

A ファイルを指定して更新する

オンライン更新できない環境では、あらかじめ弊社ホームページからダウンロードしたファームウェアを指定して、手動で更新できます。

B オンライン更新(P.3-8)

インターネットから本製品のファームウェアを最新の状態に自動更新できます。

C 〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する(P.3-9)

本体の〈UPDATE〉ボタンを押して、本製品のファームウェアを最新の状態に更新できます。

TOP

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップすることがあります。

更新を実行する前に、本製品の設定画面にアクセスして、「TOP」画面に表示されるバージョン情報を確認してください。ファームウェアを更新すると、機能の追加など、本製品を最良の状態にできます。

システム情報	
本体名称	SR-8000V
バージョン	SR-8000V-001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP100H)	001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP110H)	001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP200H)	001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP200PG)	001.001.001.001

バージョン情報

■ ファームウェアの更新についてのご注意

◎ 更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。

◎ ご使用のパソコンでファイアウォール機能が動作していると、更新できないことがあります。

更新できない場合は、ファイアウォール機能を無効にしてください。

◆ ファームウェアの更新結果については、自己責任の範囲となります。

次に示す内容をよくお読みになってから、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> から提供される本製品のアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。

本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

A ファイルを指定して更新する

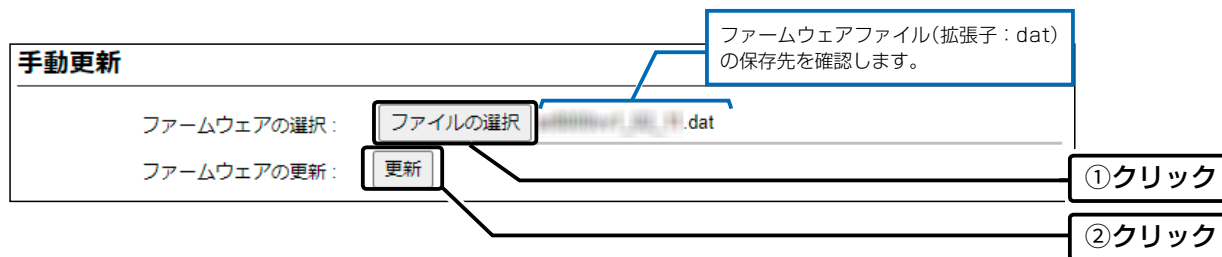
ファームウェアの更新を実行する前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.3-2)

※ 更新後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードするときには、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

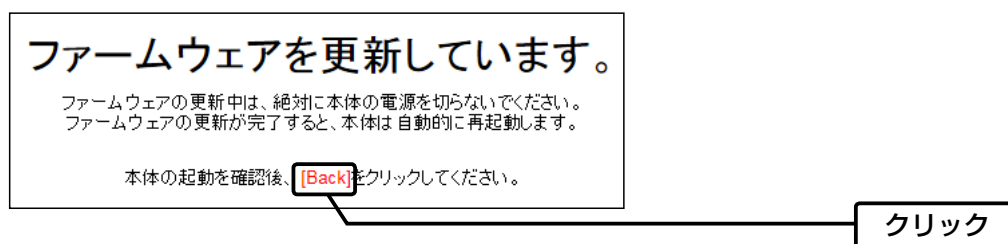
※ 日常、管理者以外の端末から更新できないように、設定画面へのアクセス制限の設定をおすすめします。(取扱説明書[活用編])

- 1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

- 2 下記のように、弊社ホームページからダウンロードして解凍したファームウェアファイル(拡張子: dat)の保存先を指定して、更新します。



- 3 更新完了後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。
設定画面に戻らないときは、ファームウェアの更新中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)



ご注意

[Back]の操作(手順3)で設定画面に戻るようになるまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を絶対に切らないでください。
途中で電源を切ると、データの消失や誤動作の原因になります。

※ 出荷時の設定に戻るような注意書きがあるバージョンアップ用ファームウェアの場合は、上図の[Back]をクリックしても設定画面に戻れないことがあります。

その場合は、接続するパソコンのIPアドレスを「例:192.168.0.100」に設定してから、本製品の設定画面「192.168.0.1」にアクセスしなおしてください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

⑧ オンライン更新

下記の手順で、最新のファームウェアを確認後、[MSG]ランプが●緑点灯しているときは、本製品のファームウェアをオンラインで更新できます。

※ 自動更新機能が「有効」に設定されているときに、オンラインで新しいファームウェアを検知します。(取扱説明書[活用編])

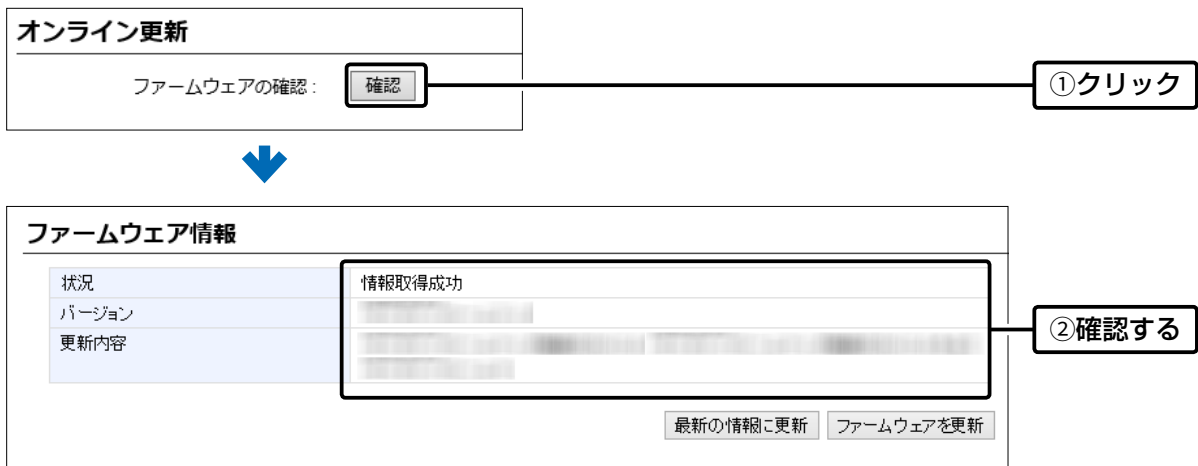
※ ファームウェアの確認には、インターネット回線への接続が必要です。

また、インターネット回線接続時は、本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイの設定が必要です。

※ 更新を実行する前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.3-2)

1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

2 [ファームウェアの確認]欄の<確認>をクリックして、表示される更新内容を確認します。
※「新しいファームウェアはありません。」が表示され、[MSG]ランプが消灯のときは、更新は必要ありません。



3 <ファームウェアを更新>をクリックします。
弊社のアップデート管理サーバーにアクセスを開始します。
※更新により、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、更新を実行する前に、表示される更新内容をご確認ください。

4 更新が完了するまで、お待ちください。
弊社のアップデート管理サーバーに接続すると、ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は、自動的に再起動します。

ファームウェアを更新しています。

ファームウェアの更新中は、絶対に本体の電源を切らないでください。
ファームウェアの更新が完了すると、本体は自動的に再起動します。

本体の起動を確認後、[Back]をクリックしてください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

③ <UPDATE>ボタンを使用して更新する

[MSG]ランプが●緑点灯した場合は、下記の手順で、本製品のファームウェアをバージョンアップできます。

※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。

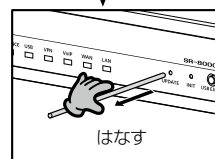
※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。

運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」(出荷時の設定:有効)に設定してください。

1 [MSG]ランプが●緑点灯から✱緑点滅に切り替わるまで、<UPDATE>ボタンを押します。



2 [MSG]ランプが✱緑点滅したことを確認して、<UPDATE>ボタンから手をはなします。ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は自動的に再起動します。
※本製品が再起動したあと、ご使用の端末を再起動してください。



ランプ表示

点灯(緑)

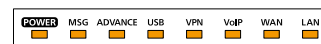


点灯(緑)

点灯(緑)



点滅(緑)



全点灯(橙)

再起動後、[POWER]ランプ点灯(緑)

※ご使用の環境により、[MSG]ランプ以外の状態は異なります。(全点灯時を除く)

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

本製品のUSBポートにUSBメモリー(市販品)を接続すると、あらかじめUSBメモリーに保存されたファームウェアファイルや設定ファイル(本製品の設定が保存されたファイル)を本製品に自動で読み込みます。

また、本製品のLAN側MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアの更新ができます。

※操作方法については、3-16ページ～3-18ページをご覧ください。

◎ファームウェアの更新

本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアを更新します。

◎設定の保存/復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

◎オリジナル保留音/メッセージ/オリジナル音声

オリジナル保留音

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、オリジナル保留音として読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、保留機能にオリジナル保留音を設定していると、保留音が再生されないまま保留状態となります。

メッセージ

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、着信おまかせ機能のオリジナルおまかせメッセージとして読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、ユーザー用の「着信おまかせ設定」画面でオリジナルおまかせメッセージを選択していると、メッセージが再生されないまま、着信おまかせ機能が動作します。

オリジナル音声

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、DID機能のオリジナル音声として読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大30件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、応答音声にオリジナル音声を設定していると、応答音声が再生されないままDID機能が動作します。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄が「有効」に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

The screenshot shows the 'USB設定' (USB Settings) screen. It includes the following elements:

- USBメモリー:** Radio buttons for '無効' (Disabled) and '有効' (Enabled). '有効' is selected.
- USBアクセス許可:** Checkboxes for 'ファームウェアの更新' (Firmware Update), '設定の保存/復元' (Save/Restore Settings), and 'オリジナル保留音/メッセージ' (Original Retention Sound/Message). All three are checked.
- USB認証キー:** A text input field for the USB authentication key.
- USB認証キーの書き込み:** A button labeled '書き込み' (Write).

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBストレージデバイス使用時のご注意

- ◎ 指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティ対応型のUSBメモリーは使用できません。
- ◎ ご使用になる前に、あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてください。
- ◎ データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
設定保存/復元、ファームウェアの更新で使用する場合など、USBメモリーを接続中([USB]ランプ ● 緑点灯中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。
ファイルの消失や故障の原因になります。
- ◎ USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ USBメモリーを接続中は、[USB]ランプが ● 緑点灯します。
- ◎ 本製品の設定画面でUSB認証キーが設定(P.3-23)されている場合、差し込まれたUSBメモリー側の認証キーと一致しないときは、自動設定機能は動作しません。
- ◎ 設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。
- ◎ USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。
※本製品で動作中のものと異なる設定ファイルやファームウェアファイルが、USBメモリーに保存されている場合は、その内容で自動設定されます。
- ◎ 設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアの更新の順に自動設定を実行します。

■ 対応するUSBストレージデバイスの規格

インターフェース : USB3.0/2.0/1.1

デバイス : USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)

フォーマット : FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)

※すべてのUSB対応周辺機器で動作を保証するものではありません。

※装着するデバイスの消費電流に応じてセルフパワー供給が必要になることがあります。

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた

設定ファイル名は、「savedata」(拡張子：sav)でUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定の保存/復元」画面→「設定の保存」項目(P.3-2)で保存したものと、自動バックアップされる設定ファイル以外は、使用できません。

ファームウェアファイル名は、「firmware」(拡張子：dat)でUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの更新に使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードし、解凍してから、ファームウェアファイル名を変更してください。

■ 自動バックアップされる設定ファイルについて

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。

最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例：1世代前のファイル名 bakdata_1.sav

2世代前のファイル名 bakdata_2.sav

3世代前のファイル名 bakdata_3.sav

～ 中略 ～

10世代前のファイル名 bakdata_10.sav

※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(bakdata_10.sav)が削除されます。

また、削除と同時に、ファイル名の数字が1世代後退します。(例：bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)

※ファームウェアファイルは、バックアップされません。

※本製品の設定内容を変更した場合に、設定ファイル(bakdata.sav)が自動バックアップされます。

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアの更新をするときは、あらかじめ、本製品のシリアルシールに記載されているLAN側MACアドレス(P.v)をフォルダー名[★]とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。

★全角のフォルダー名は使用できません。

ルートディレクトリーにフォルダーがないとき

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のLAN側MACアドレス(例：0090C7000001)と一致するフォルダーがあるとき

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にバックアップ設定ファイルを作成します。

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のLAN側MACアドレス(例：0090C7000002)と一致するフォルダーがないとき

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ オーディオファイルについて

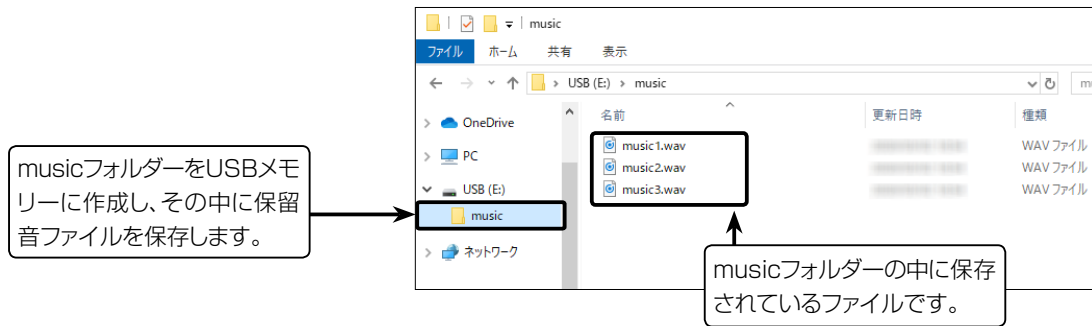
オリジナル保留音、オリジナルおまたせメッセージ、オリジナル音声は、それぞれ最大3件まで本製品に登録できます。(1件につき60秒まで)

※対応するファイルフォーマットは、下記のとおりです。

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ -law	8kHz	8ビット	モノラル(μ -law)	wav

1. オリジナル保留音

読み込ませる保留音ファイル(拡張子:wav)は、下記のように、musicフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※保留音ファイルは、本製品に読み込まれると、下記のように管理者用、ユーザー用の設定画面で扱われます。

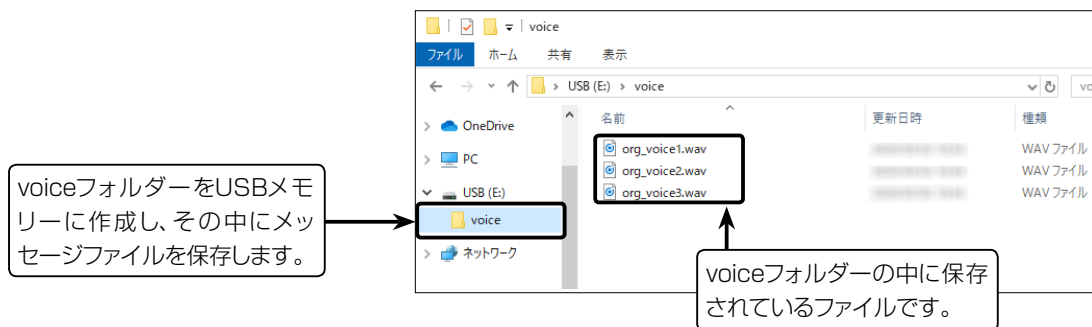
music1.wav:オリジナル保留音1

music2.wav:オリジナル保留音2

music3.wav:オリジナル保留音3

2. オリジナルおまたせメッセージ(着信おまたせ機能で使用する自動応答メッセージ)

読み込ませるメッセージファイル(拡張子:wav)は、下記のように、voiceフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※メッセージファイルは、本製品に読み込まれると、下記のようにユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で扱われます。

org_voice1.wav:オリジナルおまたせメッセージ1

org_voice2.wav:オリジナルおまたせメッセージ2

org_voice3.wav:オリジナルおまたせメッセージ3

※自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.3-13)、そのフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーは参照されません。

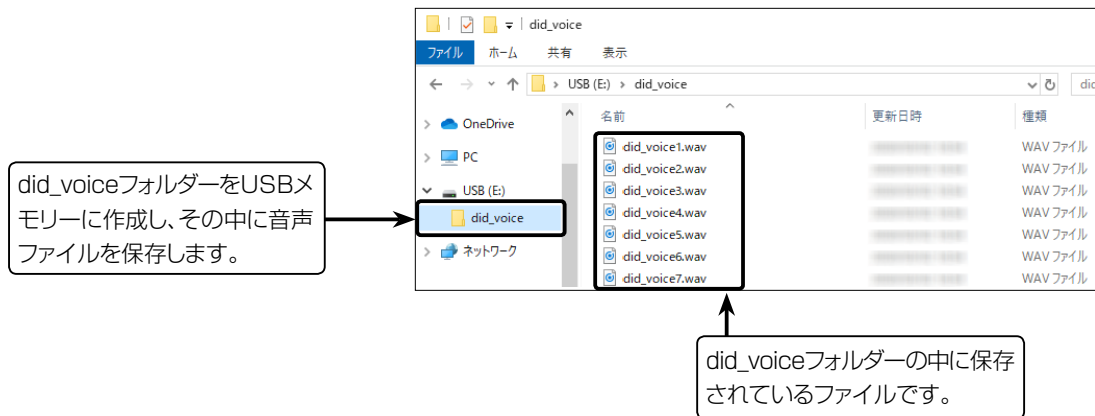
3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ オーディオファイルについて

3. オリジナル音声(DID機能で使用する応答音声)

読み込ませるメッセージファイル(拡張子:wav)は、下記のように、 did_voiceフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※音声ファイルは、本製品に読み込まれると、下記のように管理者用の「DIDボックス」画面で扱われます。

did_voice1.wav:オリジナル音声1~did_voice30.wav:オリジナル音声30

※自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.3-13)、そのフォルダーにあるdid_voiceフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるdid_voiceフォルダーは参照されません。

3 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

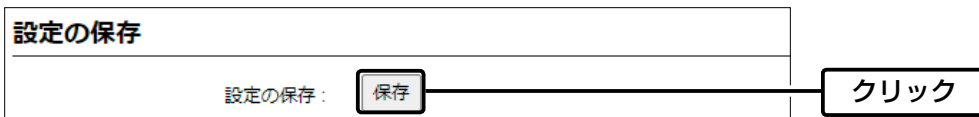
管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

- 1 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.1-11)
- 3 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。
- 4 「設定の保存」欄の「保存」をクリックします。



- 5 「名前を付けて保存」をクリックします。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。

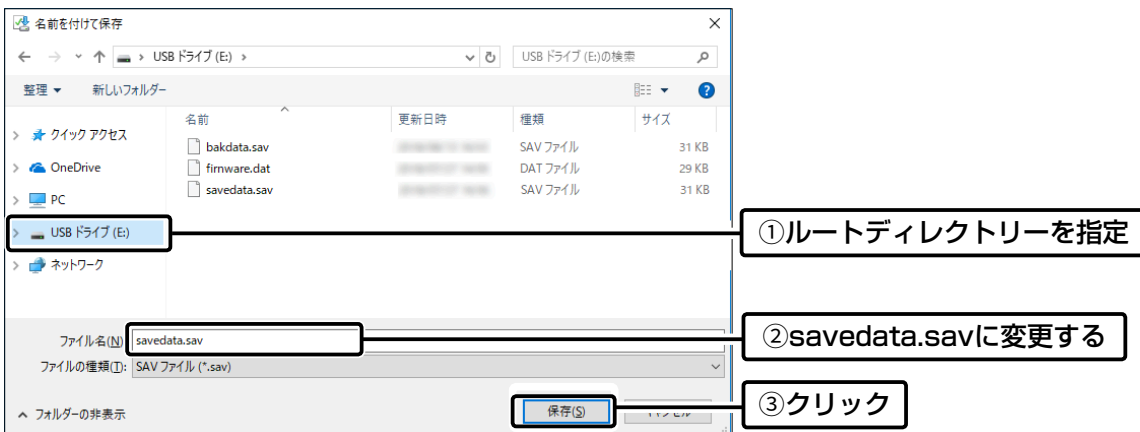


製品名、バージョン情報、保存日がファイル名として表示されます。

- 6 「名前を付けて保存」(別画面)画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定し、ファイル名を「savedata.sav」に変更してから、「保存(S)」をクリックします。

※ ファイル名は、必ず「savedata.sav」に変更してください。

「savedata.sav」以外のファイル名では、USBメモリーからの復元に使用できません。



(次ページにつづく)

3 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

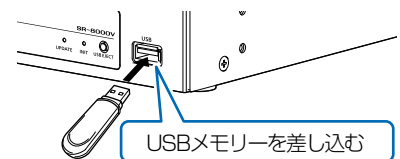
管理 > 設定の保存/復元

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

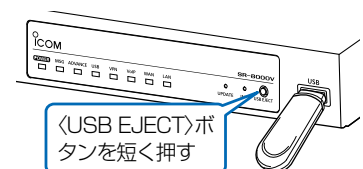
7 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

8 設定を復元する本製品を用意します。

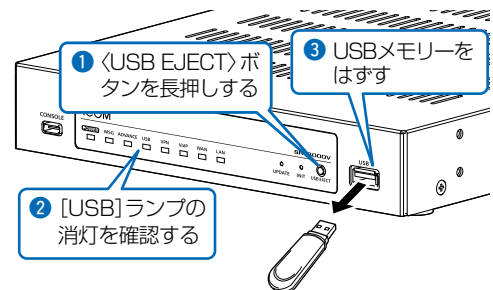
9 savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品のUSBポートに差し込みます。
USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。



10 〈USB EJECT〉ボタンを短く押します。
設定を復元するため、本製品が再起動します。



11 [POWER]ランプが●緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB]ランプが消灯するまで、〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけます。
[USB]ランプ消灯後、本製品からUSBメモリーを取りはずします。
※USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。



ご注意

- ◎設定復元が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
途中で、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、設定ファイルの消失や故障の原因になります。
また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。
- ◎データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄(P.3-10)が「有効」(出荷時の設定)に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

3 保守について

7. USBメモリーからファームウェアを更新するには

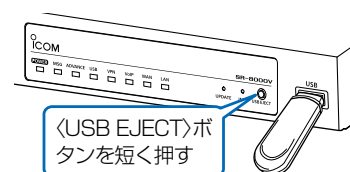
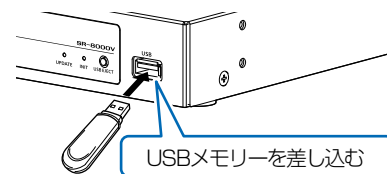
弊社ホームページからダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアを更新するまでの手順について説明します。

※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。

※更新を実行する前に、「ファームウェアの更新についてのご注意」(P.3-6)をご覧ください。

■ 更新するまでの手順

- 1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページからダウンロードして、解凍します。
- 2 ファームウェアファイルのファイル名をfirmware.datに変更します。
※ファイル名は、必ず「firmware.dat」に変更してください。
「firmware.dat」以外のファイル名は、USBメモリーからの更新には使用できません。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 firmware.datをUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 ファームウェアを更新する本製品を用意します。
- 7 firmware.datが保存されたUSBメモリーを本製品のUSBポートに差し込みます。
USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。
- 8 <USB EJECT>ボタンを短く押します。
ファームウェアを更新するため、本製品が再起動します。



ご注意

ファームウェアの更新が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
更新中に、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、故障の原因になります。

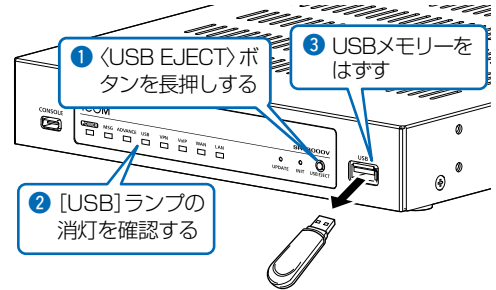
(次ページにつづく)

3 保守について

7. USBメモリーからファームウェアを更新するには

■ 更新するまでの手順

- 9 [POWER] ランプが ● 緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB] ランプが消灯するまで、〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけます。
[USB] ランプ消灯後、本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

更新後は、本製品の設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。

USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが本製品に適用されているものと同じとき、破損や本製品以外のものである場合は、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。

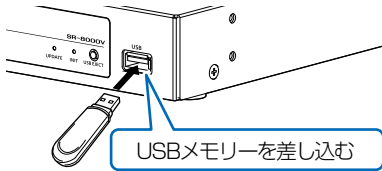
3 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

管理 > 管理ツール

オーディオファイル(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品に読み込むまでの手順について説明します。
※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。

■ オリジナル保留音の場合

- 1 オリジナル保留音として使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルの本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
- 2 オーディオファイル名を「music1.wav」～「music3.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「music1.wav」～「music3.wav」に変更してください。
「music1.wav」～「music3.wav」以外のファイル名は、オリジナル保留音に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 USBメモリーにmusicフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
- 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

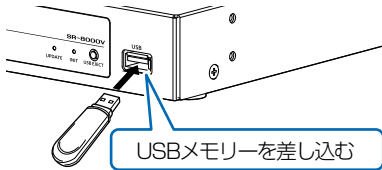
ご注意

- ◎読み込んだオリジナル保留音をご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナル保留音機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず「USB EJECT」ボタンを押しつづけ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

3 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

■ オリジナルおまたせメッセージの場合

- 1 オリジナルおまたせメッセージとして使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
 - 2 オーディオファイル名を「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更してください。
「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」以外のファイル名は、オリジナル保留音に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。
 - 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
 - 4 USBメモリーにvoiceフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
 - 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
 - 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
 - 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

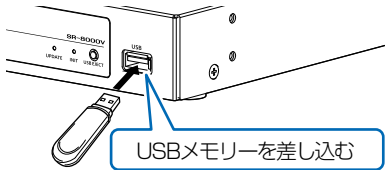
ご注意

- ◎読み込んだオリジナルおまたせメッセージをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナルおまたせメッセージ機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず〈USB EJECT〉ボタンを押しつつ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

3 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

■ オリジナル音声の場合

- 1 DIDボックスの応答音声として使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
 - 2 オーディオファイル名を「did_voice1.wav」～「did_voice30.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「did_voice1.wav」～「did_voice30.wav」に変更してください。
「did_voice1.wav」～「did_voice30.wav」以外のファイル名は、オリジナル音声に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。
 - 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
 - 4 USBメモリーにdid_voiceフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
 - 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
 - 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
 - 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

ご注意

- ◎読み込んだオリジナル音声をご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナル音声を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず〈USB EJECT〉ボタンを押しつけ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

3 保守について

9. USBメモリー用の認証キーを設定するには

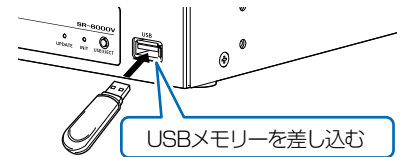
管理 > 管理ツール

本製品にUSB認証キーを設定することで、認証キーが一致するUSBメモリーを使用したときだけ、設定ファイルの自動バックアップ、設定の復元、ファームウェアの更新ができます。

■ 設定のしかた

- 1 USB認証キーの書き込みに使用するUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。

※あらかじめ、USBメモリーに保存されたUSB認証キー(ファイル名: usbkey.dat)を変更する場合も、そのUSBメモリーを差し込みます。



- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.1-11)

- 3 「管理」メニュー、「管理ツール」の順にクリックします。
「管理ツール」画面を表示します。

- 4 [USB設定]項目の[USB認証キー]欄に、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字64文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。

※USB認証キーを変更する場合は、テキストボックスの内容を削除してから入力してください。

- 5 〈書き込み〉をクリックします。

(次ページにつづく)

3 保守について

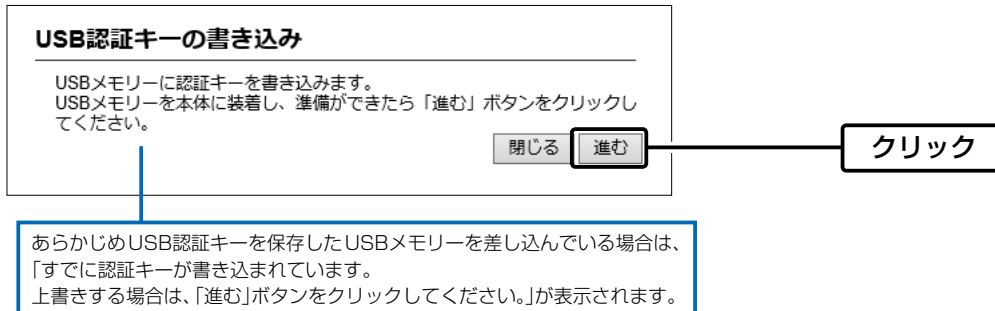
9. USBメモリー用の認証キーを設定するには

管理 > 管理ツール

■ 設定のしかた

6 「USB認証キーの書き込み」(別画面)が表示されたら、〈進む〉をクリックします。

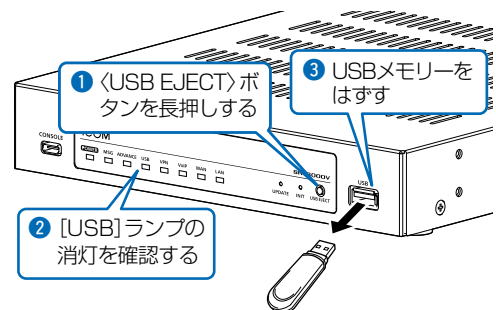
※書き込みを中止する場合は、〈閉じる〉をクリックします。



7 「認証キーの書き込みが完了しました。」が表示されたら、〈閉じる〉をクリックします。



8 本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

この章では、
困ったときの対処法、設定画面の構成、仕様などを説明しています。

1. 困ったときは	4-2
2. Telnet/SSHで接続するには	4-4
■ Telnet/SSHコマンドについて	4-4
■ [CONSOLE]ポートを使用する	4-5
3. 設定画面の構成について	4-6
4. 機能一覧	4-10
■ 電話機能	4-10
■ ルーター機能	4-10
■ その他	4-10
5. 定格	4-11
■ 一般仕様	4-11
■ 有線部	4-11

4 ご参考に

1. 困ったときは

下記のような現象は、故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

[POWER]ランプが点灯しない

- ACアダプターが本製品に接続されていない
→ 本製品のACアダプター、およびDCプラグの接続を確認する
- ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している
→ 本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する

[LAN]ランプが点灯しない

- LANケーブルが本製品と正しく接続されていない
→ 本製品やパソコンの[LAN]ポート、またはLANケーブルを確認する
- パソコン、またはHUBの電源が入っていない
→ パソコンとHUBの電源が入っていることを確認する

本製品の設定画面が正しく表示されない

- WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieを無効に設定している
→ JavaScript機能、およびCookieを有効に設定する

本製品の設定画面にアクセスできない

- IPアドレスのネットワーク部が、本製品とパソコンで異なっている
→ パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部を本製品と同じにする
- ご使用のWWWブラウザにプロキシサーバーが設定されている
→ 〈スタート〉(ロゴボタン)→[設定]→[ネットワークとインターネット]にある[プロキシ]で、設定を確認する

インターネットに接続できない

- 回線接続業者に契約をしたが、工事完了、または使用開始の通知がない
→ 契約、または工事の完了日をご契約の回線接続業者に確認する
- 使用する機器のMACアドレスを登録していない
→ 登録が必要な回線接続業者の場合は、本製品の「WAN MACアドレス」(WAN側接続用ポートのMACアドレス)を登録する(P.v)
- ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)をご使用の場合で、ご契約の回線接続業者への接続方法を間違えている
→ 該当する回線種別(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)を、ご契約の回線接続業者に確認する
- ブロードバンドモデム、または回線終端装置(FTTH)が本製品と正しく接続されていない
→ ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の場合は、本製品の回線種別の設定をご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって変更(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)してから[WAN]ポートと接続する
ルータータイプモデムの場合は、[LAN]ポートと接続する
- WAN(回線接続業者)側からIPアドレスが取得できていない
→ 本製品とブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の接続を確認する
WAN側から取得したIPアドレスを確認するときは、「ルーター設定」メニューにある「WAN接続先」画面の「回線状態表示」に表示される内容を確認する
- DNSサーバーのIPアドレスが正しく指定されていない
→ 「ネットワーク設定」メニュー、または「ルーター設定」メニューでDNSサーバーの設定を確認する

4 ご参考に

1. 困ったときは

ルーター機能設定時に [WAN] ポート(WAN側)から本製品にアクセスできない

- 出荷時に登録されているIPフィルターの設定により、WAN側から本製品へのアクセスを遮断しているため
→ △注意 IPフィルターの変更によるセキュリティーの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

USBメモリーにアクセスできない

- 本製品のUSBメモリー機能を無効に設定している
→ 本製品のUSBメモリー機能を有効に設定する

IP電話できない

- [SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄の設定を間違えている
→ 「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面で設定を確認する
- Peer to Peerの場合、自分および相手のSIP URIが未登録であるか登録内容を間違えている
→ 自分と相手のSIP URIの登録内容を確認する

2. Telnet/SSHで接続するには

Telnet/SSHでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnet/SSHクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

※出荷時、「Telnet/SSH設定」項目の[Telnet]欄が「無効」に設定されているため、Telnetクライアントから本製品にアクセスできません。(取扱説明書[活用編])

※本製品のTelnetで採用している文字コードは、UTF-8です。

Windows標準のTelnetクライアントでは対応できない場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。

【ログインについて】

① 下記を入力して、ログインします。

login : admin (固定)

Password: admin

※「管理者」画面で設定したパスワードを入力します。(取扱説明書[活用編])

② ログインに成功すると、プロンプト SR-8000V> が表示されます。

【設定の保存について】

設定変更後、「save」を入力して[Enter]キーを押します。

※コマンド入力で保存をしていない場合、本体再起動後、設定の変更が失われます。

【ログアウトについて】

「quit」、「exit」、「logout」コマンドを実行すると、ログアウトします。

■ Telnet/SSHコマンドについて

使用できるTelnet/SSHコマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧.....	[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。 コマンド名の入力につづいて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。
コマンドヘルプ.....	コマンドの意味を知りたいときは、コマンド名につづいて、「?」を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。 例) SR-8000V> save ? (saveコマンドのヘルプを表示する場合) ※「help」を入力して[Enter]キーを押すと、全ヘルプの一覧が表示されます。 ※Windows標準のTelnetクライアントでは文字化けする場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。
コマンド名の補完.....	コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。 入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。 例) e[Tab]→exit 複数のコマンドがあるときは、1回目の押下でビープ音コマンドを送出し、2回目以降の押下でコマンド候補を表示します。 例) res[Tab]→reset restart ※ビープ音は、お使いのターミナルソフトウェアやOSの設定により、音の有無、音色が異なります。

4 ご参考に

2. Telnet/SSHで接続するには

■ [CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[USB]ポートを、市販のUSBケーブル(Type-C)で接続すると、ターミナルソフトウェアから設定できます。

※ご使用していただくためには、USBドライバーが必要です。

※弊社ホームページから、USBドライバーとインストールガイドをダウンロードしていただき、手順にしたがってインストールしてください。

※USBドライバーをインストールしたあと、ターミナルソフトウェアのCOMポートを下記の値に設定します。

- ◎[接続方法]の選択 : USBケーブルを接続しているCOMポートの番号を指定します。
- ◎通信速度 : 115200(ビット/秒)
- ◎データビット : 8
- ◎パリティ : なし
- ◎ストップビット : 1
- ◎フロー制御 : なし

※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「SR-8000V login:」と表示されます。

4 ご参考に

3. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザに表示される画面構成です。

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP	TOP	システム情報 MACアドレス
情報表示	ネットワーク情報	インターフェース Ethernetポート接続情報 DHCPリース情報
	SYSLOG	SYSLOG
	PBX情報	内線代表一覧 内線一覧
	電話通信記録	電話通信記録
	留守電情報	留守電ボックス情報 内部メモリー/USBメモリー 録音メッセージ
ネットワーク設定	IPアドレス	本体名称 IPアドレス設定
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定 静的DHCPサーバー設定 静的DHCPサーバー設定一覧
	スタティックルーティング	IP経路情報 スタティックルーティング設定 スタティックルーティング設定一覧
	ポリシールーティング	送信元ルーティング設定 送信元ルーティング設定一覧
	QoS	QoS設定 QoSルール設定 QoSルール設定リスト
ルーター設定	WAN接続先	回線状態表示 回線種別設定
	VoIP用WAN	回線状態表示 回線種別設定
	アドレス変換	アドレス変換設定 DMZホスト設定 静的マスカレードテーブル設定 静的マスカレードテーブル設定一覧
	IPフィルター	一般設定 IPフィルター設定 IPフィルター設定一覧
	簡易DNS	簡易DNSサーバー設定 簡易DNSサーバー設定一覧
	VPN	IPsec設定 IPsecトンネル設定 IPsecトンネル設定一覧
システム設定	収容台数設定	収容台数設定

4 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目		
無線機コントローラー設定	RoIP通信設定	他拠点通信設定		
		VoIP拡張設定		
		テナント設定	テナント番号	
		RoIPサーバー	通話優先順位設定	
		他拠点接続	他拠点接続設定	
			他拠点設定一覧	
		近隣呼出接続	近隣呼出接続設定	
			アクセスポイント検索設定	
			近隣呼出接続設定一覧	
		無線機管理	無線機管理	
	無線機追加	TRX番号設定		
		TRX番号設定一覧		
		TRX番号一括設定		
	無線機個別	無線機個別設定		
		無線機個別設定コピー		
		無線機個別設定一覧		
	無線LAN	無線LAN設定		
		無線LAN設定一覧		
	アドレス帳	アドレス帳	アドレス帳グループ設定	
			アドレス帳グループ詳細設定	
アドレス帳設定の保存と書き込み				
アドレス帳設定				
アドレス帳設定一覧				
メッセージ	メッセージ	メッセージグループ設定		
		メッセージグループ詳細設定		
		メッセージ設定の保存と書き込み		
		メッセージ設定		
プレゼンス	設定グループ詳細	プレゼンス設定		
		設定グループ設定一覧		
		設定グループ設定		
呼出先設定	呼出先設定	設定グループ一括設定		
		呼出先設定		
		呼出先設定一覧(全体)		
		呼出先設定一覧(グループ)		
		呼出先設定一覧(トークグループ)		
		呼出先設定一覧(管理用トークグループ)		
		呼出先設定一覧(個別)		
		呼出先設定一覧(電話)		
		呼出先一括設定		
		電話回線設定	IP回線	SIPサーバー接続共通設定
				SIPサーバー設定
SIPサーバー設定一覧(契約者番号)				
SIPサーバー設定一覧(追加番号)				
回線グループ	回線スライド設定			
	回線グループ設定			
	回線グループ設定一覧			
Peer to Peer	Peer to Peer共通設定			
	Peer to Peer設定			
	Peer to Peer設定一覧			

4 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
電話回線設定(つづき)	VoIP電話帳	VoIP電話帳の保存と書き込み
		VoIP電話帳への登録
		VoIP電話帳登録一覧
PBX設定	基本	基本設定
	特番	特番設定
		無線機呼出プレフィクス設定
		外線発信特番設定
	内線個別	内線設定
		内線設定一覧
		内線一括設定
		内線設定コピー
	内線代表	内線代表設定
		内線代表設定一覧
	着信	着信設定
	電話帳	設定グループの選択
		電話帳の保存と書き込み
		電話帳への登録
電話帳登録一覧		
PBX内線詳細設定	電話機管理	電話機管理
	電話機(IP200H)	電話機設定
		機種個別設定(IP200H)
		電話機音設定
	電話機(IP200PG)	電話機設定
		機種個別設定(IP200PG)
		電話機音設定
	電話機(KX-UTシリーズ)	電話機設定
		電話機音設定
		着信音パターン
		着信音パターン割り当て
	電話機(KX-HDVシリーズ)	電話機設定
		電話機音設定
		着信音パターン
		着信音パターン割り当て
	増設ユニット(KX-HDV230) (1~5)	電話機設定
		機種個別設定(KX-HDV230)
		ボタン割当(ページ1)
		ボタン割当(ページ2)
	TEL(1~4)	TEL設定
無線機コントローラー電話接続	無線機コントローラー電話接続設定	
	通信設定	
	制御設定	
	音声送信制御設定	
	音声受信制御設定	
	V/RoIP制御設定	
	自動切断タイマー設定	

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX拡張設定	拡張	SIP拡張設定
		VoIP設定
	番号計画	電話番号ルーティング設定
		電話番号ルーティング設定一覧
		番号計画例外ルール
		発信先番号変換ルール設定
		発信先番号変換ルール一覧
		発信規制ルール設定
		発信規制ルール一覧
	外線サービスグループ	外線サービスグループ設定
	昼夜切替	昼夜切替曜日設定
		昼夜切替日付設定
	夜間転送先	夜間転送先設定
	通話数制限	通話数制限設定(システム全体)
		通話数制限設定
	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ接続設定
		ゲートウェイ接続設定一覧
	番号表示変換	発信元回線設定
		番号表示変換ルール設定
		番号表示変換ルール設定一覧
DIDボックス	使用するボックス	
	DIDボックス設定	
	DIDボックス設定一覧	
管理	管理者	管理者パスワードの変更
		ユーザー画面 管理設定
	時計	時刻設定
		自動時計設定
		SNTPサーバー設定
	SYSLOG	SYSLOG設定
	SNMP	SNMP設定
		SNMPv3設定
	管理ツール	USB設定
		HTTP/HTTPS設定
		Telnet/SSH設定
		UID確認
	ネットワークテスト	PINGテスト
		経路テスト
	再起動	再起動
		設定の保存/復元
	設定の復元	
	設定内容一覧	
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェア情報
オンライン更新		
自動更新		
手動更新		
内蔵ファームウェアの更新	内蔵ファームウェア情報	
	オンライン更新	

4. 機能一覧

■ 電話機能

- 内線登録(SIP:300+TEL:4)
- 上位SIPサーバー接続(300件)
- IP電話事業者対応★
- 内線代表着信
- 外線保留/外線応答
- マルチラインキー
- パーク保留/パーク応答
- 代理応答
- 保留転送
- 不在転送/不応答転送
- 多機能電話機設定対応
- 電話帳設定(共通900件/グループ100件)
KXシリーズ、IP200H用
- エコーキャンセラー
- ナンバーディスプレイ
- Peer to Peer(電話帳3000件)
- 留守番電話
- 非通知着信お断り機能
- ユーザーポータル
- 迷惑電話お断り機能(指定着信機能)
- 昼夜切替設定機能
- ダイヤルイン
- 回線グループ機能
- 電話番号ルーティング機能
- 外線着信転送機能
- 着信おませ機能
- 回線閉塞機能
- ゲートウェイ接続
- ダイレクトインダイヤル機能(DID機能)
- 番号表示変換
- 発信番号変換
- 発信番号規制
- 外線通話本数制限
- 保留音選択(内蔵5+ユーザー登録3)
- オリジナル保留音
- オリジナルおませメッセージ
(着信おませ機能で使用する自動応答メッセージ)
- オリジナル音声
(DID機能で使用する応答音声)

★ NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」に対応しています。(2022年10月現在)

■ ルーター機能

- PPPoE接続
- IPマスカレード
- 固定IP接続
- 静的マスカレード
- DHCPクライアント接続
- DMZ
- DHCPサーバー
- 静的DHCPサーバー
- スタティックルーティング
- DNS代理応答
- IPフィルター
- QoS
- VPN

■ その他


- 接続制限機能(管理者ID/パスワード)
- 内部時計設定
- ファームウェアの更新(WEB/USB)
- 設定保存/復元(WEB/USB)
- WWWメンテナンス(HTTP/HTTPS)
- TELNETメンテナンス(TELNET/SSH)
- コンソールメンテナンス(USB)
- オンラインファームアップ(自動/手動)

4 ご参考に

5. 定格

定格・仕様・外觀等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

■ 一般仕様

電 源 : DC12V±10%[DCプラグ極性：⊖⊕]
※ACアダプター(付属品)は、AC100V±10%
最大33W(付属のACアダプター使用時)

使 用 環 境 : 温度0～40℃、湿度5～95%(結露状態を除く)

外 形 寸 法 : 約213(W)×36.8(H)×242(D)mm(突起物を除く)

重 量 : 約1.5kg(付属品を除く)

適 合 規 格 : クラスB情報技術装置(VCCI)

インターフェース : ランプ(POWER、MSG、ADVANCE、USB、VPN、VoIP、WAN、LAN)
ボタン(UPDATE、INIT、USB EJECT)
[USB]ポート : USB Aタイプ(USB3.0)
[CONSOLE]ポート : USB Type-C(USB2.0)

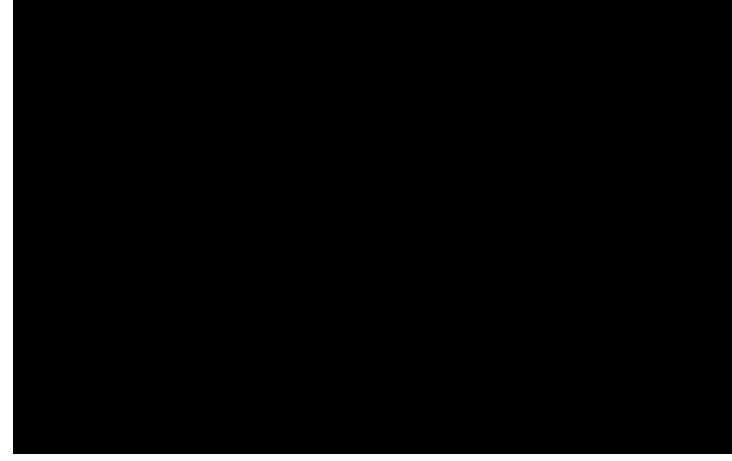
■ 有線部

インターフェース : [WAN]ポート(RJ-45型)×1 (Auto MDI/MDI-X)
[LAN]ポート(RJ-45型)×1 (Auto MDI/MDI-X)
●IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
●IEEE802.3ab/1000BASE-T準拠
●IEEE802.3bz/2.5GBASE-T準拠
[TEL]ポート(RJ-11型)×4

通 信 速 度 : 100/1000/2500Mbps(自動切り替え/全二重)

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～



VoIP ROUTER
SR-8000V

はじめに

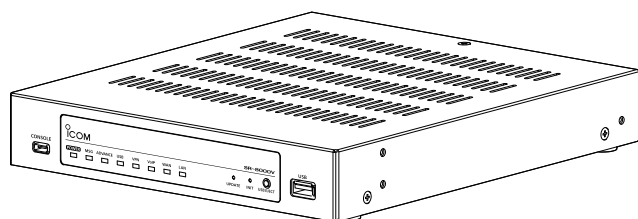
1 ご使用になる前に

2 導入ガイド

3 保守について

4 ご参考に

本書では、導入時に必要な基本的な説明を記載しています。
また、設定画面の各項目については、取扱説明書 [活用編] に記載
していますので、必要に応じてご覧ください。



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IP電話対応のVoIPルーターです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

不正アクセス対策についての重要なお知らせ

下記のような環境でご使用になる場合、容易に推測できるパスワードを本製品に設定すると、正規利用者になりすまして本製品にアクセスし、パソコンやIP電話回線などが不正に利用される危険性があります。

◎本製品をインターネット(サービスプロバイダー)に接続して利用している

◎本製品のVoIPルーター機能により、本製品が対応するIP電話機を利用している

本書の表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

「 」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[]表記：キー、ランプ、ポート、各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

< >表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

※ 本書は、SR-8000V Ver.1.07のファームウェアを使用して説明しています。

※ 本書では、Windows 10の画面を例に説明しています。

※ 本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N、KX-HDV130N、KX-HDV230N)を「KXシリーズ」と表記しています。

※ 本書では、IP100H、IP110H、IP200H*、IP200PG*を「WLAN無線機」と表記しています。

★IP電話機モードの説明では「IP電話機」と表記しています。

※ 本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、マイクロソフト企業グループの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複製/転用することは、禁止されています。

本ソフトウェア、および本ドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。

はじめに

本製品の概要について

- ◎本製品の子機として、WLAN無線機やIP電話機、対応端末^{★1}を最大300台まで登録できます。
※2022年10月現在、IP100H、IP110H、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。
★1 本製品の[TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機を含めると、最大304台まで使用できます。
- ◎本製品に接続されたアナログ電話機、IP電話機や対応端末同士で内線通話や内線転送ができ、IP電話回線を使用して外線通話^{★2}ができます。
★2 外線番号を最大300件、同時通話数を150チャンネルまで対応しています。
- ◎本製品が対応するIP電話回線は、NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」^{★3}です。
★3 ひかり電話サービスは、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直収とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。
- ◎IP電話機用に登録する共通電話帳(最大900件)とグループ電話帳(最大100件)は、IP電話機起動時に、IP電話機本体の電話帳に自動転送されます。
- ◎Peer to Peer (SIPサーバーを経由しない1対1の通話)の発信で使用するVoIP電話帳には、相手先電話番号を最大3000件まで登録できます。
- ◎留守番電話機能を搭載していますので、不在時に応答メッセージ^{★4}を流し、相手の用件を録音できます。
※録音できるのは、最大90件で、1件あたりでは最大120秒まで録音できます。
★4 応答専用モードでは3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。
- ◎市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに接続することで、留守番電話メッセージの保存、オリジナル保留音やオリジナルおまたせメッセージ、オリジナル音声の本製品への読み込み、ファームウェアの更新、設定の保存/復元ができます。
- ◎100BASE-TX/1000BASE-T/2.5GBASE-Tの自動切り替えに対応しています。
- ◎ポートの極性について、MDI(ストレート) /MDI-X(クロス)を自動判別します。
- ◎ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。
- ◎IPフィルター機能を搭載していますので、アクセス制限ができます。
- ◎本製品は、免許不要・資格不要です。

取り扱い上のご注意

- ◎本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。
本製品が原因で発生したいかなる損害についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎パソコンやその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
- ◎次に示す内容をよくお読みになってから、本製品の設定ファイルや弊社ホームページ<https://www.icom.co.jp/>より提供されるアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。
本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎本製品が原因で発生した債務不履行、または不法行為に基づく損害賠償の責任は、当社に故意、または過失のある場合を除いて、本製品の購入代金と同等金額を上限といたします。
- ◎本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修理、または瑕疵のない同一製品、もしくは同等品に交換いたしますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責任は一切負いません。

はじめに

出荷時のおもな設定値

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	IPアドレス	IPアドレス設定	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定	DHCPサーバー	有効
ルーター設定	WAN接続先	回線種別設定	回線種別	使用しない
管理	管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID	admin(変更不可)
			現在のパスワード	—

※上記以外の設定値については、取扱説明書[活用編]をご覧ください。

※本製品の管理者用ID(admin)は、変更できません。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにされることをおすすめします。

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」と弊社ホームページに掲載の下記取扱説明書(PDFファイル)で構成されています。

ご使用になる前に(別紙)

本製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を説明しています。

また、本製品の初期化操作など、保守についても説明しています。

取扱説明書[導入編](本書)

本製品の基本的な方法について、本書を最初からお読みいただくことで、設定や設置の作業ができるように構成しています。

取扱説明書[活用編](PDF)

本製品に設定できる詳細な機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

ユーザー画面設定マニュアル(PDF)

ユーザー画面で設定できる機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

WLAN無線機導入ガイド(PDF)

コントローラー機能について、設定メニューごとに詳細を説明しています。

はじめに

関連ソフトウェアについて

(2022年10月現在)

下記のように、弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェアをご用意しています。

※これらのソフトウェアは、機能の拡張や改良のため、アップデートすることがあります。更新作業をする前に、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

CS-IP200H

IP200Hをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200Hがあります。弊社ホームページに掲載の「CS-IP200H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがってIP200Hに付属のUSBケーブルを接続してください。

CS-IP200PG

IP200PGをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200PGがあります。弊社ホームページに掲載の「CS-IP200PG取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがってIP200PGに付属のUSBケーブルを接続してください。

はじめに

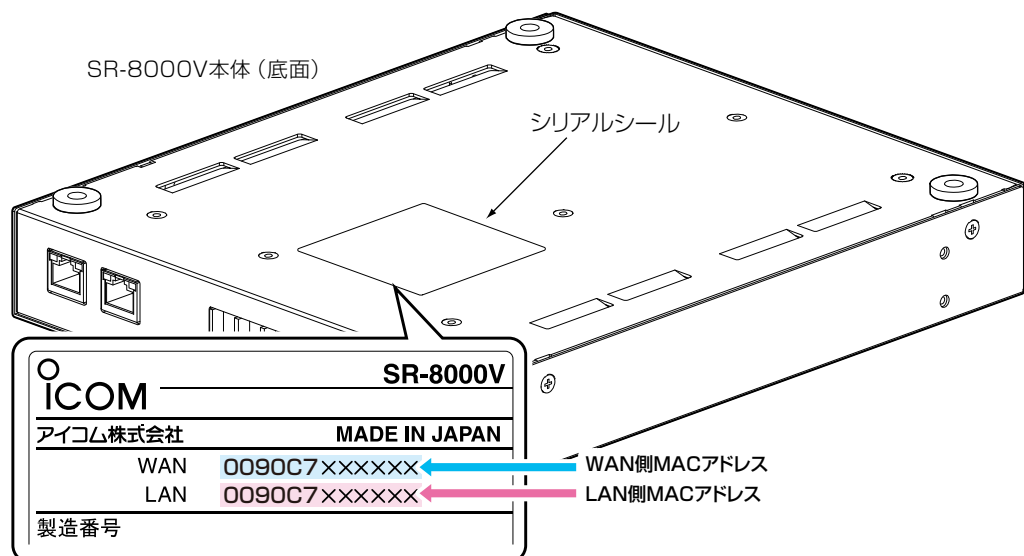
本体MACアドレスが必要なときは

本体MACアドレス(機器固有の番号)は、本製品底面のシリアルシール(下図)に12桁で記載されています。

本製品をインターネットに接続してご使用になる場合、ご契約の接続業者、またはプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品)がそれぞれ独自に持っているWAN側MACアドレス(機器固有の番号)を、ご契約の接続業者、またはプロバイダーに対して事前申請を必要とする場合があります。

そのような場合、申請、および登録が完了するまで、本製品を利用してインターネットに接続できません。

※LAN側のMACアドレスではありませんのでご注意ください。



※MACアドレスの記載位置は、お買い上げの製品によって若干異なる場合があります。

ご参考

上記のMACアドレスは、設定画面でも確認できます。(取扱説明書[活用編])

この章では、
本製品のおもな機能などを説明しています。

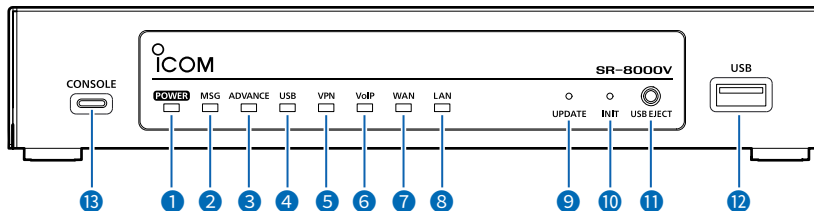
1. 各部の名称と機能	1-2
■ 前面部	1-2
■ 後面部	1-5
■ 側面部	1-6
2. おもな機能について	1-7
■ IP電話 (VoIP) 機能について	1-7
■ PBX機能について	1-7
■ 留守番電話機能について	1-7
■ 無線機コントローラーについて	1-8
■ ルーター機能	1-8
■ VPN機能	1-8
3. 接続や設置について	1-9
■ マグネットの取り付け	1-9
4. 設定のしかた	1-10
■ 設定に使うパソコンを接続する	1-10
■ 設定画面にアクセスするには	1-11
■ 設定画面の名称と機能について	1-12
■ 設定画面の表示について	1-13
■ 本体IPアドレスを変更するときは	1-15

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。



- ① [POWER] ランプ
 - 緑点灯 : 動作中
 - ☀ 緑点滅 : 起動中
 - ☀ 赤点滅 : UID表示
 - 消 灯 : 電源OFF時
 - ※電源投入時、すべてのランプが点滅(赤→緑)します。
 - ※起動中、[POWER]ランプは緑点灯→緑点滅→緑点灯の順で遷移します。

- ② [MSG] ランプ
 - 緑点灯 : オンライン更新(ファームウェア更新あり)
 - ☀ 緑点滅 : 初期化動作移行中
オンライン更新(ファームウェアダウンロード中)
 - 消 灯 : 上記以外

- ③ [ADVANCE] ランプ
 - 緑点灯 : WLAN無線機が1台以上登録(レジスト)時
 - 消 灯 : 上記以外

- ④ [USB] ランプ
 - 緑点灯 : USBメモリー接続時
 - ☀ 緑点滅 : USBメモリーアクセス中
 - 赤点灯 : USBメモリーからの設定読み出しや、ファームウェアアップデート失敗
 - 消 灯 : USBメモリー未接続時/取りはずし準備完了

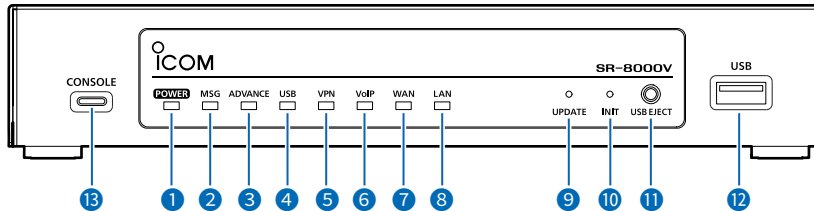
- ⑤ [VPN] ランプ
 - 緑点灯 : IPsecトンネル接続確立時(1つ以上)
 - 消 灯 : 接続未確立時/VPN未設定時/設定無効時

- ⑥ [VoIP] ランプ
 - 緑点灯 : IP回線接続成功時(全エントリー)
 - ☀ 緑点滅 : 通話中(1通話以上)
※接続失敗中の通話は緑点滅
 - ☀ 赤点滅 : IP回線接続失敗時(1エントリー以上)
 - 消 灯 : 未登録時/接続試行中

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部

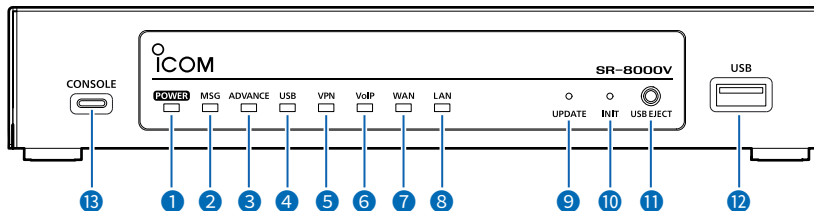


- 7 [WAN]ランプ……………
- 緑点灯：WAN接続完了
PPP確立時(PPPoE)
IPアドレス取得成功(DHCPクライアント)
 - ☀ 赤点滅：認証エラー(PPPoE)
IPアドレス取得失敗(DHCPクライアント)
 - 消 灯：上記以外
- 8 [LAN]ランプ……………
- 緑点灯：LAN接続時
 - 消 灯：上記以外
- 9 <UPDATE>ボタン……………
- 最新ファームウェアがあるとき、[MSG]ランプ(2)が点灯(緑)から点滅(緑)に切り替わるまでボタンを押して、ファームウェアを更新します。
※ペン先などを利用して押してください。
- 10 <INIT>ボタン……………
- 設定を初期化するとき 사용합니다。(P.3-4)
※ペン先などを利用して押してください。
- 11 <USB EJECT>ボタン……………
- [USB]ポート(12)に接続したUSBストレージデバイスを取りはずすときは、[USB]ランプ(4)が点灯(緑)から消灯に切り替わるまでボタンを押します。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 前面部



- 12 [USB]ポート** 設定復元やファームウェアの更新などで使用するUSBメモリー(市販品)を差し込むポートです。
(USB3.0)
また、無線機への通話録音をUSB経由で外部ストレージに保存できます。
※あらかじめ、USBデバイス内のデータをバックアップしてから、ご使用ください。
※指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
※すべてのUSBデバイスでの動作を保証するものではありません。
- 13 [CONSOLE]ポート** 本製品の設定にターミナルソフトウェアを使用するとき、USBケーブル(市販品)を接続します。
(USB Type-C)
※本製品とパソコンをUSBケーブルで接続し、ご使用していただくために必要なUSBドライバーおよびインストールガイドについては、弊社ホームページからダウンロードできます。(下記参照)
※USBケーブル(Type-C)、ターミナルソフトウェアは、別途ご用意ください。

USBドライバーのダウンロードについて

本製品の[CONSOLE]ポートは、弊社ネットワーク機器用のUSBドライバーで動作します。
弊社ホームページのサポート情報(サポート情報→法人のお客様→ダウンロード)から、USBドライバーをダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報
<https://www.icom.co.jp/support/business/>

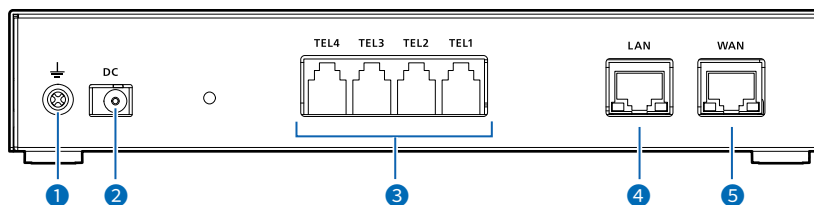
※弊社ホームページからのダウンロード手順については、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 後面部

ランプの動作、接続部やボタンについて説明します。



- ① アース端子 市販のアース線を接続します。
- ② DCジャック 本製品に付属のACアダプターを接続します。
- ③ [TEL](1～4)ポート
(RJ-11型) アナログ電話機やG3ファクシミリを接続します。
- ④ [LAN]ポート HUBなどのネットワーク機器と接続します。
(RJ-45型)

ランプ表示



点灯: 接続時
点滅: データ通信中
①緑色: 1000BASE-T/2.5GBASE-T時
②橙色: 100BASE-TX時

- ⑤ [WAN]ポート ADSL、VDSL、CATVでお使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお
(RJ-45型) 使いの回線終端装置と接続します。

ランプ表示



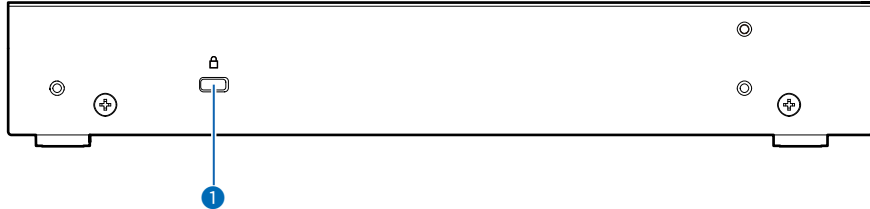
点灯: 接続時
点滅: データ通信中
①緑色: 1000BASE-T/2.5GBASE-T時
②橙色: 100BASE-TX時

1 ご使用になる前に

1. 各部の名称と機能

■ 側面部

接続各部について説明します。



- ① **セキュリティーロット** ……… 市販のセキュリティーワイヤーで本製品を固定するときに使用します。セキュリティーワイヤーを固定してから、本製品のセキュリティーロットに取り付けてください。
※取り付け方法については、ご使用になるセキュリティーワイヤーの取扱説明書をご覧ください。
※セキュリティーワイヤーには、シリンダーヘッド部の横からワイヤーが出るものと、上から出るものがあります。
ご利用の環境に応じたセキュリティーワイヤーをご用意ください。

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ IP電話(VoIP)機能について

本製品に接続したアナログ電話機、IP電話機や対応端末からIP電話回線を使用して、外線通話^{★1}ができる機能です。本製品が対応するIP電話回線は、NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」^{★2}です。

★1 外線番号を最大300件、同時通話数を150チャンネルまで対応しています。

★2 ひかり電話サービスには、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタ입、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直収とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。

■ PBX機能について

本製品の子機として、[TEL](1～4)ポートに接続するアナログ電話機とは別に、IP電話機や対応端末を最大300台まで登録できます。

※2022年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。

■ 留守番電話機能について

不在時に指定した応答メッセージが流れ、相手の用件を録音できます。

内部メモリーに録音できるのは、最大90件(留守電ボックスの合計)、USBメモリーに録音できるのは、最大3000件(各留守電ボックス100件)で、1件あたり最大120秒まで録音できます。

※応答専用モードでは、3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。

※出荷時や全設定初期化時、本製品の留守番電話機能は「無効」に設定されています。

1 ご使用になる前に

2. おもな機能について

■ 無線機コントローラーについて

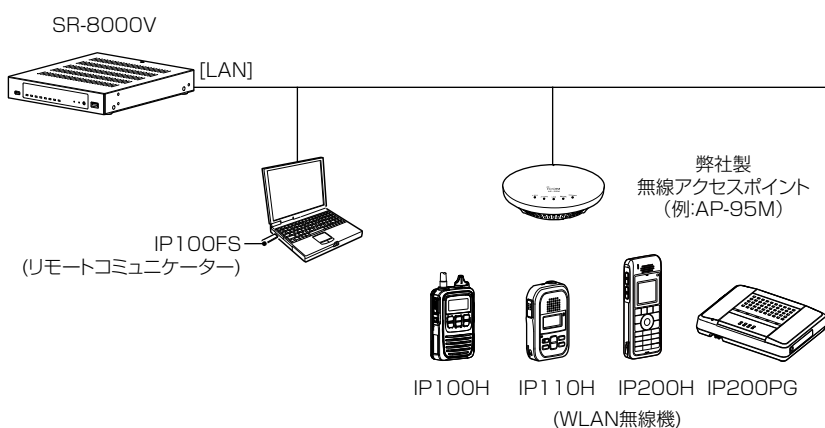
WLAN無線機を制御するコントローラーとして、IPネットワークを経由した呼び出しやメッセージの送受信に対応しています。

※WLAN無線機を最大300台登録できます。

※ご利用になるためには、無線アクセスポイントが必要です。

※2022年10月現在、弊社製IP100H、IP110H、IP200H、IP200PG、IP100FSが使用できます。

詳しくは、「WLAN無線機導入ガイド」をご覧ください。



■ ルーター機能

本製品のルーター機能を使用すると、本製品に接続したパソコンや機器からインターネットに接続できます。

※お使いのブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置を本製品の[WAN]ポートに接続します。

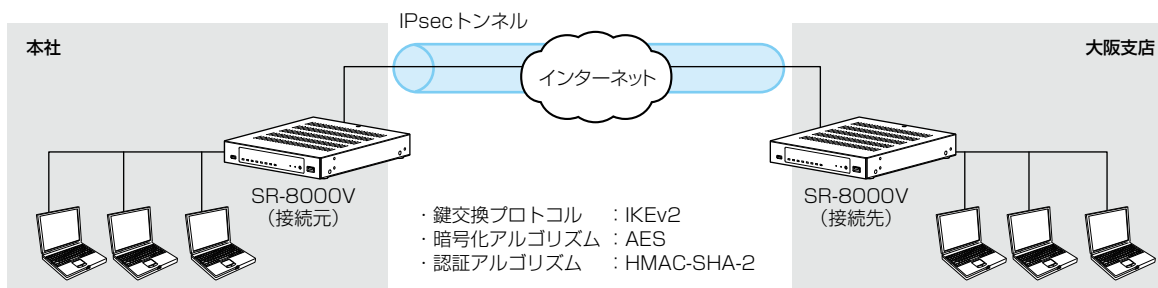
※ご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって、回線種別(DHCPクライアント/PPPoE/固定IP)を設定してください。

■ VPN機能

VPN(Virtual Private Network)機能を使用すると、インターネット上の2地点を暗号化通信で接続して、仮想的なネットワークを構成できます。

※本製品のVPN機能は、AP-9500、SR-7100VN、VE-PG4と互換性があります。(2022年10月現在)

※接続先に合わせて、IPsecトンネルを登録してください。(取扱説明書[活用編])



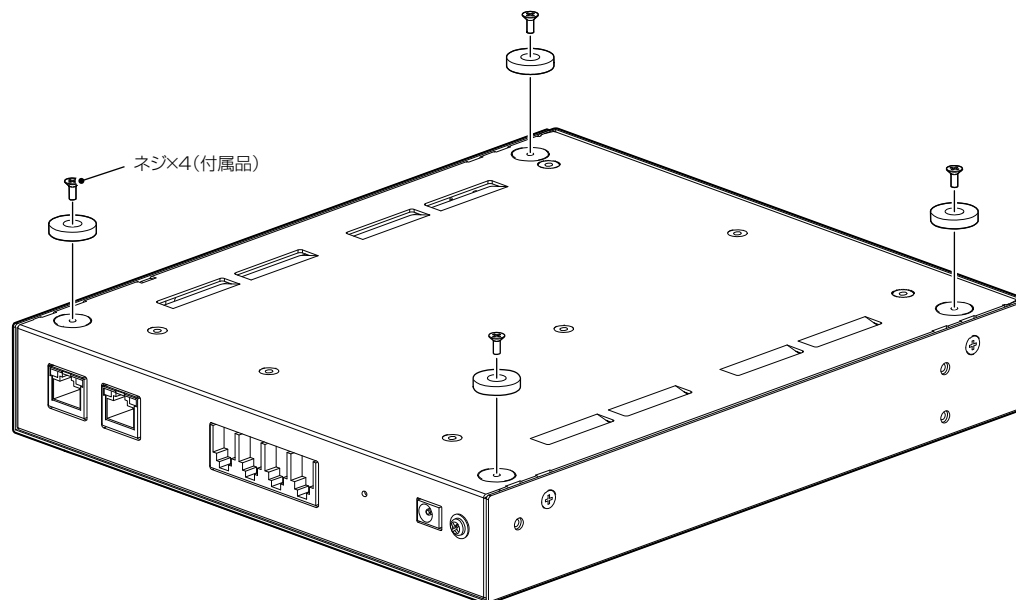
1 ご使用になる前に

3. 接続や設置について

■ マグネットの取り付け

付属のマグネットを図のように底面部に取り付けると、本製品を固定できます。

※6mmより長いネジは、絶対に使用しないでください。



ご注意

◎マグネットで、指を挟まないようご注意ください。

◎心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位に近づけたり、当てたりしないでください。電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

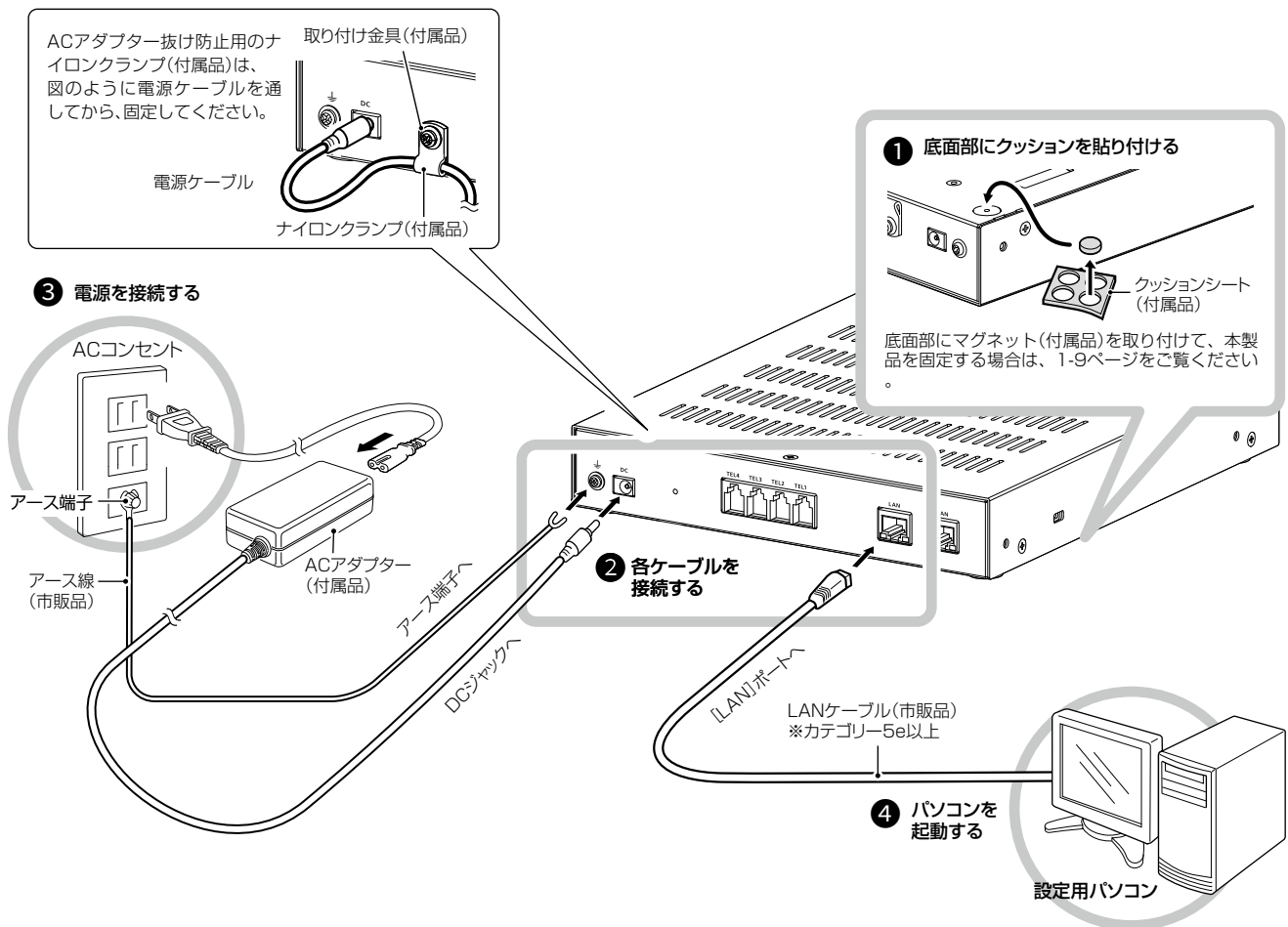
◎時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定に使うパソコンを接続する

出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」、DHCPサーバー機能は「有効」に設定されています。
出荷時の状態で接続するときは、本製品に接続するパソコンを既存のネットワークから切りはなしてください。



⚠ 警告

- ◎本製品のアース端子を、ガス管や水道管には絶対に接続しないでください。
- ◎落雷したときの電氣的ショックの緩和、感電やノイズの回り込みを防止するため、本製品のアース端子は、市販のアース線を使用して、コンセントのアース端子、または地中に埋めたアース棒(市販品)に必ず接続してください。

1 ご使用になる前に

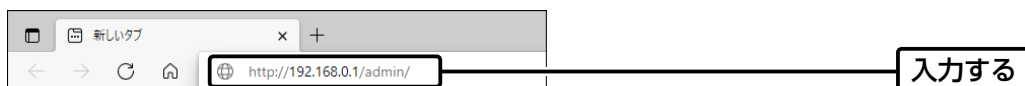
4. 設定のしかた

■ 設定画面にアクセスするには

本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、本製品の設定画面にアクセスする手順について説明します。

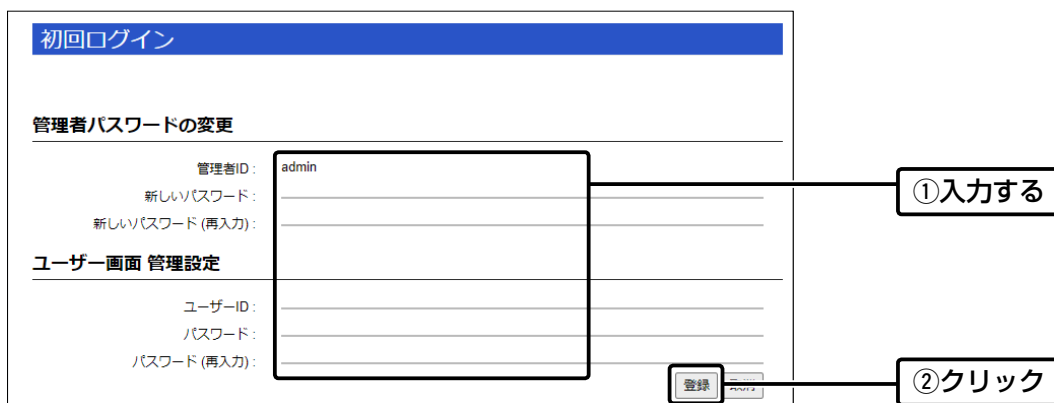
1 WWWブラウザを起動します。

2 WWWブラウザのアドレスバーに「192.168.0.1/admin/」を入力します。
出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」に設定されています。

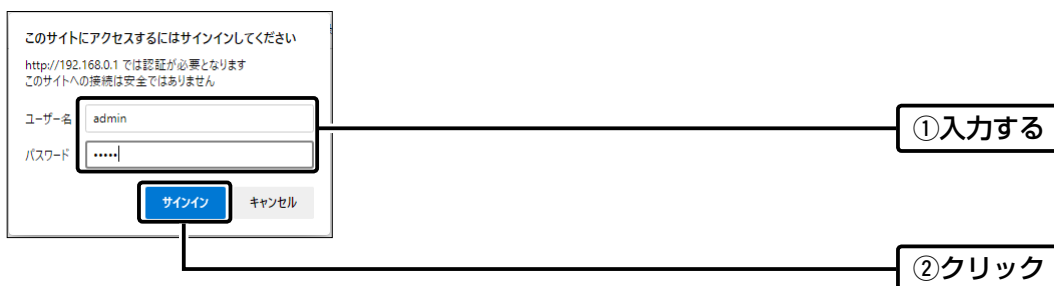


3 [Enter]キーを押します。
初回ログイン画面が表示されます。

4 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号(半角31文字以内)で各項目を入力して、〈登録〉をクリックします。
サインイン画面が表示されます。



5 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に手順4で設定したパスワードを入力し、〈サインイン〉をクリックします。
通常の設定画面に切り替わります。



※次回以降のアクセスでは、ユーザー名(admin)と設定したパスワードを入力してください。

※管理者パスワードを忘れた場合は、工場出荷時(初期値)の状態に戻す必要があります。

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定画面の名称と機能について

設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、4-6ページをご覧ください。



※説明には、「IPアドレス」画面を使用しています。

- ① 設定画面選択メニュー …………… 各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせてクリックすると、そのメニューに含まれる設定画面へのリンクが表示されます。
- ② 設定画面表示エリア …………… [設定画面選択メニュー](①)で選択したメニューに含まれる設定画面へのリンク(例：ネットワーク設定/IPアドレス)をクリックしたとき、その内容が表示されます。
- ③ 設定ボタン …………… 設定した内容の登録や取り消しをします。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

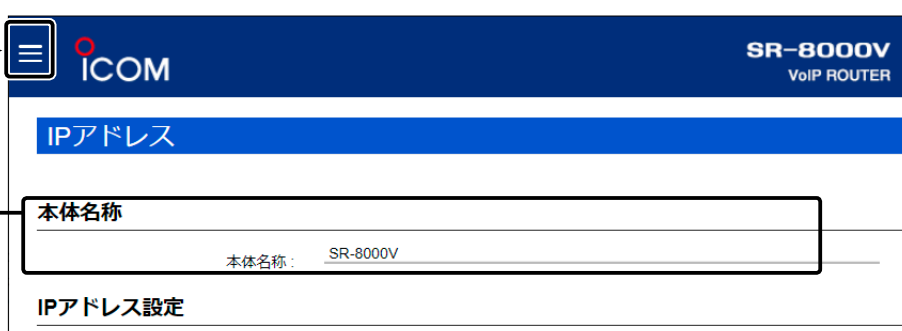
■ 設定画面の表示について

WWWブラウザのウィンドウサイズによって表示方法が異なります。
ウィンドウの幅を狭くすると、メニューが折りたたまれ「≡」が表示されます。
さらに狭くすると項目がすべて縦に表示されます。
ご使用になるパソコンの画面サイズに合わせて調整してください。

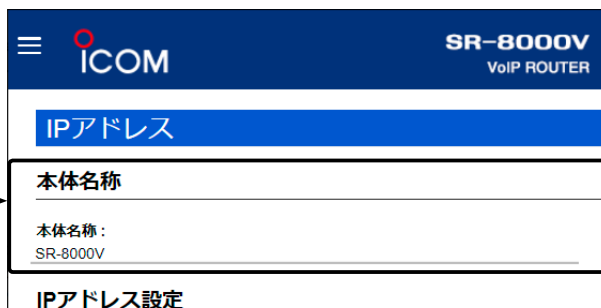
設定画面：大



設定画面：中



設定画面：小



1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

■ 設定画面の表示について

「≡」をクリックすると、折りたたまれたメニューが表示されます。



1 ご使用になる前に

4. 設定のしかた

ネットワーク設定 > IPアドレス > IPアドレス設定

■ 本体IPアドレスを変更するときは

本製品のIPアドレスを変更するときは、既存のネットワークと重複しないように設定します。

- 1 「ネットワーク設定」メニュー、「IPアドレス」の順にクリックします。
- 2 「IPアドレス」画面で、「IPアドレス設定」項目の設定を変更し、「登録」をクリックします。

本体名称

本体名称: SR-8000V

IPアドレス設定

IPアドレス: 192.168.0.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: _____

プライマリ-DNSサーバー: _____

セカンダリ-DNSサーバー: _____

登録

①入力する

②クリック

- 3 設定変更後、「設定画面に戻る」と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。
[ユーザー名]と[パスワード]を求める画面が表示されます。(P.1-11)
※IPアドレスの「ネットワーク部(例: 192.168.0)」を変更したときは、設定に使用するパソコンの「ネットワーク部」についても本製品と同じに変更します。

IPアドレスの割り当てかた

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。

出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。

「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。

以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭、および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾、および「255」)を割り当てない

この章では、

IP電話機をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	2-2
■ 設定の流れについて	2-2
2. 光通信回線と接続するには	2-4
■ 回線終端装置 (ONU) / メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話 (網直収)]	2-4
■ 回線終端装置 (ONU) / メディアコンバーターと接続する場合 [ひかり電話 (GW 配下)]	2-4
3. 内線電話の構築について	2-5
■ 電話機などの接続について	2-5
■ 電話機の登録について	2-6
■ 特番設定	2-8
■ 電話機の設定	2-9
4. KX シリーズの電話機について	2-10
■ ご使用になるまでの流れ	2-10
■ 固定 IP アドレスでご使用になる場合は (KX-UT シリーズ)	2-11
■ 固定 IP アドレスでご使用になる場合は (KX-HDV シリーズ)	2-12
■ 本製品以外の DHCP サーバーをご使用になる場合は (KX-UT シリーズ)	2-13
■ 本製品以外の DHCP サーバーをご使用になる場合は (KX-HDV シリーズ)	2-14
■ 電話機の WEB 画面でプロビジョニング保守を設定するには	2-15
■ 電話機のボタン機能について (KX-UT シリーズ)	2-16
■ 発信操作について (KX-UT シリーズ)	2-18
■ 着信操作について (KX-UT シリーズ)	2-18
■ 保留 / 転送操作について (KX-UT シリーズ)	2-18
■ 電話機のボタン機能について (KX-HDV シリーズ)	2-19
■ 発信操作について (KX-HDV シリーズ)	2-21
■ 着信操作について (KX-HDV シリーズ)	2-21
■ 保留 / 転送操作について (KX-HDV シリーズ)	2-21
■ 電話機の操作について	2-22

IP200H/IP200PGの初期設定について

IP200H、IP200PGをパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP200H、CS-IP200PG(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)があります。本製品に内線子機として登録したあと、内線番号、保守サーバー接続設定(本製品)などをIP200H、IP200PGごとに設定してください。

※弊社ホームページに掲載の各取扱説明書をよくお読みいただき、手順にしたがって製品に付属のUSBケーブルを接続してください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

1. ルーター機能設定

ご利用の環境に合わせて、管理者用の「IPアドレス」画面でLAN側のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を設定します。

※出荷時、本製品のルーター機能のWAN動作モードは、「使用しない」に設定されています。

ひかり電話(網直収)に加えてインターネットをご利用になる場合は、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目で「PPPoE」を選択します。
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録」をクリックします。
- ③「回線状態表示」項目で「接続」をクリックします。

ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は、「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面で「ひかり電話(GW配下)」を選択して、「登録」をクリックしてから、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN接続先」画面の「回線種別設定」項目で「DHCPクライアント」を選択します。
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録」をクリックします。
- ③「回線状態表示」項目に接続状況が表示されます。

※ひかり電話(GW配下)に加えてインターネットをご利用になる場合は、本製品と接続されたNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのインターネット接続設定が必要です。

2. 電話回線設定

本製品に接続するIP回線のIP電話番号を設定します。

3. PBX設定

次の手順で内線番号などを設定して、ご使用になる端末を本製品の内線子機として登録します。

「基本」画面/「特番」画面

保留音、留守番電話機能、TELポートの通信中転送、特別番号を設定します。

※出荷時、本製品の留守番電話機能、TELポートの通信中転送は、「無効」に設定されていますので、必要に応じて設定してください。

「内線個別」画面/「内線代表」画面/「着信」画面

本製品に内線子機として登録する端末の内線番号、プリセット発信時の外線選択設定、本製品に接続する端末の機種と留守電ボックス、外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別の選択、内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)などを設定します。

「電話機」画面/「電話帳」画面(KXシリーズ/IP200H/IP200PG)

IP電話機の機能(外線ボタン、機能ボタン)の割り当て、電話帳など、必要に応じて設定します。

(次ページにつづく)

設定の更新について

本製品で変更した設定を端末に反映させるためには、端末の再起動が必要な場合がありますので、ご注意ください。

2 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

4. 電話機の登録

PBX設定完了後、内線子機としてご使用になる端末側の内線設定をします。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

5. 着信拒否/転送先/留守番電話設定

必要に応じて、ユーザー用の設定画面で、着信を拒否する電話番号、転送先、留守番電話を使用する回線などを設定します。

※詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。

ご参考：ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は

2022年10月現在、NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの出荷時のIPアドレスは、192.168.1.1に設定されていますので、本製品のLAN側IPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)との重複はありませんが、将来的に、これらのゲートウェイ製品の仕様が変更されることもありますので、ご使用になる前に、ゲートウェイ装置の取扱説明書で、設定をご確認ください。ゲートウェイ装置のIPアドレスが本製品のLAN側IPアドレスと重複する場合は、ご使用になる前に、IPアドレス(サブネット)が異なるように、IPアドレス「aaa.bbb.ccc.ddd」の「ccc」部分を変更する必要があります。(ddd部分の変更では同一サブネットとなりLAN-WAN間の通信となりません。)

本製品側を変更する場合

「IPアドレス」画面で、本製品の「IPアドレス」、「DHCPサーバー」画面で自動割り当ての「割り当て開始IPアドレス」を変更します。

変更例：

LAN側IPアドレス ：192.168.24.1
DHCP開始IPアドレス ：192.168.24.2

ゲートウェイ側を変更する場合

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続したパソコンより、設定画面にアクセスして、「詳細設定」メニュー→「DHCPv4サーバ設定」画面で、下記のように変更します。

LAN側IPアドレス ：192.168.24.1/24
開始IPアドレス ：192.168.24.2

※操作方法については、ご使用になるホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの「機能詳細ガイド」をご覧ください。

ホームゲートウェイ配下で転送をご利用の場合

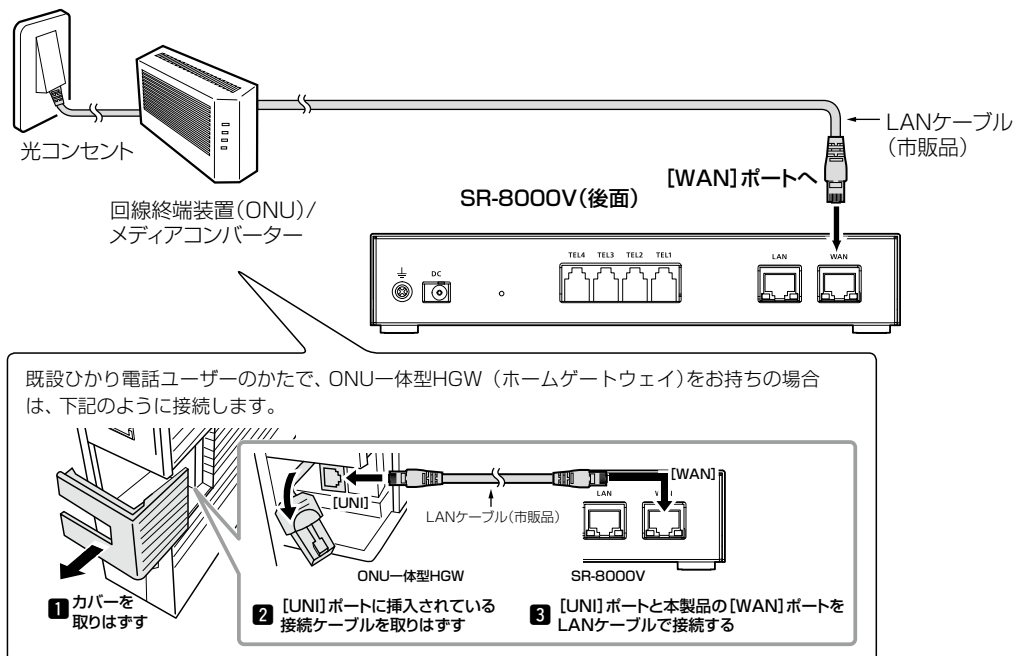
転送先によっては転送発信に失敗する場合があります。

2 導入ガイド

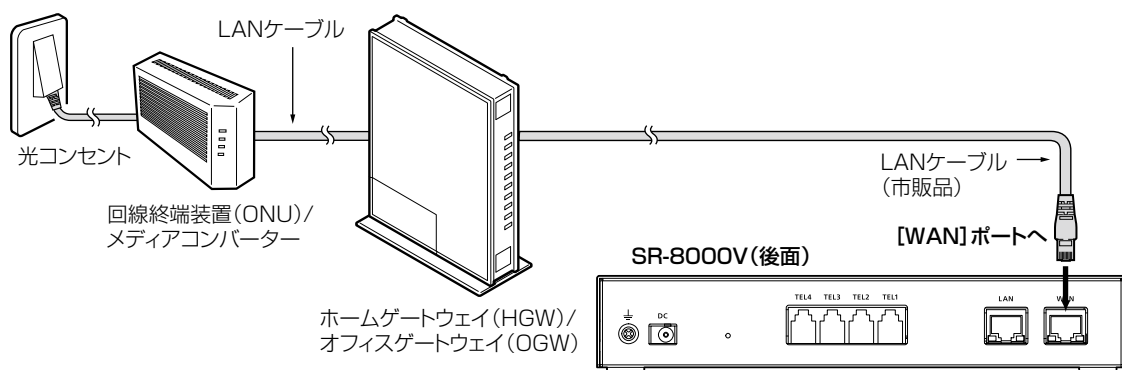
2. 光通信回線と接続するには

ご使用になる機器と本製品の[WAN]ポートをLANケーブルで接続します。

■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合【ひかり電話(網直収)】



■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合【ひかり電話(GW配下)】



2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

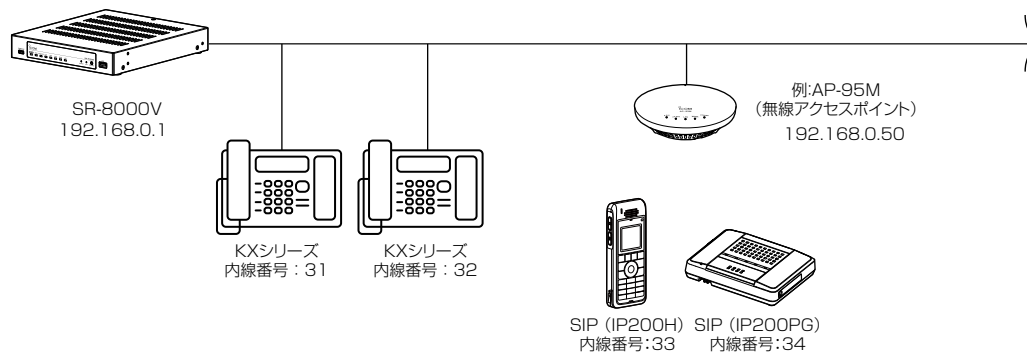
■ 電話機などの接続について

本製品に、IP電話機(SIPフォン)を最大300台まで登録できます。

※2022年10月現在、IP200H、IP200PG、パナソニック社製IP電話機(KXシリーズ)が使用できます。

※ご使用になるIP電話機ごとに、「内線番号」の設定が必要です。

内線代表番号やプレフィクスなど、番号が重複しないように構築してください。



使用する端末に内線番号を設定するときは

◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。

◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。

◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。

※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になります。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX設定 > 内線個別

■ 電話機の登録について

登録する電話機ごとに内線番号を設定します。

- 1 「PBX設定」メニュー、「内線個別」の順にクリックします。
「内線個別」画面が表示されます。
- 2 「内線設定」項目で、登録する種別、名前、内線番号(2桁～7桁の番号)、パスワード、MACアドレスを設定して、〈登録〉をクリックします。

内線設定

種別:	KX-HDVシリーズ	▼
番号:	1	▼
名前:	受付1	
内線番号:	31	
パスワード:	..	
ユーザー画面の個別詳細設定:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
個別詳細設定のパスワード:	..	
個別詳細設定のパスワード変更:	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
SIP外線へ内線番号表示:	しない	▼
IP回線:	捕捉しない	
Peer to Peer:	捕捉しない	
留守電ボックス:	ボックス1	
WAN側からの接続:	禁止	
MACアドレス:	XXXXXXXXXX	

※複雑なパスワードを推奨します

① 設定する

KX-HDVシリーズのMACアドレスを入力します。
※MACアドレスの確認方法については、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

② クリック

- 3 「内線設定一覧」項目で、登録した内容を確認します。

内線設定一覧

すべて	番号	名前	内線番号	種別	設定グループ	共通項目の設定	詳細設定	
<input type="checkbox"/>	1	受付1	31	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	2	受付2	32	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	3	受付3	33	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	4	受付4	34	標準SIPフォン	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	5		301	KX-HDVシリーズ	設定グループ1	-	内線個別詳細	編集 削除
<input type="checkbox"/>	6		302	IP200H	設定グループ1	本製品の設定	内線個別詳細 電話機詳細	編集 削除

確認する

登録 取消 選択削除 全削除

使用する端末に内線番号を設定するときは

- ◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。
 - ◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
 - ◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
- ※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になれます。
※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX設定 > 内線個別

■ 電話機の登録について

内線一括設定/コピーについて

連番で内線番号を一括登録したり、すでに登録した設定内容をほかの内線番号にコピーしたりできます。

内線一括設定

種別: 標準SIPフォン

一括登録: _____ ~ _____

指定した範囲の連番を内線番号として登録を行います。

内線設定コピー

設定コピー: コピー元: 302 (IP200H)

コピー先

すべて 31 (標準SIPフォン) 32 (標準SIPフォン) 33 (標準SIPフォン)
 34 (標準SIPフォン) 301 (KX-HDVシリーズ) 302 (IP200H)

コピーする設定項目

種別

SIP外線へ内線番号表示

IP回線

Peer to Peer

留守電ボックス

WAN側からの接続

電話機詳細設定

※種別もコピーされます。

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX設定 > 特番

■ 特番設定

フレキシブルボタンのない電話機などで操作したり、内部処理をしたりするために割り当てる特別番号について設定します。

1 「PBX設定」メニュー、「特番」の順にクリックします。
「特番」画面が表示されます。

2 特番を設定して、「登録」をクリックします。
※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。
※任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で入力します。
※緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は使用しないでください。
※内線番号や内線代表番号と重複した数字は設定できません。
また、内線番号や内線代表番号、他の特番の冒頭部と重複した数字や記号も設定できません。

特番設定	
コールピックアップ:	*81
グループピックアップ:	**
指定ピックアップ:	*80
パーク保留:	*90
パーク応答:	*91
外線キー応答:	*92
音声呼出:	*83
不在転送:	*94
不応答転送:	*95
話中転送:	*96
外線着信転送の切替:	*97
昼夜切替:	*98
留守電の開始と停止:	*99
留守電の再生:	*84
回線閉塞の開始と停止:	*87
着信おまかせの開始と停止:	*86
システム特番:	*82 *93 *85 *88 *89
無線機呼出プレフィクス設定	
個別呼出:	*
グループ呼出:	#
全体呼出:	**

① 設定する

登録 **② クリック**

2 導入ガイド

3. 内線電話の構築について

PBX内線詳細設定 > IP200H

PBX内線詳細設定 > IP200PG

PBX内線詳細設定 > KX-UTシリーズ

PBX内線詳細設定 > KX-HDVシリーズ

■ 電話機の設定

設定グループごとに機能の割り当てなどを設定します。

※KX-HDVシリーズの場合を例に説明します。

- 1 「PBX内線詳細設定」メニュー、「KX-HDVシリーズ」の順にクリックします。
「KX-HDVシリーズ」画面が表示されます。

- 2 「設定グループの選択」欄で編集したい設定グループを選択します。

電話機設定

設定グループの選択: ▼ ① 選択する
※変更すると、表示する設定グループが変更されます。

名前:

- 3 必要に応じて機能の割り当てをして、「登録」をクリックします。

機種共通設定 (設定グループ1)

ピックアップグループ番号:

コールピックアップ対象: ▼

機能	設定	機能	設定
17	DNキー ▼	DNキー	DNキー
16	DNキー ▼	DNキー	DNキー
15	DNキー ▼	DNキー	DNキー
14	DNキー ▼	DNキー	DNキー
13	DNキー ▼	DNキー	DNキー

② クリック

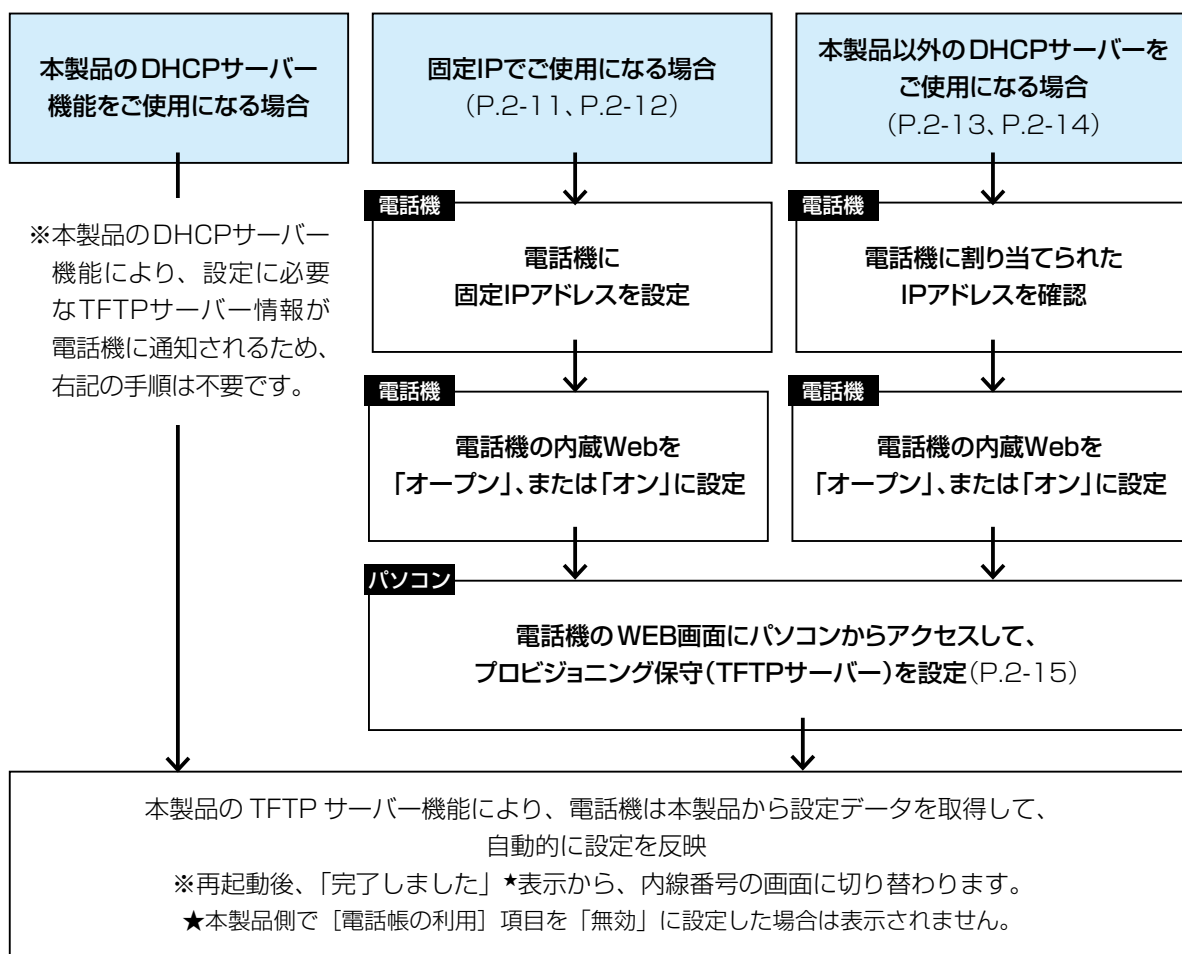
4. KX シリーズの電話機について

■ ご使用になるまでの流れ

本製品にKXシリーズの電話機を登録してご使用になる場合、下記のように接続するネットワーク環境により、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要になることがあります。

※本製品側で、ご使用になる電話機ごとのMACアドレス登録や内線番号などの設定が完了しているものとして説明しています。(P.2-6)

※電話機の操作や設定など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。



ご注意

- ◎初期導入時以外は、電話機のWEB画面で設定を変更しないでください。
※電話機のWEB画面で設定を変更した項目は、本製品から設定が適用されなくなります。
- ◎電話機のWEB画面にアクセスして「403 Forbidden エラー」が表示された場合は、内蔵Webで「クローズ」、または「オフ」を設定し、再度「オープン」、または「オン」にしてください。(P.2-11、P.2-12、P.2-13、P.2-14)
- ◎電話機のWEB画面にアクセスしたあとは、本製品からアクセスできるように電話機を再起動してください。

初期導入時に設定データを取得できないときは

- ◎電話機のMACアドレスが正しく登録されているか、本製品の設定画面で確認してください。(P.2-6)
- ◎KXシリーズの電話機を固定IPアドレスでご使用になる場合、または本製品以外のDHCPサーバーを使用する場合、ネットワーク環境によっては、設定データを取得できないことがあります。
同一ネットワーク上にあるDHCPサーバーと切りはなすか、電話機を初期化(P.2-15)してから、設定をやりなおしてください。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

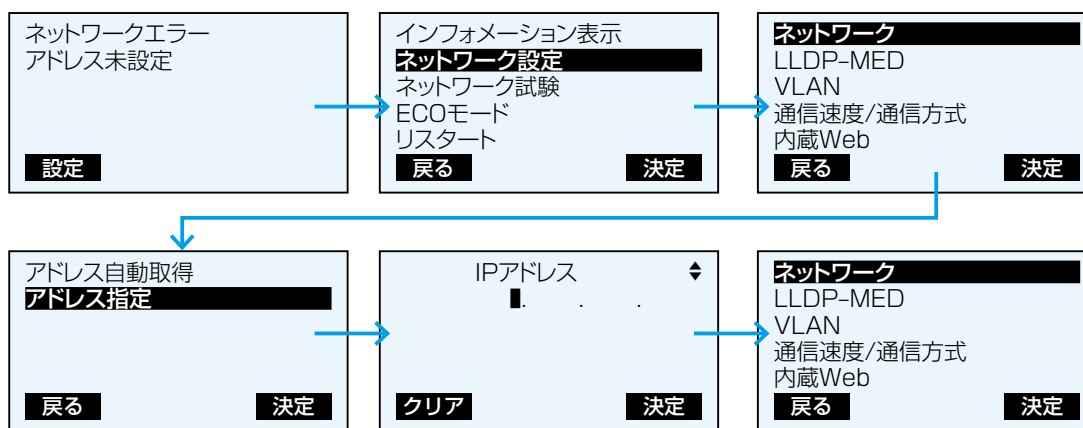
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

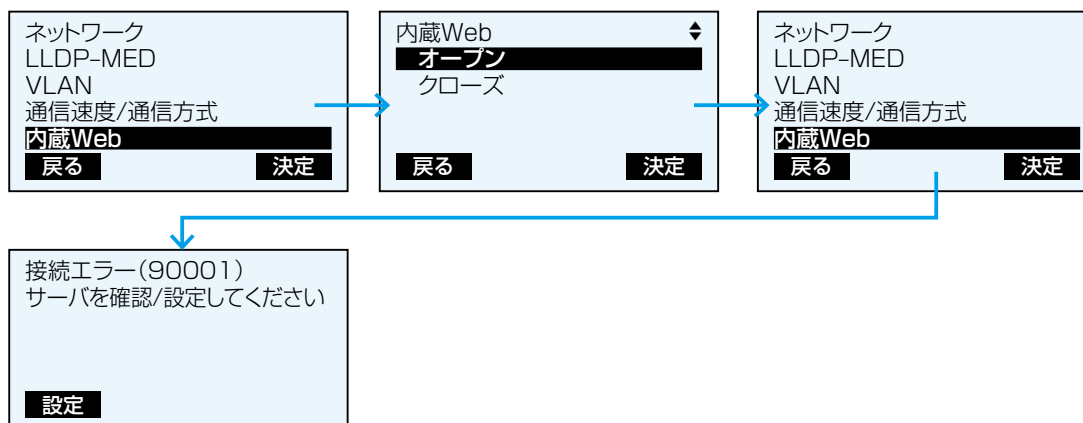
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ネットワーク」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 IPアドレス、サブネットマスク*などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

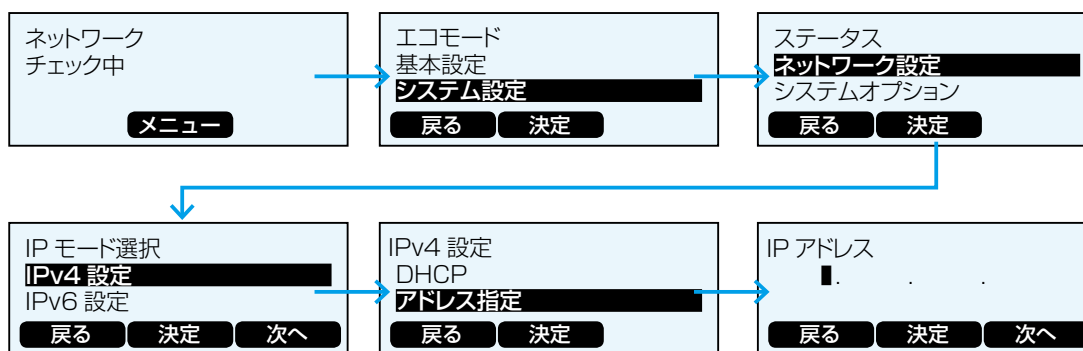
■ 固定IPアドレスでご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機の操作、設定など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

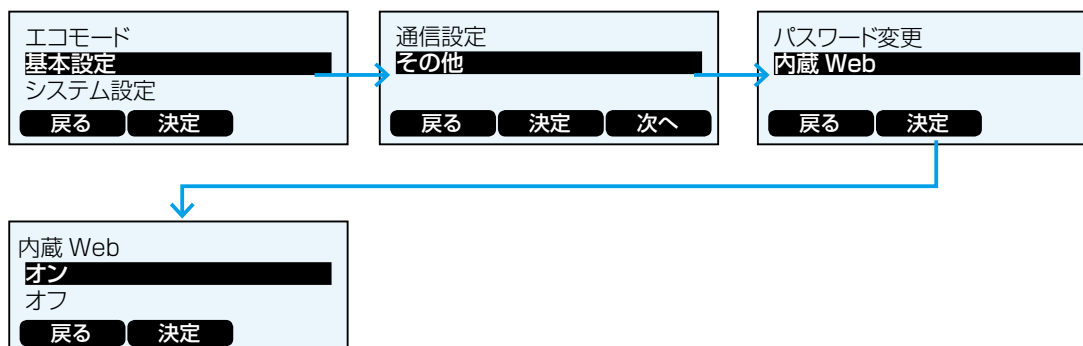
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈メニュー〉を押します。
- 2 「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 6 IPアドレス、サブネットマスク★などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KXシリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-UTシリーズ)

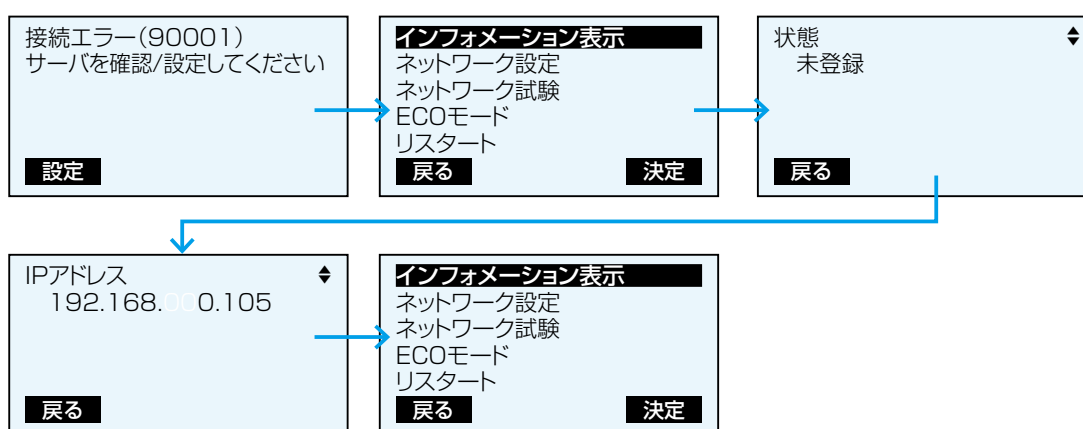
本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-UTシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-UTシリーズ)の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。

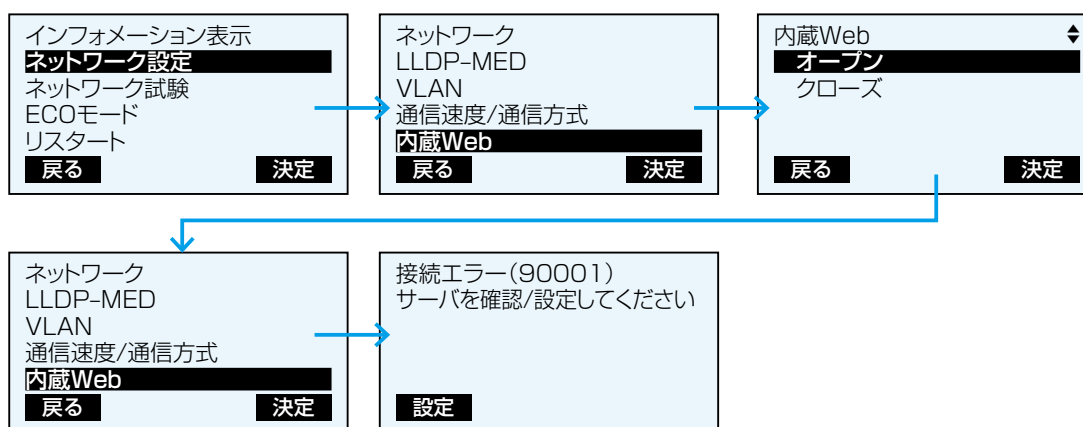
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「インフォメーション表示」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 カーソルキー(下)を押します。
- 4 IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。

※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は(KX-HDVシリーズ)

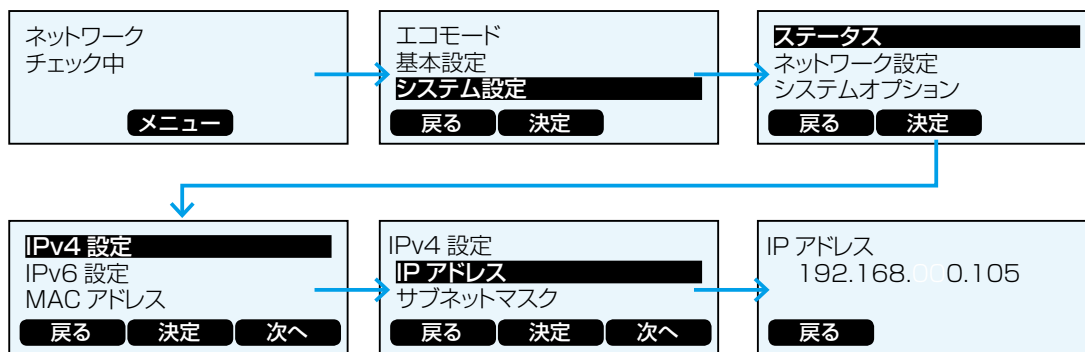
本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-HDVシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-HDVシリーズ)の操作、設定など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。

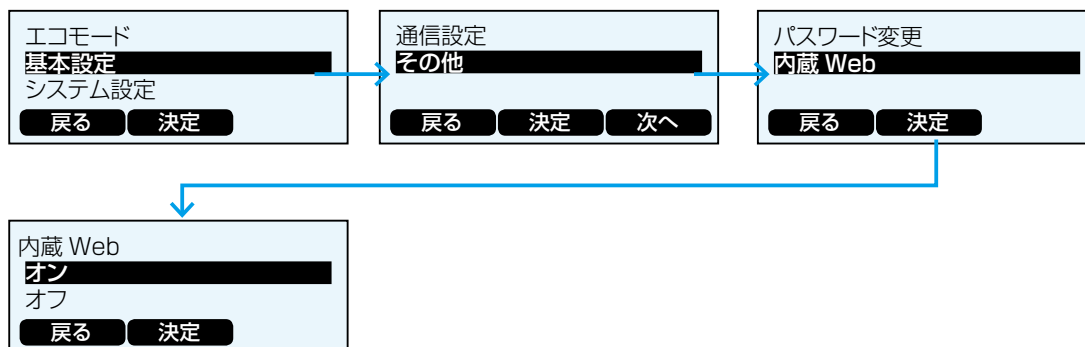
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- 2 「システム設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「ステータス」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「IPv4設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 5 「IPアドレス」を選択して、〈決定〉を押します。
- 6 IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オン」に設定します。

※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- 1 「基本設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- 2 「その他」を選択して、〈決定〉を押します。
- 3 「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- 4 「オン」を選択して、〈決定〉を押します。

(P.2-15の「電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには」につづく)

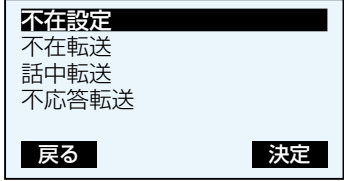
2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

不在 <input type="checkbox"/>	電話に応答できないときなど、あらかじめ不在設定しておく、着信を拒否できます。 ※「不在転送」、「話中転送」、「不応答転送」(右図)は使用できない機能です。 これらの機能を使用するときは、本製品で設定したフレキシブルボタンや特番を操作してください。(P.2-17)	
会議 <input type="checkbox"/>	3者会議通話をするときに使用します。 通話中に ^{会議} <input type="checkbox"/> 、または ^{保留} <input type="checkbox"/> を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 ^{会議} <input type="checkbox"/> を押します。	
フック <input type="checkbox"/>	通話中に押すと、通話を切断します。 ※転送操作中に ^{フック} <input type="checkbox"/> 、 ^{転送} <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
再ダイヤル <input type="checkbox"/>	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。	
メッセージ <input type="checkbox"/>	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。	
保留 <input type="checkbox"/>	通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。	
転送 <input type="checkbox"/>	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送操作中に ^{フック} <input type="checkbox"/> 、 ^{転送} <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
ミュート <input type="checkbox"/> 自動応答	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は ^{スピーカー/ヘッドセット} <input type="checkbox"/> が赤色に点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておく、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。	
戻る <input type="checkbox"/>	操作などを取り消すときに使用します。	
スピーカー/ヘッドセット <input type="checkbox"/>	受話器を置いたまま通話するとき、または電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。	

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-UTシリーズ)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-UT136Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-UT123Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能
DNキー	×	※KX-UT123Nでは内部で2つ固定割り当て
外線状態通知キー	×	
外線発信キー	○	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)
外線着信キー	×	
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))
不在転送切替	○	(不在転送特番)
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)
話中転送切替	○	(話中転送特番)
ヘッドセット	△	※KX-UT123Nではヘッドセット接続時有効
音声呼出	○	(音声呼出特番)

※各機能について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当され、追加設定はできません。
外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)
このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。
電話機ごとの操作については、本書2-22ページ～2-27ページでご確認ください。

KX-UT136Nで外線を捕捉するときは

KX-UT136Nに割り当てられた〈外線発信キー〉につづけて、電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、回線を捕捉して外線発信できます。

※外線発信時は、回線捕捉の設定が必要です。

ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、回線を設定してください。

※KX-UT136Nで、電話帳から発信する場合は、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-UTシリーズ)

1.ダイヤル発信する(P.2-22)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
 - 電話番号をダイヤルして受話器を上げる
- ※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2.ワンタッチで発信する(P.2-22)

- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
 - 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる
- ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3.外線発信キーで発信する(P.2-22)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

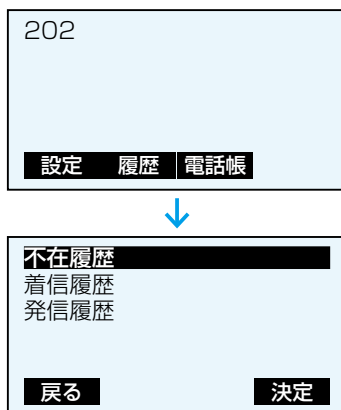
4.電話帳から発信する(P.2-22)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5.履歴から発信する

- ①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
- ②相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-UTシリーズ)

1.内線着信に回答する(P.2-24)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に対応する場合)
- 高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2.外線着信に回答する(P.2-24)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に対応する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す
※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3.応答を拒否する

- 着信中に、拒否を押す
- ※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
- ※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4.代理で応答する(P.2-26)

- 自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる
- ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。
- ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-UTシリーズ)

1.自己保留する(保留/解除)(P.2-24)

- 通話中に、保留を押す
- 解除するとき、低速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2.転送する(P.2-26)

- ①通話中に、転送を押す
 - ②転送先の電話番号をダイヤルする
 - ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く
- ※転送操作中にフック、転送の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

3.パーク保留/応答する(P.2-26)

- ①通話中に、〈パーク〉を押す
- ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する
- ③転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- ④転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など詳しくは、ご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

キャンセル []	操作などを取り消すときに使用します。 ※通話中に押すと、その通話を切断します。
会議 []	3者会議通話をするときに使用します。 通話中に []、または [] を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 [] を押します。
再ダイヤル []	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。
ミュート/ 自動応答 []	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は、画面に〈ミュート〉が点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておく、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。
ヘッドセット []	電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。
メッセージ []	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。
転送 []	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送先と通話中に [] を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 [] を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
保留 []	通話中の相手にしばらく待ってもらうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。
スピーカーホン []	受話器を置いたまま通話するときに使用します。
- 音量 + []	着信音量、ハンドセット音量、ヘッドセット音量、スピーカー音量を調整するときに使用します。
ライン1/P1 []	機能を割り当てて使用します。 電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン1に割り当てた機能が反映されます。 ※KX-HDV130Nにあるボタンです。
ライン2/P2 []	機能を割り当てて使用します。 電話機(KX-HDVシリーズ)の設定画面で、フレキシブルボタン2に割り当てた機能が反映されます。 ※KX-HDV130Nにあるボタンです。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(KX-HDVシリーズ)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-HDV230Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-HDV130Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能
DNキー	×	※KX-HDV130Nでは、 <small>ライン1/P1</small> 、 <small>ライン2/P2</small> に「DNキー」、「通話転送」、「ブラインド転送」、「会議通話」、「未使用」設定時
外線状態通知キー	×	
外線発信キー	○	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)
外線着信キー	×	
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))
不在転送切替	○	(不在転送特番)
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)
話中転送切替	○	(話中転送特番)
通話転送	×	
ブラインド転送	×	
会議通話	×	
音声呼出	○	(音声呼出特番)

※各機能について詳しくは、別紙の取扱説明書[活用編]をご覧ください。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎KX-HDV130Nでは、ライン1/P1、ライン2/P2 にDNキー以外を割り当てた場合、内部にDNキーが2つ動作します。
また上記とは別に、内部にDNキー(保留/転送用)が1つ動作します。
※ ライン1/P1、ライン2/P2 にDNキーを割り当てても、DNキーは2つしか動作しません。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

増設ユニット(1～5)

- ◎増設ユニットを取り付けることで、使用するフレキシブルボタンを増やせます。(最大5台)
- ◎2台目以降は、フレキシブルボタンに割り当てられる機能は制限されています。(取扱説明書[活用編])

4. KX シリーズの電話機について

■ 発信操作について(KX-HDVシリーズ)

1.ダイヤル発信する(P.2-23)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
 - 電話番号をダイヤルして受話器を上げる
- ※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2.ワンタッチで発信する(P.2-23)

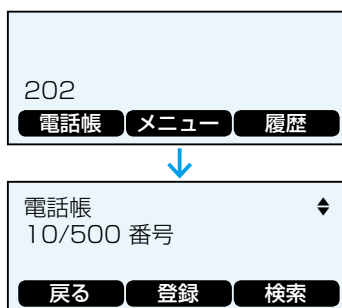
- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
 - 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる
- ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3.外線発信キーで発信する(P.2-23)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

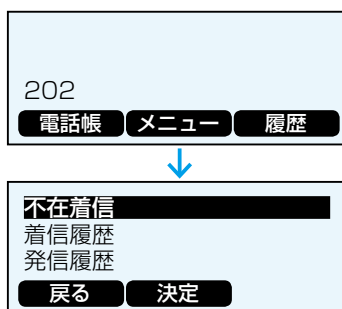
4.電話帳から発信する(P.2-23)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5.履歴から発信する

- ① 履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
- ② 相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について(KX-HDVシリーズ)

1.内線着信に回答する(P.2-25)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す

2.外線着信に回答する(P.2-25)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 〈外線着信キー〉を押す
- 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(青■)している〈DNキー〉を押す
※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3.応答を拒否する

着信中に、拒否を押す
※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。
※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4.代理で応答する(P.2-27)

自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる
※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。
※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について(KX-HDVシリーズ)

1.自己保留する(保留/解除)(P.2-25)

- 通話中に、保留を押す
- 解除するときは、低速点滅(青■)している〈DNキー〉、または〈外線着信キー〉を押す

2.転送する(P.2-27)

- ①通話中に、転送を押す
- ②転送先の電話番号をダイヤルする
- ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く

3.パーク保留/応答する(P.2-27)

- ①通話中に、〈パーク〉を押す
- ②低速点滅(青■)のキー番号を確認する
- ③転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- ④転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作		KX-UT136N	KX-UT123N
発信	ダイヤル発信 (内線/外線) ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
	電話帳発信 (内線/外線)★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
	ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	—
	外線発信キー/ 外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	—
	短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
	履歴発信 (内線/外線)★1	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
発信	ダイヤル発信 (内線/外線) ★1★2	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
	電話帳発信 (内線/外線)★1	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる
	ワンタッチ (内線/外線) ★1	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	ライン1/P1、ライン2/P2に「ワンタッチ」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	外線発信キー/ 外線キー (外線)	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	ライン1/P1、ライン2/P2に「外線発信キー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	短縮ダイヤル発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする
	履歴発信 (内線/外線)★1	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別」画面で、捕捉するIP回線を設定してください。

★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-UT136N	KX-UT123N
着信	内線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)している<DNキー>を押す 	受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)
	外線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)している<外線着信キー>を押す ◎高速点滅(赤■)している<外線状態通知キー>、または高速点滅(緑■)している<DNキー>を押す 	受話器を上げる (画面に表示されている発信元に応答する場合)
	着信拒否	<p>あらかじめ^{不在}□を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しただけで<外線状態通知キー>は高速点滅(赤■)し、切断しません。</p>	<p>あらかじめ^{不在}□を押し、不在設定を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。 発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。</p>
通話保留 (自己保留)	通話中に ^{保留} □を押す	通話中に ^{保留} □を押す	
保留解除	保留中に低速点滅(緑■)している<DNキー>を押す	保留中に ^{保留} □を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。	

2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作		KX-HDV230N	KX-HDV130N
着信	内線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(青■)している<DNキー>を押す 	<ul style="list-style-type: none"> 受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	外線着信に応答	<ul style="list-style-type: none"> ◎受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ◎高速点滅(青■)している<外線着信キー>を押す ◎高速点滅(赤■)している<外線状態通知キー>、または高速点滅(青■)している<DNキー>を押す 	<ul style="list-style-type: none"> 受話器を上げる(画面に表示されている発信元に応答する場合) ※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「外線着信キー」、「外線状態通知キー」、「DNキー」のいずれかを割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
	着信拒否	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ不在設定(<決定>キー⇒転送/不在⇒不在設定)を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時は鳴動しただけで<外線状態通知キー>は高速点滅(赤■)し、切断しません。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ不在設定(<決定>キー⇒転送/不在⇒不在設定)を「オン」にしておく ※内線着信時、着信拒否(切断)します。発信元には話中音が聞こえます。 ※外線着信時、ほかに外線着信を確認できる電話機がある場合は、切断しません。
通話保留(自己保留)		通話中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す	通話中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す
保留解除		<ul style="list-style-type: none"> 保留中に低速点滅(青■)している<DNキー>を押す ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。 	<ul style="list-style-type: none"> 保留中に $\frac{\text{保留}}{\square}$ を押す ※ $\frac{\text{ライン1/P1}}{\square}$、$\frac{\text{ライン2/P2}}{\square}$ に「DNキー」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。 ※受話器を置いたままだとハンズフリー通話状態になります。

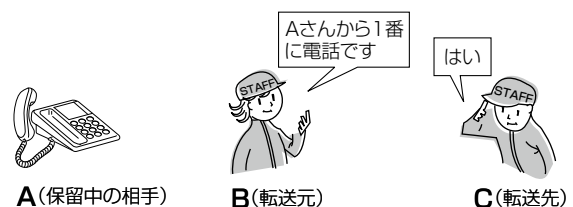
2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作	KX-UT136N	KX-UT123N
パーク保留* (保留特番：*90)	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に ^{転送} を押す ②「*90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③保留音を確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
パーク応答 (応答特番：*91)	伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する	「*91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101)
呼出転送	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送操作中に ^{フック} 、 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に ^{転送} を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送操作中に ^{フック} 、 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 (コールピックアップ特番：*81)	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

- ★パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
 ※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
 ※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



2 導入ガイド

4. KX シリーズの電話機について

■ 電話機の操作について

操作	KX-HDV230N	KX-HDV130N
パーク保留* (保留特番：*90)	①通話中に〈パーク〉を押す ②低速点滅(青■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に ^{転送} [] を押す ②「*90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③保留音を確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える ※ ^{ライン1/P1} []、 ^{ライン2/P2} [] に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
パーク応答 (応答特番：*91)	伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する	「*91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101) ※ ^{ライン1/P1} []、 ^{ライン2/P2} [] に「パーク」を割り当てている場合は、KX-HDV230Nと同じ動作が可能です。
呼出転送	①通話中に ^{転送} [] を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に ^{キャンセル} [] を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 ^{キャンセル} [] を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に ^{転送} [] を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、 実行 を押す、または受話器を置く ※転送先と通話中に ^{キャンセル} [] を押すと、転送先との通話が切断されます。 もう一度 ^{キャンセル} [] を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。
代理応答 (コールピックアップ特番： *81)	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。 ※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる

- ★ パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
 ※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
 ※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



この章では、

本製品の設定内容の保存、ファームウェアを更新する手順について説明しています。

1. 設定内容の確認または保存	3-2
2. 保存された設定の書き込み(復元)	3-3
3. 設定を出荷時の状態に戻すには	3-4
■ 〈INIT〉ボタンを使用する	3-4
■ 設定画面を使用する	3-5
4. ファームウェアを更新する	3-6
■ ファームウェアについて	3-6
■ ファームウェアの更新についてのご注意	3-6
A) ファイルを指定して更新する	3-7
B) オンライン更新	3-8
C) 〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する	3-9
5. USBメモリーによる自動設定機能について	3-10
■ USBストレージデバイス使用時のご注意	3-11
■ 対応するUSBストレージデバイスの規格	3-11
■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた	3-12
■ 自動バックアップされる設定ファイルについて	3-12
■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには	3-13
■ オーディオファイルについて	3-14
6. USBメモリーから自動で設定を復元するには	3-16
■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順	3-16
7. USBメモリーからファームウェアを更新するには	3-18
■ 更新するまでの手順	3-18
8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには	3-20
■ オリジナル保留音の場合	3-20
■ オリジナルおまたせメッセージの場合	3-21
■ オリジナル音声の場合	3-22
9. USBメモリー用の認証キーを設定するには	3-23
■ 設定のしかた	3-23

3 保守について

1. 設定内容の確認または保存

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定画面で変更された内容を確認して、その内容を設定ファイル(拡張子:sav)としてパソコンに保存できます。
※保存した設定ファイル(拡張子:sav)は、本製品以外の製品では使用できません。
※設定を保存しておくことで、誤って設定内容が失われたときなどに利用できます。

1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。

「設定の保存/復元」画面が表示されます。

2 「設定の保存」項目の「保存」をクリックします。

設定の保存

設定の保存: クリック

設定の復元

設定ファイルの選択:

復元:

設定内容一覧

ipradio	call_tbl	call_id	15	1
ipradio	call_tbl	call_id	16	2
ipradio	call_tbl	call_id	17	1002
ipradio	call_tbl	call_id	18	1003
ipradio	call_tbl	call_id	19	1004
ipradio	call_tbl	call_id	20	1001

設定が変更された項目のみ表示します。

3 保守について

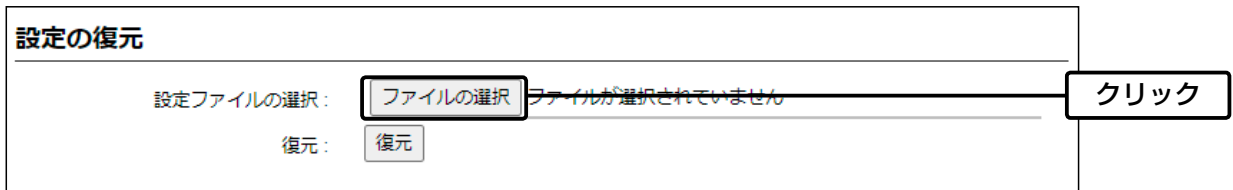
2. 保存された設定の書き込み(復元)

管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定画面からパソコンに保存した設定ファイル(P.3-2)を本製品に書き込む手順を説明します。

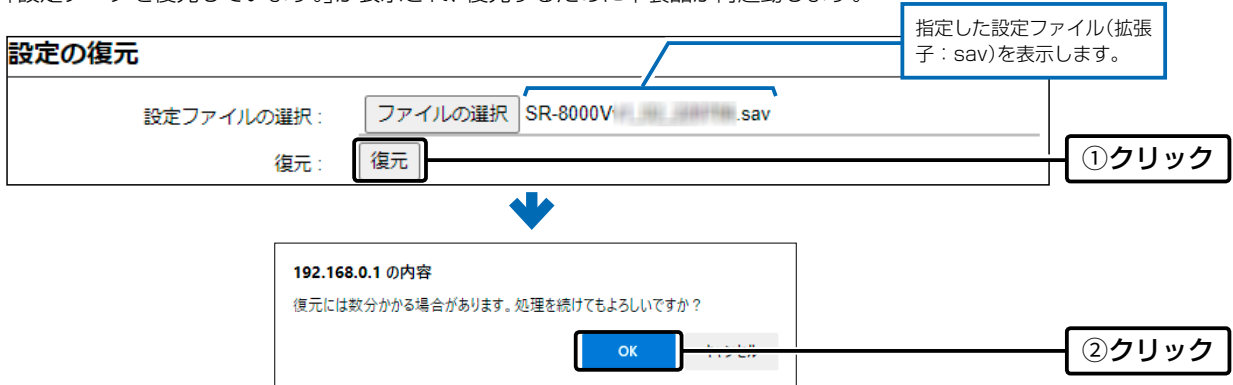
- 1 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。

- 2 「設定の復元」項目の〈ファイルの選択〉をクリックします。
「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)が表示されます。



- 3 「アップロードするファイルの選択」画面(別画面)から、設定ファイル(拡張子: sav)を指定して、〈開く(O)〉をクリックします。
「設定ファイルの選択」欄のテキストボックスに、書き込む設定ファイルが表示されます。

- 4 〈復元〉をクリックします。
「設定データを復元しています。」が表示され、復元するために本製品が再起動します。



- 5 再起動後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。
設定画面に戻らないときは、復元中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)

設定ファイルについてのご注意

本製品以外の機器へ書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、または停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

ネットワーク構成を変更するときなど、既存の設定データをすべて消去して、設定をはじめからやりなおすときは、本製品の設定内容を出荷時の状態に戻せます。

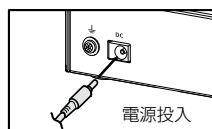
そのときの状況に応じて、次の2とおりの方法があります。

■ 〈INIT〉ボタンを使用する

- 1 本製品からすべての機器を取りはずして、電源を入れる

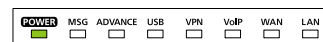
[POWER]ランプの点灯を確認してから、手順2の操作を開始してください。

※ご使用の環境により、[POWER]ランプ以外の状態は異なります。



ランプ表示

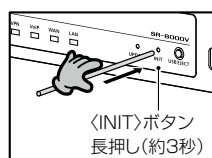
点灯(緑)



- 2 すべてのランプが ● 橙点灯するまで、〈INIT〉ボタンを押す

※〈INIT〉ボタンを押すと、[MSG]ランプが緑点滅します。

そのまま押しつづけると、すべてのランプが橙点灯します。



点灯(緑)



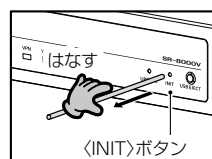
点滅(緑)



全点灯(橙)

- 3 すべてのランプが ● 橙点灯したことを確認して、〈INIT〉ボタンから手をはなす

※[POWER]ランプが ● 緑点灯すると、初期化完了です。



全点滅(赤→緑)

点灯(橙)



点滅(緑)



点灯(緑)



ご注意

初期化すると、本製品のIPアドレスは、「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

3 保守について

3. 設定を出荷時の状態に戻すには

管理 > 初期化

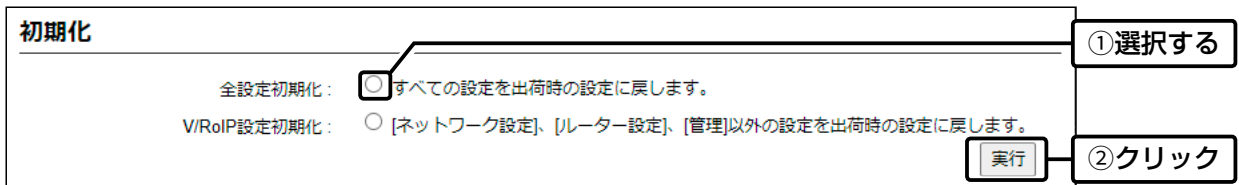
本製品に設定されたIPアドレスと管理者パスワードがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面から、すべての設定を出荷時の状態に戻せます。

IPアドレスと管理者パスワードが不明な場合などの初期化については、3-4ページをご覧ください。

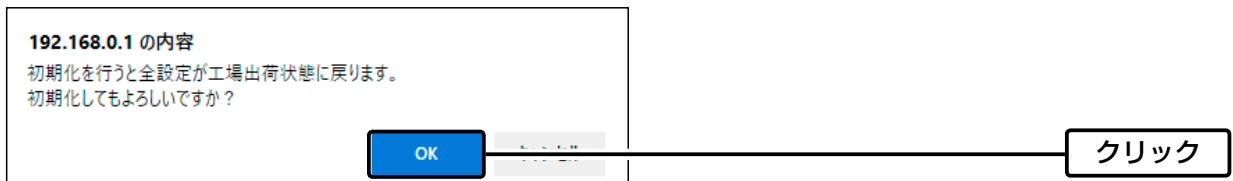
■ 設定画面を使用する

- 1 「管理」メニュー、「初期化」の順にクリックします。
「初期化」画面が表示されます。

- 2 初期化したい条件(例:全設定初期化)を選択して、「実行」をクリックします。



- 3 <OK>をクリックします。
出荷時の状態に戻すために、本製品が再起動します。



- 4 再起動完了後、「設定画面に戻る」と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。

初期化の条件について

◎全設定初期化をクリックした場合

本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

初期化すると、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」(出荷時の設定)になります。

初期化実行後、本製品にアクセスできなくなった場合は、パソコンのIPアドレスを変更してください。

◎V/RoIP設定初期化をクリックした場合

「ネットワーク設定」メニュー、「ルーター設定」メニュー、「管理」メニュー以外で設定した内容だけを出荷時の状態に戻します。

初期化実行後、WLAN無線機、IP電話機が使用できなくなりますので、必要に応じて、設定してください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

本製品の設定画面からファームウェアを更新できます。

A ファイルを指定して更新する

オンライン更新できない環境では、あらかじめ弊社ホームページからダウンロードしたファームウェアを指定して、手動で更新できます。

B オンライン更新(P.3-8)

インターネットから本製品のファームウェアを最新の状態に自動更新できます。

C 〈UPDATE〉ボタンを使用して更新する(P.3-9)

本体の〈UPDATE〉ボタンを押して、本製品のファームウェアを最新の状態に更新できます。

TOP

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップすることがあります。

更新を実行する前に、本製品の設定画面にアクセスして、「TOP」画面に表示されるバージョン情報を確認してください。

ファームウェアを更新すると、機能の追加など、本製品を最良の状態にできます。

システム情報	
本体名称	SR-8000V
バージョン	SR-8000V-001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP100H)	001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP110H)	001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP200H)	001.001.001.001
内蔵ファームウェアバージョン (IP200PG)	001.001.001.001

バージョン情報

■ ファームウェアの更新についてのご注意

◎ 更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。

◎ ご使用のパソコンでファイアウォール機能が動作していると、更新できないことがあります。

更新できない場合は、ファイアウォール機能を無効にしてください。

◆ ファームウェアの更新結果については、自己責任の範囲となります。

次に示す内容をよくお読みになってから、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> から提供される本製品のアップデート用ファームウェアファイルをご使用ください。

本製品以外の機器への書き込み、改変による障害、および書き込みに伴う本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

A ファイルを指定して更新する

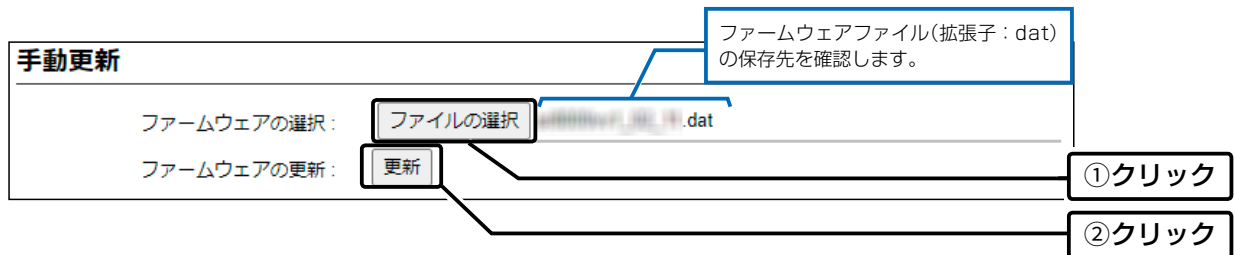
ファームウェアの更新を実行する前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.3-2)

※ 更新後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードするときは、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

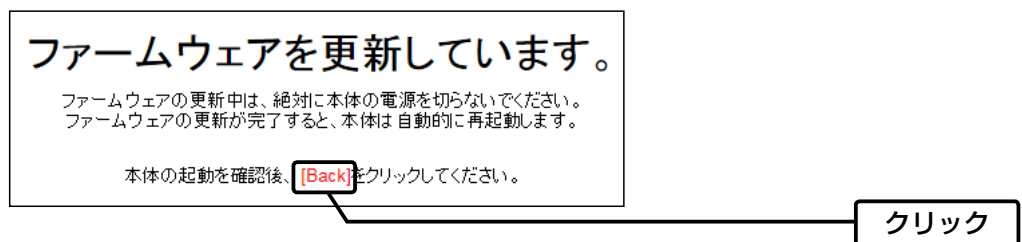
※ 日常、管理者以外の端末から更新できないように、設定画面へのアクセス制限の設定をおすすめします。(取扱説明書[活用編])

- 1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

- 2 下記のように、弊社ホームページからダウンロードして解凍したファームウェアファイル(拡張子: dat)の保存先を指定して、更新します。



- 3 更新完了後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックすると、設定画面に戻ります。
設定画面に戻らないときは、ファームウェアの更新中ですので、しばらくしてから再度クリックしてください。
(接続するパソコンや本製品の電源は、絶対に切らないでください。)



ご注意

[Back]の操作(手順3)で設定画面に戻るようになるまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を絶対に切らないでください。
途中で電源を切ると、データの消失や誤動作の原因になります。

※ 出荷時の設定に戻るような注意書きがあるバージョンアップ用ファームウェアの場合は、上図の[Back]をクリックしても設定画面に戻れないことがあります。

その場合は、接続するパソコンのIPアドレスを「例:192.168.0.100」に設定してから、本製品の設定画面「192.168.0.1」にアクセスしなおしてください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

⑧ オンライン更新

下記の手順で、最新のファームウェアを確認後、[MSG]ランプが●緑点灯しているときは、本製品のファームウェアをオンラインで更新できます。

※自動更新機能が「有効」に設定されているときに、オンラインで新しいファームウェアを検知します。(取扱説明書[活用編])

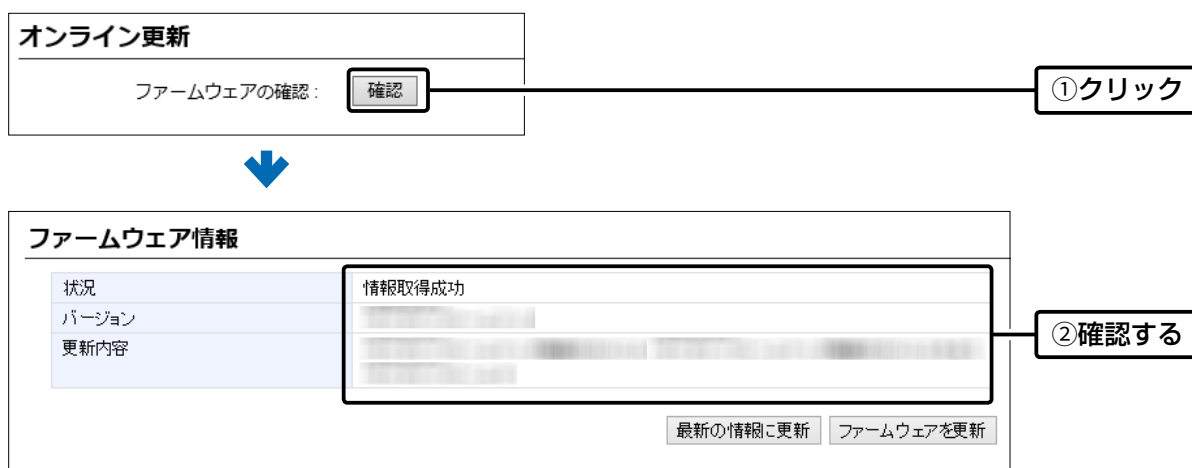
※ファームウェアの確認には、インターネット回線への接続が必要です。

また、インターネット回線接続時は、本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイの設定が必要です。

※更新を実行する前に、現在の設定内容を保存されることをおすすめします。(P.3-2)

1 「管理」メニュー、「ファームウェアの更新」の順にクリックします。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

2 [ファームウェアの確認]欄の<確認>をクリックして、表示される更新内容を確認します。
※「新しいファームウェアはありません。」が表示され、[MSG]ランプが消灯のときは、更新は必要ありません。



3 <ファームウェアを更新>をクリックします。
弊社のアップデート管理サーバーにアクセスを開始します。
※更新により、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、更新を実行する前に、表示される更新内容をご確認ください。

4 更新が完了するまで、お待ちください。
弊社のアップデート管理サーバーに接続すると、ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は、自動的に再起動します。

ファームウェアを更新しています。

ファームウェアの更新中は、絶対に本体の電源を切らないでください。
ファームウェアの更新が完了すると、本体は自動的に再起動します。

本体の起動を確認後、[Back]をクリックしてください。

3 保守について

4. ファームウェアを更新する

管理 > ファームウェアの更新

③ <UPDATE>ボタンを使用して更新する

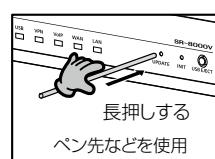
[MSG]ランプが●緑点灯した場合は、下記の手順で、本製品のファームウェアをバージョンアップできます。

※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。

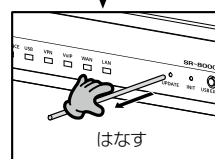
※更新内容によっては、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアが自動更新されることがあります。

運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」(出荷時の設定:有効)に設定してください。

1 [MSG]ランプが●緑点灯から✱緑点滅に切り替わるまで、<UPDATE>ボタンを押します。



2 [MSG]ランプが✱緑点滅したことを確認して、<UPDATE>ボタンから手をはなします。ファームウェアのダウンロードを開始し、更新後は自動的に再起動します。
※本製品が再起動したあと、ご使用の端末を再起動してください。



ランプ表示

点灯(緑)



点灯(緑)

点灯(緑)



点滅(緑)



全点灯(橙)

再起動後、[POWER]ランプ点灯(緑)

※ご使用の環境により、[MSG]ランプ以外の状態は異なります。(全点灯時を除く)

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

本製品のUSBポートにUSBメモリー(市販品)を接続すると、あらかじめUSBメモリーに保存されたファームウェアファイルや設定ファイル(本製品の設定が保存されたファイル)を本製品に自動で読み込みます。

また、本製品のLAN側MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアの更新ができます。

※操作方法については、3-16ページ～3-18ページをご覧ください。

◎ファームウェアの更新

本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアを更新します。

◎設定の保存/復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

◎オリジナル保留音/メッセージ/オリジナル音声

オリジナル保留音

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、オリジナル保留音として読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、保留機能にオリジナル保留音を設定していると、保留音が再生されないまま保留状態となります。

メッセージ

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、着信おませ機能のオリジナルおませメッセージとして読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、ユーザー用の「着信おませ設定」画面でオリジナルおませメッセージを選択していると、メッセージが再生されないまま、着信おませ機能が動作します。

オリジナル音声

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリーに保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、DID機能のオリジナル音声として読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大30件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、応答音声にオリジナル音声を設定していると、応答音声が再生されないままDID機能が動作します。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄が「有効」に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

The screenshot shows the 'USB設定' (USB Settings) screen. It includes the following elements:

- USBメモリー:** Radio buttons for '無効' (Disabled) and '有効' (Enabled). '有効' is selected.
- USBアクセス許可:** Three checked checkboxes: 'ファームウェアの更新' (Firmware Update), '設定の保存/復元' (Save/Restore Settings), and 'オリジナル保留音/メッセージ' (Original Retention Sound/Message).
- USB認証キー:** A text input field for the USB authentication key.
- USB認証キーの書き込み:** A button labeled '書き込み' (Write).

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ USBストレージデバイス使用時のご注意

- ◎ 指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティ対応型のUSBメモリーは使用できません。
- ◎ ご使用になる前に、あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてください。
- ◎ データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
設定保存/復元、ファームウェアの更新で使用する場合など、USBメモリーを接続中([USB]ランプ ● 緑点灯中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。
ファイルの消失や故障の原因になります。
- ◎ USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ USBメモリーを接続中は、[USB]ランプが ● 緑点灯します。
- ◎ 本製品の設定画面でUSB認証キーが設定(P.3-23)されている場合、差し込まれたUSBメモリー側の認証キーと一致しないときは、自動設定機能は動作しません。
- ◎ 設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。
- ◎ USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。
※本製品で動作中のものと異なる設定ファイルやファームウェアファイルが、USBメモリーに保存されている場合は、その内容で自動設定されます。
- ◎ 設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアの更新の順に自動設定を実行します。

■ 対応するUSBストレージデバイスの規格

インターフェース : USB3.0/2.0/1.1

デバイス : USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)

フォーマット : FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)

※すべてのUSB対応周辺機器で動作を保証するものではありません。

※装着するデバイスの消費電流に応じてセルフパワー供給が必要になることがあります。

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 自動設定に使用するファイル名の付けかた

設定ファイル名は、「savedata」(拡張子：sav)でUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定の保存/復元」画面→「設定の保存」項目(P.3-2)で保存したものと、自動バックアップされる設定ファイル以外は、使用できません。

ファームウェアファイル名は、「firmware」(拡張子：dat)でUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの更新に使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードし、解凍してから、ファームウェアファイル名を変更してください。

■ 自動バックアップされる設定ファイルについて

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。

最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例：1世代前のファイル名 bakdata_1.sav

2世代前のファイル名 bakdata_2.sav

3世代前のファイル名 bakdata_3.sav

～ 中略 ～

10世代前のファイル名 bakdata_10.sav

※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(bakdata_10.sav)が削除されます。

また、削除と同時に、ファイル名の数字が1世代後退します。(例：bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)

※ファームウェアファイルは、バックアップされません。

※本製品の設定内容を変更した場合に、設定ファイル(bakdata.sav)が自動バックアップされます。

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ 複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアの更新をするときは、あらかじめ、本製品のシリアルシールに記載されているLAN側MACアドレス(P.v)をフォルダー名[★]とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。

★全角のフォルダー名は使用できません。

ルートディレクトリーにフォルダーがないとき

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のLAN側MACアドレス(例：0090C7000001)と一致するフォルダーがあるとき

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にバックアップ設定ファイルを作成します。

あらかじめ作成しておいたフォルダーの中にある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

自身のLAN側MACアドレス(例：0090C7000002)と一致するフォルダーがないとき

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

自身のLAN側MACアドレスと一致するフォルダーがないため、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。

3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ オーディオファイルについて

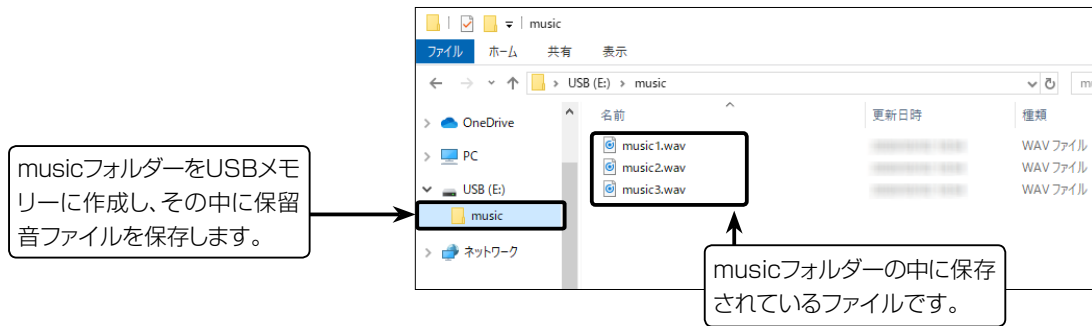
オリジナル保留音、オリジナルおまたせメッセージ、オリジナル音声は、それぞれ最大3件まで本製品に登録できます。(1件につき60秒まで)

※対応するファイルフォーマットは、下記のとおりです。

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ -law	8kHz	8ビット	モノラル(μ -law)	wav

1. オリジナル保留音

読み込ませる保留音ファイル(拡張子:wav)は、下記のように、musicフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※保留音ファイルは、本製品に読み込まれると、下記のように管理者用、ユーザー用の設定画面で扱われます。

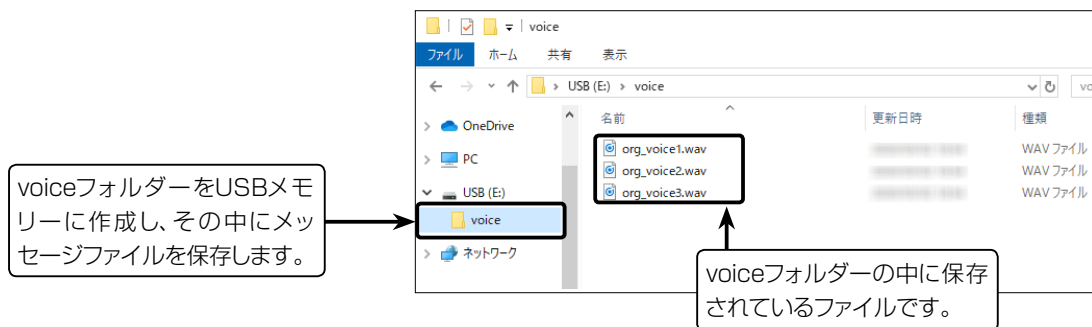
music.1.wav:オリジナル保留音1

music.2.wav:オリジナル保留音2

music.3.wav:オリジナル保留音3

2. オリジナルおまたせメッセージ(着信おまたせ機能で使用する自動応答メッセージ)

読み込ませるメッセージファイル(拡張子:wav)は、下記のように、voiceフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※メッセージファイルは、本製品に読み込まれると、下記のようにユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で扱われます。

org_voice.1.wav:オリジナルおまたせメッセージ1

org_voice.2.wav:オリジナルおまたせメッセージ2

org_voice.3.wav:オリジナルおまたせメッセージ3

※自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.3-13)、そのフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーは参照されません。

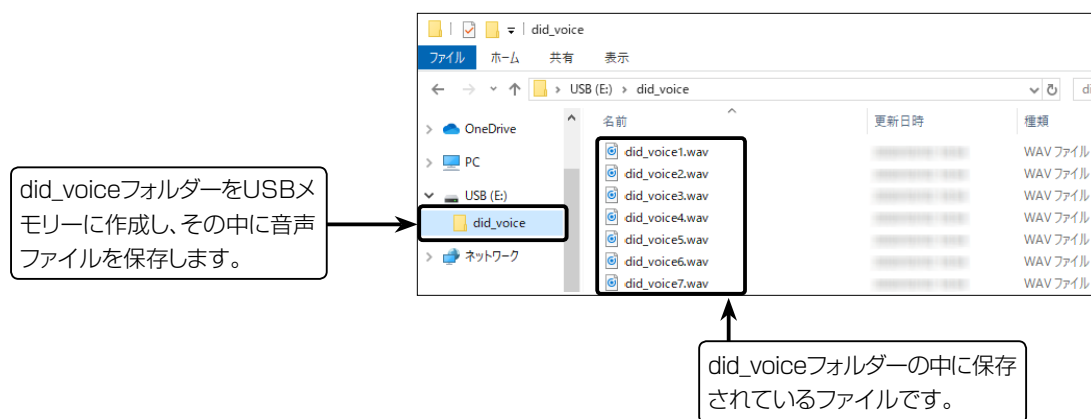
3 保守について

5. USBメモリーによる自動設定機能について

■ オーディオファイルについて

3. オリジナル音声(DID機能で使用する応答音声)

読み込ませるメッセージファイル(拡張子:wav)は、下記のように、 did_voiceフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※音声ファイルは、本製品に読み込まれると、下記のように管理者用の「DIDボックス」画面で扱われます。

did_voice1.wav:オリジナル音声1~did_voice30.wav:オリジナル音声30

※自身のWAN側MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.3-13)、そのフォルダーにあるdid_voiceフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるdid_voiceフォルダーは参照されません。

3 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

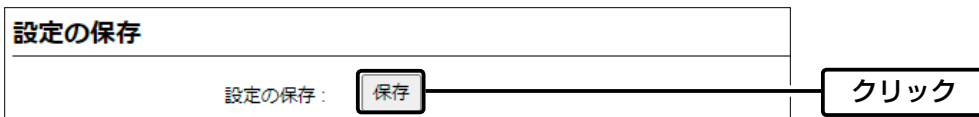
管理 > 設定の保存/復元

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、設定が異なる本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

- 1 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.1-11)
- 3 「管理」メニュー、「設定の保存/復元」の順にクリックします。
「設定の保存/復元」画面が表示されます。
- 4 「設定の保存」欄の「保存」をクリックします。



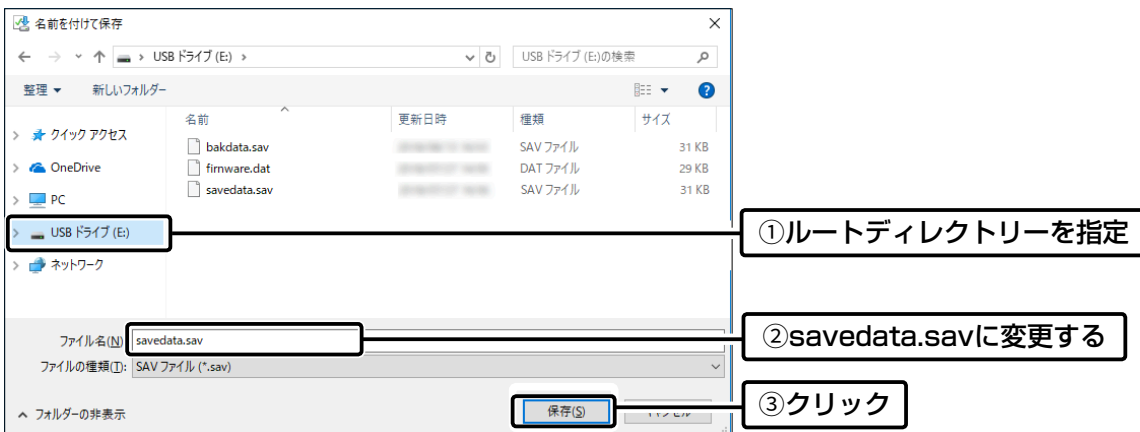
- 5 「名前を付けて保存」をクリックします。
「名前を付けて保存」画面(別画面)が表示されます。



- 6 「名前を付けて保存」(別画面)画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定し、ファイル名を「savedata.sav」に変更してから、「保存(S)」をクリックします。

※ ファイル名は、必ず「savedata.sav」に変更してください。

「savedata.sav」以外のファイル名では、USBメモリーからの復元に使用できません。



(次ページにつづく)

3 保守について

6. USBメモリーから自動で設定を復元するには

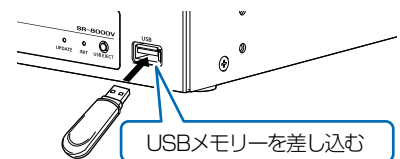
管理 > 設定の保存/復元

■ 設定ファイルを保存して復元するまでの手順

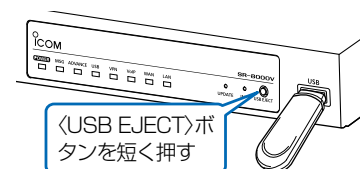
7 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

8 設定を復元する本製品を用意します。

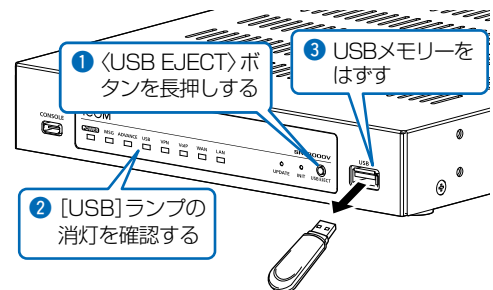
9 savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品のUSBポートに差し込みます。
USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。



10 <USB EJECT>ボタンを短く押します。
設定を復元するため、本製品が再起動します。



11 [POWER]ランプが●緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB]ランプが消灯するまで、<USB EJECT>ボタンを押しつづけます。
[USB]ランプ消灯後、本製品からUSBメモリーを取りはずします。
※USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。



ご注意

- ◎設定復元が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
途中で、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、設定ファイルの消失や故障の原因になります。
また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。
- ◎データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

ご参考

「管理」メニューの「管理ツール」画面で、[USBメモリー]欄(P.3-10)が「有効」(出荷時の設定)に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

3 保守について

7. USBメモリーからファームウェアを更新するには

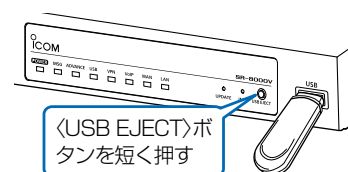
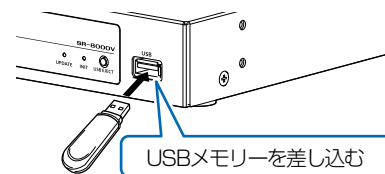
弊社ホームページからダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアを更新するまでの手順について説明します。

※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。

※更新を実行する前に、「ファームウェアの更新についてのご注意」(P.3-6)をご覧ください。

■ 更新するまでの手順

- 1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページからダウンロードして、解凍します。
- 2 ファームウェアファイルのファイル名をfirmware.datに変更します。
※ファイル名は、必ず「firmware.dat」に変更してください。
「firmware.dat」以外のファイル名は、USBメモリーからの更新には使用できません。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 firmware.datをUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 ファームウェアを更新する本製品を用意します。
- 7 firmware.datが保存されたUSBメモリーを本製品のUSBポートに差し込みます。
USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。
- 8 〈USB EJECT〉ボタンを短く押します。
ファームウェアを更新するため、本製品が再起動します。



ご注意

ファームウェアの更新が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりしないでください。
更新中に、USBメモリーを取りはずしたり、電源を切ったりすると、故障の原因になります。

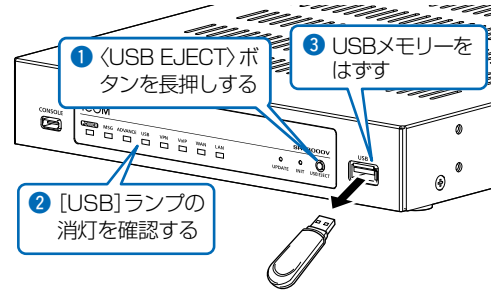
(次ページにつづく)

3 保守について

7. USBメモリーからファームウェアを更新するには

■ 更新するまでの手順

- 9 [POWER] ランプが●緑点灯に切り替わったことを確認してから、[USB] ランプが消灯するまで、〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけます。
[USB] ランプ消灯後、本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

更新後は、本製品の設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。

USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが本製品に適用されているものと同じとき、破損や本製品以外のものである場合は、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。

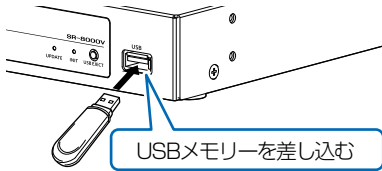
3 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

管理 > 管理ツール

オーディオファイル(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品に読み込むまでの手順について説明します。
※使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。

■ オリジナル保留音の場合

- 1 オリジナル保留音として使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
- 2 オーディオファイル名を「music1.wav」～「music3.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「music1.wav」～「music3.wav」に変更してください。
「music1.wav」～「music3.wav」以外のファイル名は、オリジナル保留音に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。
- 3 USBメモリーをパソコンに差し込みます。
- 4 USBメモリーにmusicフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
- 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

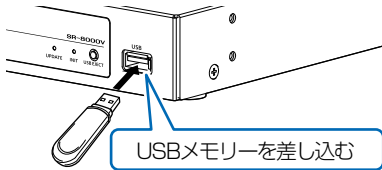
ご注意

- ◎読み込んだオリジナル保留音をご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナル保留音機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず「USB EJECT」ボタンを押しつづけ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

3 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

■ オリジナルおまたせメッセージの場合

- 1 オリジナルおまたせメッセージとして使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
 - 2 オーディオファイル名を「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更してください。
「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」以外のファイル名は、オリジナル保留音に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。
 - 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
 - 4 USBメモリーにvoiceフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
 - 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
 - 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
 - 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

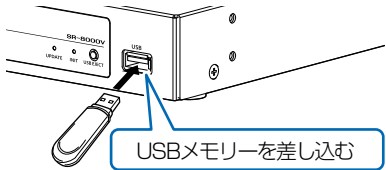
ご注意

- ◎読み込んだオリジナルおまたせメッセージをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナルおまたせメッセージ機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず〈USB EJECT〉ボタンを押しつつ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

3 保守について

8. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

■ オリジナル音声の場合

- 1 DIDボックスの応答音声として使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
 - 2 オーディオファイル名を「did_voice1.wav」～「did_voice30.wav」に変更します。
※ファイル名は、必ず「did_voice1.wav」～「did_voice30.wav」に変更してください。
「did_voice1.wav」～「did_voice30.wav」以外のファイル名は、オリジナル音声に使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.3-10)をご覧ください。
 - 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
 - 4 USBメモリーにdid_voiceフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
 - 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
 - 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
 - 7 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。
- 
- 8 USBメモリーが接続されると、[USB]ランプが●緑点灯します。

ご注意

- ◎読み込んだオリジナル音声をご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナル音声を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず〈USB EJECT〉ボタンを押しつづけ、[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしたあとに、本製品を再起動してください。

3 保守について

9. USBメモリー用の認証キーを設定するには

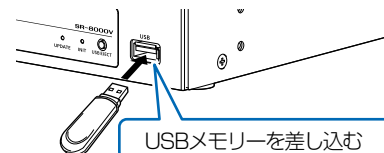
管理 > 管理ツール

本製品にUSB認証キーを設定することで、認証キーが一致するUSBメモリーを使用したときだけ、設定ファイルの自動バックアップ、設定の復元、ファームウェアの更新ができます。

■ 設定のしかた

- 1 USB認証キーの書き込みに使用するUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込みます。

※あらかじめ、USBメモリーに保存されたUSB認証キー(ファイル名: usbkey.dat)を変更する場合も、そのUSBメモリーを差し込みます。



- 2 本製品の設定画面にアクセスします。(P.1-11)

- 3 「管理」メニュー、「管理ツール」の順にクリックします。
「管理ツール」画面を表示します。

- 4 [USB設定]項目の[USB認証キー]欄に、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字64文字以内で入力して、〈登録〉をクリックします。

※USB認証キーを変更する場合は、テキストボックスの内容を削除してから入力してください。

- 5 〈書き込み〉をクリックします。

(次ページにつづく)

3 保守について

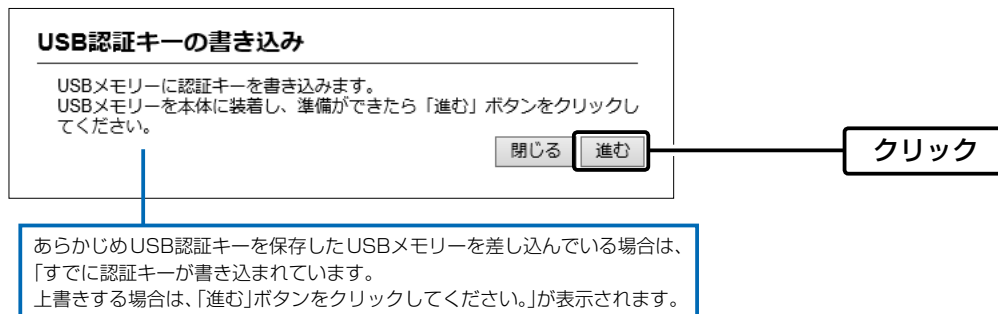
9. USBメモリー用の認証キーを設定するには

管理 > 管理ツール

■ 設定のしかた

6 「USB認証キーの書き込み」(別画面)が表示されたら、〈進む〉をクリックします。

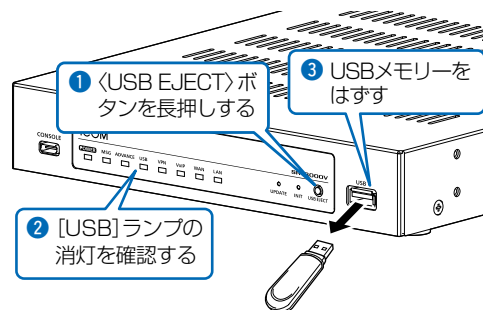
※書き込みを中止する場合は、〈閉じる〉をクリックします。



7 「認証キーの書き込みが完了しました。」が表示されたら、〈閉じる〉をクリックします。



8 本製品からUSBメモリーを取りはずします。



ご注意

データ保護のため、必ず[USB]ランプが消灯してから、USBメモリーを取りはずしてください。

この章では、
困ったときの対処法、設定画面の構成、仕様などを説明しています。

1. 困ったときは	4-2
2. Telnet/SSHで接続するには	4-4
■ Telnet/SSHコマンドについて	4-4
■ [CONSOLE]ポートを使用する	4-5
3. 設定画面の構成について	4-6
4. 機能一覧	4-10
■ 電話機能	4-10
■ ルーター機能	4-10
■ その他	4-10
5. 定格	4-11
■ 一般仕様	4-11
■ 有線部	4-11

4 ご参考に

1. 困ったときは

下記のような現象は、故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

[POWER]ランプが点灯しない

- ACアダプターが本製品に接続されていない
→ 本製品のACアダプター、およびDCプラグの接続を確認する
- ACアダプターをパソコンなどの電源と連動したコンセントに接続している
→ 本製品のACアダプターを壁などのコンセントに直接接続する

[LAN]ランプが点灯しない

- LANケーブルが本製品と正しく接続されていない
→ 本製品やパソコンの[LAN]ポート、またはLANケーブルを確認する
- パソコン、またはHUBの電源が入っていない
→ パソコンとHUBの電源が入っていることを確認する

本製品の設定画面が正しく表示されない

- WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieを無効に設定している
→ JavaScript機能、およびCookieを有効に設定する

本製品の設定画面にアクセスできない

- IPアドレスのネットワーク部が、本製品とパソコンで異なっている
→ パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部を本製品と同じにする
- ご使用のWWWブラウザにプロキシサーバーが設定されている
→ 〈スタート〉(ロゴボタン)→[設定]→[ネットワークとインターネット]にある[プロキシ]で、設定を確認する

インターネットに接続できない

- 回線接続業者に契約をしたが、工事完了、または使用開始の通知がない
→ 契約、または工事の完了日をご契約の回線接続業者に確認する
- 使用する機器のMACアドレスを登録していない
→ 登録が必要な回線接続業者の場合は、本製品の「WAN MACアドレス」(WAN側接続用ポートのMACアドレス)を登録する(P.v)
- ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)をご使用の場合で、ご契約の回線接続業者への接続方法を間違えている
→ 該当する回線種別(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)を、ご契約の回線接続業者に確認する
- ブロードバンドモデム、または回線終端装置(FTTH)が本製品と正しく接続されていない
→ ブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の場合は、本製品の回線種別の設定をご契約の回線接続業者との契約内容にしたがって変更(DHCPクライアント、固定IP、PPPoE)してから[WAN]ポートと接続する
ルータータイプモデムの場合は、[LAN]ポートと接続する
- WAN(回線接続業者)側からIPアドレスが取得できていない
→ 本製品とブリッジタイプモデム、または回線終端装置(FTTH)の接続を確認する
WAN側から取得したIPアドレスを確認するときは、「ルーター設定」メニューにある「WAN接続先」画面の「回線状態表示」に表示される内容を確認する
- DNSサーバーのIPアドレスが正しく指定されていない
→ 「ネットワーク設定」メニュー、または「ルーター設定」メニューでDNSサーバーの設定を確認する

4 ご参考に

1. 困ったときは

ルーター機能設定時に [WAN] ポート(WAN側)から本製品にアクセスできない

- 出荷時に登録されているIPフィルターの設定により、WAN側から本製品へのアクセスを遮断しているため
→ △注意 IPフィルターの変更によるセキュリティーの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

USBメモリーにアクセスできない

- 本製品のUSBメモリー機能を無効に設定している
→ 本製品のUSBメモリー機能を有効に設定する

IP電話できない

- [SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄の設定を間違えている
→ 「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面で設定を確認する
- Peer to Peerの場合、自分および相手のSIP URIが未登録であるか登録内容を間違えている
→ 自分と相手のSIP URIの登録内容を確認する

2. Telnet/SSHで接続するには

Telnet/SSHでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnet/SSHクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

※出荷時、「Telnet/SSH設定」項目の[Telnet]欄が「無効」に設定されているため、Telnetクライアントから本製品にアクセスできません。(取扱説明書[活用編])

※本製品のTelnetで採用している文字コードは、UTF-8です。

Windows標準のTelnetクライアントでは対応できない場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。

【ログインについて】

① 下記を入力して、ログインします。

login : admin (固定)

Password: admin

※「管理者」画面で設定したパスワードを入力します。(取扱説明書[活用編])

② ログインに成功すると、プロンプト SR-8000V> が表示されます。

【設定の保存について】

設定変更後、「save」を入力して[Enter]キーを押します。

※コマンド入力で保存をしていない場合、本体再起動後、設定の変更が失われます。

【ログアウトについて】

「quit」、「exit」、「logout」コマンドを実行すると、ログアウトします。

■ Telnet/SSHコマンドについて

使用できるTelnet/SSHコマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧.....	[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。 コマンド名の入力につづいて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。
コマンドヘルプ.....	コマンドの意味を知りたいときは、コマンド名につづいて、「?」を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。 例) SR-8000V> save ? (saveコマンドのヘルプを表示する場合) ※「help」を入力して[Enter]キーを押すと、全ヘルプの一覧が表示されます。 ※Windows標準のTelnetクライアントでは文字化けする場合がありますので、UTF-8に対応したターミナルソフトウェアをご使用ください。
コマンド名の補完.....	コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。 入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。 例) e[Tab]→exit 複数のコマンドがあるときは、1回目の押下でビープ音コマンドを送出し、2回目以降の押下でコマンド候補を表示します。 例) res[Tab]→reset restart ※ビープ音は、お使いのターミナルソフトウェアやOSの設定により、音の有無、音色が異なります。

4 ご参考に

2. Telnet/SSHで接続するには

■ [CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[USB]ポートを、市販のUSBケーブル(Type-C)で接続すると、ターミナルソフトウェアから設定できます。

※ご使用していただくためには、USBドライバーが必要です。

※弊社ホームページから、USBドライバーとインストールガイドをダウンロードしていただき、手順にしたがってインストールしてください。

※USBドライバーをインストールしたあと、ターミナルソフトウェアのCOMポートを下記の値に設定します。

- ◎[接続方法]の選択 : USBケーブルを接続しているCOMポートの番号を指定します。
- ◎通信速度 : 115200(ビット/秒)
- ◎データビット : 8
- ◎パリティ : なし
- ◎ストップビット : 1
- ◎フロー制御 : なし

※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「SR-8000V login:」と表示されます。

4 ご参考に

3. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザに表示される画面構成です。

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP	TOP	システム情報 MACアドレス
情報表示	ネットワーク情報	インターフェース
		Ethernetポート接続情報
		DHCPリース情報
	SYSLOG	SYSLOG
	PBX情報	内線代表一覧
		内線一覧
電話通信記録	電話通信記録	
留守電情報	留守電ボックス情報 内部メモリー/USBメモリー 録音メッセージ	
ネットワーク設定	IPアドレス	本体名称 IPアドレス設定
	DHCPサーバー	DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定
		静的DHCPサーバー設定一覧
	スタティックルーティング	IP経路情報
		スタティックルーティング設定
		スタティックルーティング設定一覧
	ポリシールーティング	送信元ルーティング設定 送信元ルーティング設定一覧
	QoS	QoS設定
		QoSルール設定
QoSルール設定リスト		
ルーター設定	WAN接続先	回線状態表示
		回線種別設定
	VoIP用WAN	回線状態表示 回線種別設定
	アドレス変換	アドレス変換設定
		DMZホスト設定
		静的マスカレードテーブル設定
		静的マスカレードテーブル設定一覧
	IPフィルター	一般設定
		IPフィルター設定
		IPフィルター設定一覧
簡易DNS	簡易DNSサーバー設定 簡易DNSサーバー設定一覧	
VPN	IPsec設定	
	IPsecトンネル設定	
	IPsecトンネル設定一覧	
システム設定	収容台数設定	収容台数設定

4 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目		
無線機コントローラー設定	RoIP通信設定	他拠点通信設定		
		VoIP拡張設定		
		テナント設定	テナント番号	
		RoIPサーバー	通話優先順位設定	
		他拠点接続	他拠点接続設定	
			他拠点設定一覧	
		近隣呼出接続	近隣呼出接続設定	
			アクセスポイント検索設定	
			近隣呼出接続設定一覧	
		無線機管理	無線機管理	
	無線機追加	TRX番号設定		
		TRX番号設定一覧		
		TRX番号一括設定		
	無線機個別	無線機個別設定		
		無線機個別設定コピー		
		無線機個別設定一覧		
	無線LAN	無線LAN設定		
		無線LAN設定一覧		
	アドレス帳	アドレス帳	アドレス帳グループ設定	
			アドレス帳グループ詳細設定	
アドレス帳設定の保存と書き込み				
アドレス帳設定				
アドレス帳設定一覧				
メッセージ	メッセージ	メッセージグループ設定		
		メッセージグループ詳細設定		
		メッセージ設定の保存と書き込み		
		メッセージ設定		
プレゼンス	設定グループ詳細	プレゼンス設定		
		設定グループ設定一覧		
		設定グループ設定		
呼出先設定	呼出先設定	設定グループ一括設定		
		呼出先設定		
		呼出先設定一覧(全体)		
		呼出先設定一覧(グループ)		
		呼出先設定一覧(トークグループ)		
		呼出先設定一覧(管理用トークグループ)		
		呼出先設定一覧(個別)		
		呼出先設定一覧(電話)		
		呼出先一括設定		
		電話回線設定	IP回線	SIPサーバー接続共通設定
				SIPサーバー設定
SIPサーバー設定一覧(契約者番号)				
SIPサーバー設定一覧(追加番号)				
回線グループ	回線スライド設定			
	回線グループ設定			
	回線グループ設定一覧			
Peer to Peer	Peer to Peer共通設定			
	Peer to Peer設定			
	Peer to Peer設定一覧			

4 ご参考に

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
電話回線設定(つづき)	VoIP電話帳	VoIP電話帳の保存と書き込み
		VoIP電話帳への登録
		VoIP電話帳登録一覧
PBX設定	基本	基本設定
	特番	特番設定
		無線機呼出プレフィクス設定
		外線発信特番設定
	内線個別	内線設定
		内線設定一覧
		内線一括設定
		内線設定コピー
	内線代表	内線代表設定
		内線代表設定一覧
	着信	着信設定
	電話帳	設定グループの選択
		電話帳の保存と書き込み
		電話帳への登録
電話帳登録一覧		
PBX内線詳細設定	電話機管理	電話機管理
	電話機(IP200H)	電話機設定
		機種個別設定(IP200H)
		電話機音設定
	電話機(IP200PG)	電話機設定
		機種個別設定(IP200PG)
		電話機音設定
	電話機(KX-UTシリーズ)	電話機設定
		電話機音設定
		着信音パターン
		着信音パターン割り当て
	電話機(KX-HDVシリーズ)	電話機設定
		電話機音設定
		着信音パターン
		着信音パターン割り当て
	増設ユニット(KX-HDV230) (1~5)	電話機設定
		機種個別設定(KX-HDV230)
		ボタン割当(ページ1)
		ボタン割当(ページ2)
	TEL(1~4)	TEL設定
無線機コントローラー電話接続	無線機コントローラー電話接続設定	
	通信設定	
	制御設定	
	音声送信制御設定	
	音声受信制御設定	
	V/RoIP制御設定	
	自動切断タイマー設定	

3. 設定画面の構成について

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX拡張設定	拡張	SIP拡張設定
		VoIP設定
	番号計画	電話番号ルーティング設定
		電話番号ルーティング設定一覧
		番号計画例外ルール
		発信先番号変換ルール設定
		発信先番号変換ルール一覧
		発信規制ルール設定
		発信規制ルール一覧
	外線サービスグループ	外線サービスグループ設定
	昼夜切替	昼夜切替曜日設定
		昼夜切替日付設定
	夜間転送先	夜間転送先設定
	通話数制限	通話数制限設定(システム全体)
		通話数制限設定
	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ接続設定
		ゲートウェイ接続設定一覧
	番号表示変換	発信元回線設定
		番号表示変換ルール設定
		番号表示変換ルール設定一覧
DIDボックス	使用するボックス	
	DIDボックス設定	
	DIDボックス設定一覧	
管理	管理者	管理者パスワードの変更
		ユーザー画面 管理設定
	時計	時刻設定
		自動時計設定
		SNTPサーバー設定
	SYSLOG	SYSLOG設定
	SNMP	SNMP設定
		SNMPv3設定
	管理ツール	USB設定
		HTTP/HTTPS設定
		Telnet/SSH設定
		UID確認
	ネットワークテスト	PINGテスト
		経路テスト
	再起動	再起動
		設定の保存/復元
	設定の復元	
	設定内容一覧	
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェア情報
オンライン更新		
自動更新		
手動更新		
内蔵ファームウェアの更新	内蔵ファームウェア情報	
	オンライン更新	

4. 機能一覧

■ 電話機能

- 内線登録(SIP:300+TEL:4)
- 上位SIPサーバー接続(300件)
- IP電話事業者対応★
- 内線代表着信
- 外線保留/外線応答
- マルチラインキー
- パーク保留/パーク応答
- 代理応答
- 保留転送
- 不在転送/不応答転送
- 多機能電話機設定対応
- 電話帳設定(共通900件/グループ100件)
KXシリーズ、IP200H用
- エコーキャンセラー
- ナンバーディスプレイ
- Peer to Peer(電話帳3000件)
- 留守番電話
- 非通知着信お断り機能
- ユーザーポータル
- 迷惑電話お断り機能(指定着信機能)
- 昼夜切替設定機能
- ダイヤルイン
- 回線グループ機能
- 電話番号ルーティング機能
- 外線着信転送機能
- 着信おませ機能
- 回線閉塞機能
- ゲートウェイ接続
- ダイレクトインダイヤル機能(DID機能)
- 番号表示変換
- 発信番号変換
- 発信番号規制
- 外線通話本数制限
- 保留音選択(内蔵5+ユーザー登録3)
- オリジナル保留音
- オリジナルおませメッセージ
(着信おませ機能で使用する自動応答メッセージ)
- オリジナル音声
(DID機能で使用する応答音声)

★ NTTのフレッツ 光ネクスト、フレッツ 光ライト(インターネット接続サービス)で提供する「ひかり電話サービス」に対応しています。(2022年10月現在)

■ ルーター機能

- PPPoE接続
- IPマスカレード
- 固定IP接続
- 静的マスカレード
- DHCPクライアント接続
- DMZ
- DHCPサーバー
- 静的DHCPサーバー
- スタティックルーティング
- DNS代理応答
- IPフィルター
- QoS
- VPN

■ その他


- 接続制限機能(管理者ID/パスワード)
- 内部時計設定
- ファームウェアの更新(WEB/USB)
- 設定保存/復元(WEB/USB)
- WWWメンテナンス(HTTP/HTTPS)
- TELNETメンテナンス(TELNET/SSH)
- コンソールメンテナンス(USB)
- オンラインファームアップ(自動/手動)

4 ご参考に

5. 定格

定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

■ 一般仕様

- 電 源** : DC12V±10%[DCプラグ極性：⊖⊕]
※ACアダプター(付属品)は、AC100V±10%
最大33W(付属のACアダプター使用時)
- 使 用 環 境** : 温度0～40℃、湿度5～95%(結露状態を除く)
- 外 形 寸 法** : 約213(W)×36.8(H)×242(D)mm(突起物を除く)
- 重 量** : 約1.5kg(付属品を除く)
- 適 合 規 格** : クラスB情報技術装置(VCCI)
- インターフェース** : ランプ(POWER、MSG、ADVANCE、USB、VPN、VoIP、WAN、LAN)
ボタン(UPDATE、INIT、USB EJECT)
[USB]ポート : USB Aタイプ(USB3.0)
[CONSOLE]ポート : USB Type-C(USB2.0)

■ 有線部

- インターフェース** : [WAN]ポート(RJ-45型)×1 (Auto MDI/MDI-X)
[LAN]ポート(RJ-45型)×1 (Auto MDI/MDI-X)
●IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
●IEEE802.3ab/1000BASE-T準拠
●IEEE802.3bz/2.5GBASE-T準拠
[TEL]ポート(RJ-11型)×4
- 通 信 速 度** : 100/1000/2500Mbps(自動切り替え/全二重)

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

